

お茶の水女子大学教育情報の公表レビュー

(学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行により公開)



平成 23 年 7 月

目 次

1. 大学の教育研究上の目的に関すること	
(1) 文教育学部の目的	2
(2) 理学部の目的	2
(3) 生活科学部の目的	2
(4) 大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程の目的	3
(5) 大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程の目的	3
2. 教育研究上の基本組織に関すること	
(1) 学部	4
(2) 大学院人間文化創成科学研究科	4
(3) 学内共同教育研究施設	5
3. 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること	
(1) 教員組織、運営組織図	9
(2) 教員数	12
(3) 各教員が有する業績、学位	14
4. 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、退学者数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること	
(1) 入学者受入方針	16
(2) 入学者数、在学者数、収容定員、編入学定員、編入者数	47
(3) 退学者数、退学率	49
(4) 卒業者数、修了者数、進学者数、就職者数	51
(5) 就職先及び進学先の状況	52
5. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること	53
6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること	
(1) 学部の必修科目、選択科目及び自由科目の区分ごとの必修単位修得数	54
(2) 学部の成績評価	55
(3) 大学院の修了要件	57
(4) 大学院の成績評価	57
(5) 取得可能な学位	57
(6) 取得可能な資格関係	58
7. 校地、校舎等の施設及び設備に関すること	
(1) 所在地	61
(2) 主な交通手段	61
(3) キャンパス概要	62
(4) 運動施設の概要	62
(5) 休息など行える施設	62
8. 学生の教育研究環境に関すること	
(1) 附属図書館の学習環境	63
(2) 課外活動の状況	66
(3) 学部・大学院の学習環境	67
(4) 情報教育の学習環境	69
9. 授業料、入学科その他の大学が徴収する費用に関すること	
(1) 授業料等費用	69
(2) 利用できる授業料免除の概要	72
10. 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること	
(1) 学内の学生支援組織	73
(2) 利用できる奨学金の概要	73
(3) 留学生支援、障害者支援など大学が取り組む様々な学生支援の状況	75
11. 教育プロジェクト（特別経費等）実施事業	76

1. 大学の教育研究上の目的に関すること（学則を抜粋）。 【担当：教務チーム】

(1) 文教育学部の目的

文教育学部は、人文・社会科学系の学問を中心に、講義、演習、実験、実習等の多様な授業を通じて、学術研究のための確かな基礎と、国際的に通用する問題発見能力、情報処理能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を備えた人材を養成することを目的とする。

各学科の目的は、次のとおりとする。

① 人文科学科

人文科学科は、人類の様々な歩みの中の現象を広く文化として捉え、深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理した上で、独自の論理を築きあげる総合的な力を有する人材を養成する。

② 言語文化学科

言語文化学科は、人間の言語活動や様々な言語表現の本質について深い知見を有するような人材、また、個々の言語に関して高い運用能力を有するような人材、更には各言語圏に固有の文化とそれら相互間の交流について幅広い知識を有するような人材を養成する。

③ 人間社会科学科

人間社会科学科は、社会学、教育科学、心理学の幅広い基礎知識、深い専門的及び応用的知識を習得し、人間に対する深い理解に基づき、世界的視野に立って社会の広い分野において主導的役割を果たすことができる人材を養成する。

④ 芸術・表現行動学科

芸術・表現行動学科は、音楽や舞踊に代表される芸術及び表現行動を理論的研究と実践の両面から追求し、現代的問題への対応に適用できるような人材を養成する。

(2) 理学部の目的

理学部は、理学の基礎知識を修得し、大学院において高度な教育を受けるための能力を有する人材及び理学の基礎知識を活用し社会の多様な分野において主導的役割を果たすことができる人材を養成することを目的とする。

各学科の目的は、次のとおりとする。

① 数学科

数学科は、数学的素養と論理的思考力を備え社会の様々な分野で主導的役割を果たすことができる人材及び現代数学の基礎知識と数学的論理思考を身に付け数理的諸科学の発展に貢献できる人材を養成する。

② 物理学科

物理学科は、自然科学の基礎である物理学の基礎知識を修得し、それを実際の問題に適用して解決する能力を身に付けた人材を養成する。

③ 化学科

化学科は、様々な物質から成り立つ自然界を、原子・分子の構成とその変化の視点で捉え、得られた知識を体系化しつつ、化学の諸分野はもとより、生物学、物理学などの基礎分野から、工学や薬学、農学、医学、地球科学、情報学など多彩な応用分野まで幅広く展開できる人材を養成する。

④ 生物学科

生物学科は、「生き物」の複雑で多様な生命現象を科学的に解析する力を養い、幅広い知識に基づいた柔軟で論理的な思考力を有して豊かな人間社会の構築に貢献できる人材を養成する。

⑤ 情報科学科

情報科学科は、20世紀に登場し新しい科学の対象となった「情報」というものを探究するための基礎となる知識や方法論と、その種々な応用の実態を学び、更にその成果の上に、これらを自ら開拓するための研究力の基礎を身に付けた人材を養成する。

(3) 生活科学部の目的

生活科学部は、自然・人文・社会科学的教養に基づき、人間と生活についての総合的な学識を身に付け、生活者の立場から、社会で活躍できる優秀な人材を養成することを目的とする。

各学科の目的は、次のとおりとする。

① 食物栄養学科

食物栄養学科は、人間の「食」を自然科学的かつ総合的に捉え、豊かな食生活や健康な社会を実現するために、食物と栄養について科学的知識と実践的能力を備えた人材を養成する。

② 人間・環境科学科

人間・環境科学科は、生活者たる人間と環境との相互作用に関する深い理解を備え、科学的手法を応用して、生活面での諸課題に対して人間と環境が共存しうる方策を考案し、かつ、実社会にて実践できる優秀な人材を養成する。

③ 人間生活学科

人間生活学科は、個人の発達や心の健康、人間と社会の関係、生活と文化について、多角的な視点と複合的なアプローチを駆使し、人間と生活を総合的に理解し、分析する力を備えた優秀な人材を養成する。

(4) 大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程の目的

広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要高度の能力を養うことを目的とする。

博士前期課程各専攻の目的は、次のとおりとする。

- ① 比較社会文化学専攻は、言語、思想、歴史、芸術を軸とする人文諸科学に関する高度な専門性を構築し、幅広い教養に基づいた学際的で豊かな研究能力を備えた人材を養成する。
- ② 人間発達科学専攻は、教育科学、心理学、発達臨床心理学、社会学、保育・教育支援における基本的な研究能力とともに、人間の心の発達と社会環境に関する諸問題を学際的視点に基づき総合的・有機的に結びつける能力を身につけた人材を養成する。
- ③ ジェンダー社会科学専攻は、人間・生活・社会・環境をめぐる現代的諸問題を、生活政策学、地理環境学、開発・ジェンダー論の観点から解明しうる新しい学識の獲得をはかり、国際的な視野をもつ人材を養成する。
- ④ ライフサイエンス専攻は、生命科学、生活科学の学問領域の有機的な統合を試み、人間を生命、生活の両面から捉え、ライフサイエンス全般を基礎から応用まで幅広く理解できる人材を養成する。
- ⑤ 理学専攻は、数学、物理学、化学・生物化学、情報科学の各分野において高度の専門的能力を有し、境界領域分野や未知の分野の学問を切り拓くことに意欲的な人材を養成する。

(5) 大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程の目的

高度の専門研究及び専門諸分野の基礎に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

博士後期課程各専攻の目的は、次のとおりとする。

- ① 比較社会文化学専攻は、人間・社会・文化のありように対応した人間理解・社会把握・文化構造の再考と、それに伴う領域横断的な視野を備え、多文化の相互理解に立脚した学際的・国際的な研究を推進する高度な研究者、専門職業人を養成する。
- ② 人間発達科学専攻は、教育科学、心理学、発達臨床心理学、社会学、社会政策学、保育学、児童学における高度な研究能力とともに、人間の心の発達と社会環境に関する学問領域について学際的視野に基づき創造的な研究を推進する高度な研究者、専門職業人を養成する。
- ③ ジェンダー学際研究専攻は、社会科学・人文科学・自然科学の諸学問領域を土台として、ジェンダーの視点から様々な研究課題群を分析し、問題意識に応じて学問領域を深めるとともに、研究課題に対し学際的な視点からの考察と提言ができる高度な研究者、専門職業人を養成する。
- ④ ライフサイエンス専攻は、生命科学、生活科学の学問領域の有機的な統合を試み、人間を生命、生活の両面から捉え、ライフサイエンスの諸領域を土台に、高度な専門知識と研究能力を有する、研究者、専門職業人を養成する。
- ⑤ 理学専攻は、自然界の複雑な諸現象を現代自然科学の方法論に基づいて学際融合的に教育研究し、高い専門性を基礎として新しい科学の創成を目指しつつ、幅広い知識と視野をもつ、次世代を担う高度な研究者、専門職業人を養成する。

2. 教育研究上の基本組織に関すること。 【担当：ファカルティ支援チーム】

(1) 学 部

	学 科	講 座
文 教 育 学 部	人 文 科 学 科 言 語 文 化 学 科	形象分析学講座、哲学講座、比較歴史学講座、地理学講座 日本語・日本文学講座、中国語圏言語文化講座、英語圏・欧州言語文化講座、 応用言語学講座、日本語教育講座
	人 間 社 会 科 学 科 芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科	応用社会学講座、教育科学講座、心理学講座 舞踊教育学講座、音楽表現講座
理 学 部	数 学 科	数理構造講座、数理解析講座
	物 理 学 科	基礎物理学講座、物性物理学講座
	化 学 科	構造化学講座、反応化学講座
	生 物 学 科	構造生物学講座、機能生物学講座
	情 報 科 学 科	情報数理講座、情報処理講座
生 活 科 学 部	食 物 栄 養 学 科	食物栄養学講座
	人 間 ・ 環 境 科 学 科	人間・環境科学講座
	人 間 生 活 学 科	発達臨床心理学講座、生活社会科学講座、生活文化学講座

(2) 大学院 人間文化創成科学研究科

教育院

	専 攻	コ ー ス ・ 領 域
博 士 前 期 課 程	比較社会文化学専攻	日本語日本文学コース、アジア言語文化学コース、英語圏・仏語圏言語文化学コース、日本語教育コース、思想文化学コース、歴史文化学コース、生活文化学コース、舞踊・表現行動学コース、音楽表現学コース
	人間発達科学専攻	教育科学コース、心理学コース、発達臨床心理学コース、応用社会学コース、保育・児童学コース
	ジェンダー社会科学専攻	生活政策学コース、地理環境学コース、開発・ジェンダー論コース
	ライフサイエンス専攻	生命科学コース、人間・環境科学コース、食品栄養科学コース、遺伝カウンセリングコース
	理学専攻	数学コース、物理科学コース、化学・生物化学コース、情報科学コース
博 士 後 期 課 程	比較社会文化学専攻	国際日本学領域、言語文化論領域、比較社会論領域、表象芸術論領域
	人間発達科学専攻	教育科学領域、心理学領域、発達臨床心理学領域、社会学・社会政策領域、保育・児童学領域
	ジェンダー学際研究専攻	ジェンダー論領域
	ライフサイエンス専攻	生命科学領域、人間・環境科学領域、食品栄養科学領域、遺伝カウンセリング領域
	理学専攻	数学領域、物理科学領域、化学・生物化学領域、情報科学領域

研究院

	系	概 要
基 幹 部 門	文化科学系	哲学、思想、倫理学、美術史学、歴史学、考古学、生活文化学、民俗学、文学、言語学、日本語教育、音楽学、スポーツ科学、舞踊学などの分野を研究している教員が所属しています。教育面では、おもに文教育学部や、生活科学部、それに大学院の比較社会文化学専攻での授業や学生指導を担当しています。また、文化科学系の教員が中心となって、研究活動や国際シンポジウムを開催している組織として、比較日本学教育研究センターがあります。ジェンダー研究センターの運営や研究活動にかかわる教員が多いのも特徴です。このほか文化科学系の教員は、外国語教育センターをはじめとして、グローバル教育センターなど、本学の教育の基幹部門も支えています。

	人間科学系	教育科学、心理学、発達臨床心理学、社会学、保育・児童学、ジェンダー研究、生活政策学、地理環境学、開発研究などの分野を研究している教員およそ40名が所属しております。日本における人間に関する諸問題に取り組むとともに、国際的な文脈の中で研究を位置づけ、海外に研究成果を発信していきたいと考えています。
	自然・応用科学系	自然科学および応用科学の研究を行っている約80名からなる教員集団です。大学の教員は教育と研究を担当しており、自然・応用科学系の教員は、理学部（数学科、物理学科、化学科、生物学科、情報科学科）の専門教育または生活科学部の理系の専門教育（食物栄養学科、人間・環境科学科）を担当している教員集団です。大学院教育からみれば、ライフサイエンス専攻と理学専攻を担当している教員集団といえます。また、本学にはいくつかのセンターがありますが、自然・応用科学系の一部の教員は、生活環境教育研究センター、糖鎖科学教育研究センター、ライフワールド・ウォッチセンター、ソフトマター教育研究センター、湾岸生物教育研究センター、サイエンス&エデュケーションセンター、情報基盤センター、ラジオアイソトープ実験センター、保健管理センターでも研究活動を続けております。
先端融合部門	先端融合系	先端融合という分野は時代とともに変化していくものであるため、およそ5年を目途に教員の配置換えが行われる予定ですが、今後社会のニーズに応えるお茶の水女子大学における重要な教育研究拠点に発展していくことを想定しております。

(3) 学内共同教育研究施設

①教育開発センター

平成21年度から、全学教育システム改革推進本部のもとに設置しました。教育カリキュラムの開発、授業評価など教育効果の測定、教職員やティーチング・アシスタントの研修など、教育の質を高めるための取組を、学部や大学院と連携して、企画・運営・実施しております。

<https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/CRDESite/top.html>

②外国語教育センター

外国語教育の改善及び推進を行い、学生の語学力及び異文化に対する理解力の向上を図り、高度教養教育を推進し、もって国際社会において活躍する人材の育成を行うことを目的として運営しております。

<http://www.ocha.ac.jp/intl/le/>

③総合学修支援センター

複数プログラム履修相談、GPA制度、カラーコードベンチマークに関する相談など、総合的な学修相談や学修の支援を行うことを目的として、新たに平成23年度から運営しております。

<http://www.ocha.ac.jp/nsep/popp/supports/index.htm>

④グローバル教育センター

外国人留学生及び海外留学を希望する日本人学生に対し、修学及び生活に必要な教育・指導助言を行うとともに、地域と連携した留学生のための支援事業を実施することにより、本学の国際交流の推進に寄与することを目的として運営しております。

<http://www.cf.ocha.ac.jp/gec/>

<http://www.ocha.ac.jp/intl/ipo/index.html>

⑤グローバル協力センター

開発途上国の女子教育に関する研究および国際協力活動を行い、国際社会へ貢献することを目的に平成15年度に設立しました。平成14年度から開始された、五女子大学コンソーシアムによるJICAアフガニスタン女性教員研修など女子教育に関する協力事業を実施・研究する女子教育協力研究部門と、開発途上国、特にアフリカ中西部諸国における幼児教育に関する協力事業を実施・研究する幼児教育協力研究部門を加えた2部門で活躍が進められています。

<http://www.ocha.ac.jp/intl/cwed/>

⑥生活環境教育研究センター

生活環境教育研究センターは、人間生活と環境とのかかわりあいについて多面的に考察し、快適な生活のための環境に関する総合的研究を行い、もって教育研究の進展に資することを目的として運営しております。

<http://www.cf.ocha.ac.jp/ieshl/>

⑦糖鎖科学教育研究センター

糖鎖科学教育研究センターは、本学のもつ伝統的な糖鎖の研究基盤を基礎とし、糖鎖の持つ様々な情報解析を中心に独自性を持った研究を展開すること、糖鎖を含む広範な生命科学の研究に従事できる有能な人材を養成すること、さらに、社会に向かってそれらの科学的知識の重要性を発信することを目的として運営しております。

<http://www.cf.ocha.ac.jp/tousa/index.htm>

⑧ソフトマター教育研究センター

ソフトマターは次世代の新機能性物質の中心的役割を果たす事が期待される工業的応用の観点から、また物理学と生物学の境界領域における物質であるという観点から21世紀における物理学のフロンティアとして非常に注目されている研究領域であります。このような背景から日本ではまだ注目される機会の少ないソフトマター物理学の充実を目指して研究体制の確立を進め、平成16年度の国立大学法人化とあわせて、総合的なソフトマター研究および教育を強力に推進するために研究センターを設立いたしました。

<http://www.phys.ocha.ac.jp/softmatter/index.html>

⑨比較日本学教育研究センター

比較日本学教育研究センターは、日本学研究の国際的な交流とネットワークの形成を目的として平成16年4月に発足しました。世界各地で行なわれている日本学研究を結びつけて、交流を促進しつつ国際共同研究を推進します。国際日本学シンポジウムを開催するとともに、共同研究プロジェクトを作り国際的・学際的情報ネットワークの構築を進めております。

<http://www.cf.ocha.ac.jp/ccjs/>

⑩生命情報学教育研究センター

生命情報学教育研究センターは、生物学の全領域を対象として、生命を原子・分子のレベルから捉え、ゲノム塩基配列、タンパク質の構造や相互作用、細胞の形などのデータを情報科学の方法論を用いて系統的に解析するバイオインフォマティクスとシステムバイオロジーの教育および研究を行うことを目的として運営しております。

<http://cib.cf.ocha.ac.jp/index.xml>

⑪シミュレーション科学教育研究センター

シミュレーション科学教育研究センターは、文理融合型の研究拠点を形成し、シミュレーションの諸手法を収集、共有、分析し、それらを統合・発展させ、生活者の視点に立って社会的に重要な種々の問題解決を図ることを目的として運営しております。

<http://www.cf.ocha.ac.jp/simulation/index.html>

⑫教育研究特設センター

教育研究特設センターは、外部資金プロジェクトを遂行し、本学の研究及び教育に資することを目的として運営しております。

⑬情報基盤センター

情報基盤センターは、学生の皆様のITライフを支援するために、情報教育の提供や環境整備を行っております。また、本学の情報化を推進し、研究及び教育の向上と事務処理等の効率化に寄与することを目的として運営しております。

<http://www.cc.ocha.ac.jp/>

⑭共通機器センター

共通機器センターは、教育研究の一層の充実と便宜のために、大型機器および共通性の高い機器の共同利用を円滑に行うことを目的として運営しております。

<http://kikicent.cf.ocha.ac.jp/>

⑮ラジオアイソトープ実験センター

ラジオアイソトープ実験センターは、放射線を利用した学術的な研究・教育及び放射線の安全管理、放射線を取り扱う研究者・学生の健康管理を行うことを目的として運営しております。

<http://www.ocha.ac.jp/radioisotope/top.html>

⑯動物実験施設

動物実験施設は、動物実験に関する教育研究及び調査を行うとともに、動物実験の研究者の養成に資することを目的として運営しております。

<http://www.ocha.ac.jp/animal/index.html>

⑰湾岸生物教育研究センター

本学の海洋科学に関する教育研究を行うことを目的に、昭和45年4月に千葉県館山市に理学部附属臨海実験所として設置し、平成16年4月から現在の湾岸生物教育研究センターに改組しました。

これまで、関東近郊の多くの大学・高校の臨海実習を受け入れ、他大学との連携を強化し、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等の有効活用を推進するなど、大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開してまいりました。

平成23年4月、文部科学大臣よりその実績が認められ「東京湾口の浅海性・深海性生物の体験的な理解から科学的な認識を育む教育拠点」として、本センターは教育関係共同利用拠点に認定されました。(認定期間 平成23年度～平成27年度)

今後は、更に、センター周辺の豊富な生物相と専門・教職・教養の各種実習に対応した内容から、利用大学の目的に応じたオーダーメイド型の臨海実習を構築し、公募によって幅広く利用されることとなります。

<http://www.ocha.ac.jp/attached/index.html>

⑱サイエンス&エデュケーションセンター

サイエンス&エデュケーションセンターは、本学における研究成果を基盤として、科学教育コンテンツの開発・実施と、科学コミュニケーターを養成することで、科学文化の醸成を目指すことを目的として運営しております。

<http://www.cf.ocha.ac.jp/SEC/>

⑲ライフワールド・ウォッチセンター

科学・技術の発展により多くの人々が豊かで便利な生活を享受できるようになった反面、環境汚染や地球温暖化などの問題が現れそして飢餓や疫病の脅威が続いております。特に化学物質や生物による人の健康や環境への影響について世界的に関心が高まっております。ライフワールド・ウォッチセンターは、人々が安全に安心して暮らせる世界の構築を目指して、関係諸機関と連携して化学物質管理に係る国際的な動向や国内法体系の調査研究を行うとともに、化学物質の総合的な管理のあり方に関して社会に提言しています。また、化学物質とともに人の健康に大きな影響を与える病原菌などの生物の管理や生活・社会に大きな変化を与える技術革新に関する調査研究を行い広く社会に発信することを目的として運営しております。

<http://www.lwwc.ocha.ac.jp/>

⑳保健管理センター

保健管理センターは、皆さんの健康を保持・増進し、病気の予防や早期発見につとめ、学業が病気で妨げられないようにし、皆さんのキャンパスでの生活を質の高いものにすること、また保健管理をさらに充実・向上させるための調査・研究を行うことを目的として運営しております。

<http://www.ocha.ac.jp/healthho/index.html>

㉑学生支援センター

大学生活全般における悩みや心配事の相談については学生相談室で対応支援し、セクシャル・ハラスメントその他の人権侵害の対応についてはセクハラ・人権相談室で対応しております。さらに、留学生に対する、研究・学修・生活面での教育的援助活動を行うことを目的として運営しております。

http://www.ocha.ac.jp/gss/support_center/

㉒キャリア支援センター

キャリア支援センターでは、皆さんのキャリア支援、就職支援を行うことを目的としております。具体的なプログラムとして、a) 06就活ネットワークの構築、b) 就職アドバイザーによる企業と学生のマッチング、c) 働く力の証明となる「就活パスポート」の発行、d) 企業とタイアップしたキャリア・セミナーの開講などがあります。これらにより、働き続ける力、管理職に必要な意識と実行力を養成いたします。

そして、キャリア支援センターは、これらのプログラムの企画・運営を行い、これまでのキャリア・就職関係のガイダンスや学生の就職支援を行います。

<http://www.cf.ocha.ac.jp/csc/>

㉓人間発達教育研究センター

人間発達教育研究センターは、子どもの発達過程の解明を基礎として、より良い養育や保育、教育のあり方を提案していくこと。平成20年4月からは、さらに視点を広げて、生涯にわたる人間の発達に関する総合的な研究、社会的格差と人間発達科学との関連に関する研究、子どもの発達と教育に関わる実践的な開発研究を行い、また大学と本学附属学校との研究上の連携全般の企画・調整を行うことを目的として運営しております。

<http://www.cf.ocha.ac.jp/rchde/>

㉔ジェンダー研究センター

ジェンダー研究センターはジェンダーに関する総合的・国際的な研究を行い、研究者の育成に資することを目的としております。本センターはこれまでの女性学研究を、さらにジェンダーの視点から発展させることを目指しており、また、国内外から客員研究員を招聘し、特にアジアにおけるジェンダー研究を推進し、国際的な共同研究を行うことを目的として運営しております。

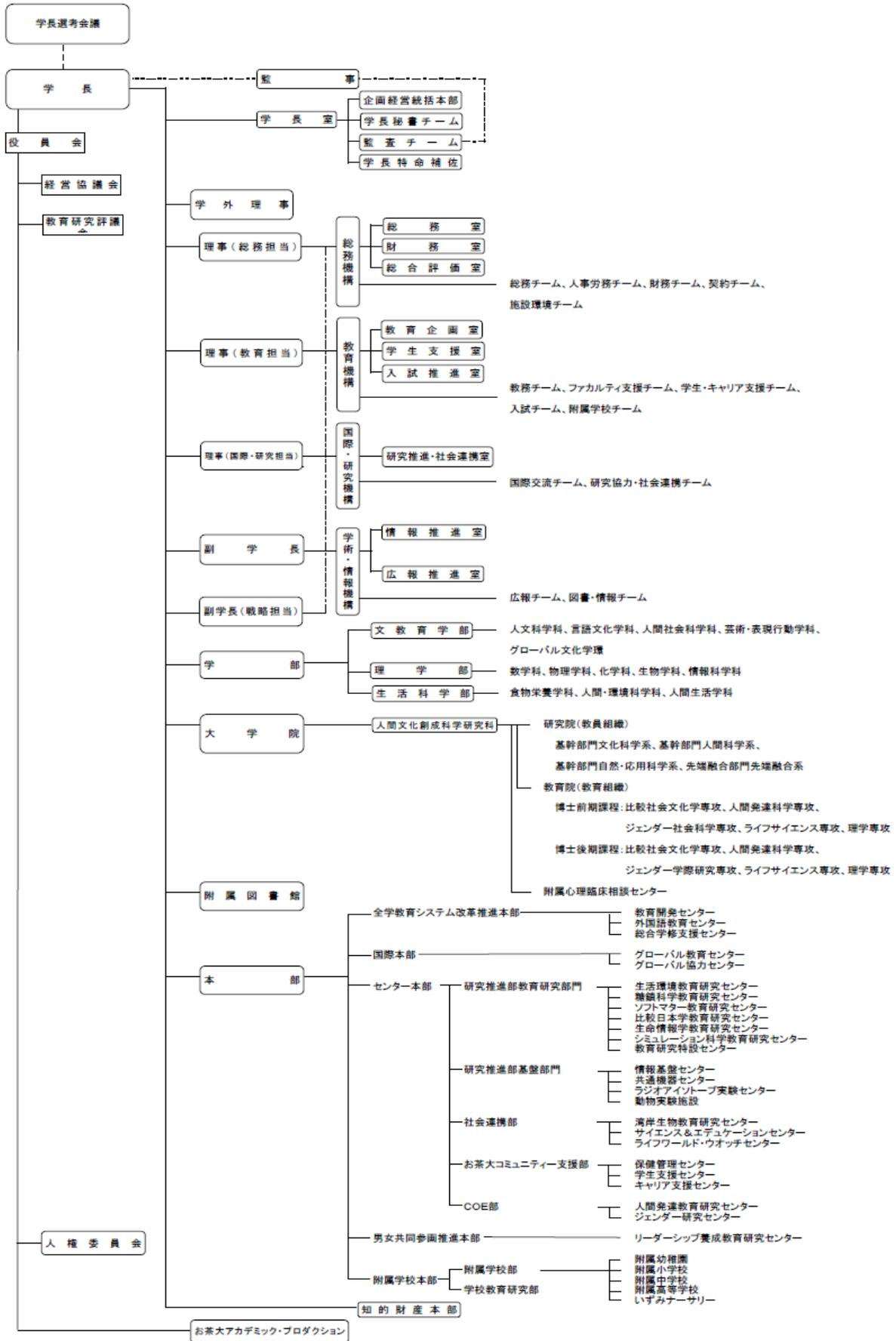
<http://www.igs.ocha.ac.jp/>

㉕リーダーシップ養成教育研究センター

リーダーシップ養成教育研究センターは、グローバル化した現代社会において求められているリーダーシップに関する研究および教育を行います。グローバル化のみならず、高度に専門化した現代世界において、広い視野と指導力を有する人材の育成は大学における研究と教育を基礎とする。本学が展開する「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」を基盤に、新たなリーダーシップの研究を展開し、その成果を教育に反映させることを目的として運営しております。

<http://www.cf.ocha.ac.jp/leader/index.html>

②運営組織図 (H23.5.1 現在) 【担当：総務チーム】



(2) 教員数【担当：総務チーム】

① 法令上必要な専任教員数

学部の収容定員 1,868 名に対する専任教員数は 182 名（うち教授 106 名）であり、法令上の基準（必要な専任教員数 97 名（うち教授 53 名））は遵守しています。大学院の収容定員 625 名に対する研究指導教員数は 324 名（うち教授 224 名）、研究指導補助教員数は 48 名であり、法令上の基準（必要な研究指導教員数 53 名（うち教授 39 名）、研究指導補助教員数 14 名）は遵守しています。

□ 学 部

(H23. 5. 1 現在)

		収容定員	教授	准教授	講師	助教	計	大学設置基準上必要な専任教員数	(うち教授)	助手
文 教 育 学 部	人文学科	220	13	7	0	1	21	6	(3)	
	言語文化学科	320	14	11	0	2	27	6	(3)	
	人間社会科学科	160	12	3	0	0	15	6	(3)	
	芸術・表現行動学科	108	5	4	0	0	9	5	(3)	
	学部共通	20	2	0	0	0	2			
	小 計	828	46	25	0	3	74	23	(12)	
理 学 部	数学科	80	5	2	3	0	10	7	(4)	
	物理学科	80	10	2	0	1	13	7	(4)	
	化学科	80	6	4	0	1	11	7	(4)	
	生物学科	100	9	5	1	0	15	7	(4)	1
	情報科学科	160	6	4	1	0	11	8	(4)	
	学部共通	20	2	0	1	0	3			
	小 計	520	38	17	6	2	63	36	(20)	1
生 活 科 学 部	食物栄養学科	144	7	4	1	1	13	5	(3)	1
	人間・環境科学科	96	4	2	0	1	7	5	(3)	
	人間生活学科	260	11	14	0	0	25	7	(4)	
	学部共通	20	0	0	0	0	0			
	小 計	520	22	20	1	2	45	17	(10)	1
大学全体の収容定員に応じた教員数		1,868						21	(11)	
学 部 合 計		1,868	106	62	7	7	182	97	(53)	2

□ 大学院 人間文化創成科学研究科博士前期課程

(H23. 5. 1 現在)

	収容定員	研究指導教員数	(うち教授)	研究指導補助教員数	計	大学設置基準上必要な研究指導教員数	(うち教授)	大学設置基準上必要な研究指導補助教員数	大学設置基準上必要な教員数 計
比較社会文化学専攻	120	53	(33)	5	58	6	(4)		6
人間発達科学専攻	54	26	(16)	0	26	3	(2)	3	6
ジェンダー社会科学専攻	36	18	(11)	0	18	4	(3)	2	6
ライフサイエンス専攻	94	40	(27)	5	45	7	(5)		7
理学専攻	102	40	(27)	5	45	8	(6)		8
小 計	406	177	(114)	15	192	28	(20)	5	33

□大学院 人間文化創成科学研究科博士後期課程

(H23.5.1現在)

	収容定員	研究指導教員数	(うち教授)	研究指導補助教員数	計	大学設置基準上必要な研究指導教員数	(うち教授)	大学設置基準上必要な研究指導補助教員数	大学設置基準上必要な教員数 計
比較社会文化学専攻	81	47	(32)	7	54	7	(5)		7
人間発達科学専攻	42	19	(14)	10	29	4	(3)	4	8
ジェンダー学際研究専攻	12	14	(10)	1	15	4	(3)	2	6
ライフサイエンス専攻	45	35	(27)	6	41	5	(4)	1	6
理学専攻	39	32	(27)	9	41	5	(4)	2	7
小 計	219	147	(110)	33	180	25	(19)	9	34
大 学 院 合 計	625	324	(224)	48	372	53	(39)	14	67

②男女別、職別の人数等の詳細

(H23.5.1現在 学校基本調査)

教員数 (本務者)		学長		副学長		教授		准教授		講師		助教		助手		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
学長・副学長			1	3												3	1	4
理学部														1	0	1	1	
生活科学部														1	0	1	1	
大学院人間文化創成科学研究科						68	39	33	29	1	6	4	5		10	106	89	195
その他											6				6	0	12	12
計			1	3		68	39	33	29	1	12	4	5		18	109	104	213
上記本務教員のうち(再掲)	大学院担当者					68	39	33	29	1	6	4	5		10	106	89	195
	休職者															0	0	0
	外国人					2			3							2	3	5

教員数 (兼務者)		学長		副学長		学長・副学長以外の教員				計			左記のうち外国人(再掲)		
		男	女	男	女	教員からの兼務		教員以外からの兼務		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女						
						59	49	52	113	111	162	273	7	13	20

(3) 各教員が有する業績、学位 【担当：広報チーム】

本学の教員の教育研究活動に関する情報を広く公開しております。本サイトのデータは教員が自ら入力したデータに基づいています。(平成21年1月～)

教員情報の例 【教員情報提供：<http://researchers.ao.ocha.ac.jp/>】

お茶の水女子大学研究者情報

耳塚 寛明(ミミヅカ ヒロアキ/MIMIZUKA, Hiroaki)

|| 研究者情報

|| 氏名
耳塚 寛明

|| 生年月日
1953/08/03

|| 学位
教育学修士(1979 東京大学)

|| 専門分野
教育社会学(特に学校社会学、教育選抜と学校組織、青少年文化、教育政策)

|| 職名
教授

|| 所属
人間文化創成科学研究科人間科学系

|| 所属2
人間発達教育研究センター

|| 担当学科
文教育学部人間社会科学科

|| 担当大学院(修士課程)
人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻教育科学コース

|| 担当大学院(博士課程)
人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻教育科学領域

|| 研究キーワード
• 教育社会学, 学力, 教育政策, .

|| 研究内容
教育社会学。とくに教育政策、学校組織、進路選択、学力形成に関する社会学的研究。
1. 学力格差の社会的形成過程研究
「だれが学力を獲得するか」は、教授学上の焦点関心であるのみならず、教育選抜の帰結を左右する中核的問題である。19年度からはじまったグローバルCOEプログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」(拠点リーダー耳塚)の中で、「青少年期から成人期への移行についての追跡的研究」(JELS)を継続する。なお、学力格差に関する社会学的研究は、平成18、19年度文部科学省新教育システム開発事業に採択され、20年度中に報告書を刊行する。また19年度は、中国、韓国における学力格差、学力政策について現地調査を開始した。
2. 進路選択の社会学
だれが、どのように進路を選択し、選ばれるのか。とくに高校生の進路選択の社会学的分析。高卒無業者、ニート、フリーターにも焦点を合わせる。
3. 教育政策の社会学

|| 教育内容
学部、大学院において以下の授業を開講した。
1. 教育社会学、学校社会学の概論および特殊講義
2. 社会調査法、教育調査法に関する講義、演習
3. 教育社会学方法論に関する講義、演習
4. 教職課程における教育社会学を中心とした講義
5. コアクラスター「ジェンダートラック論」
[2007年度]学部ゼミでは、「教育改革の社会学」を主テーマに、『変動社会のなかの教育・知識・権力』を輪読した。各回とも、最新の教育関係の記事、番組等を取りあげて議論するコーナーを設け、また夏合宿も行った。大学院ゼミでは、Lauder, H. et al (eds) Education, Globalization & Social Changeを素材に、新自由主義的教育政策の帰結について議論した。大学院生合宿を2回実施。このほか、単位にはならないが、研究室構成員をメンバーとする「業績ゼミ」を随時実施し、進行中の研究について意見交換を行った。

|| 将来の研究計画・研究の展望・共同研究の可能性
だれが学力を獲得するのか。Japan Education Longitudinal Study(JELS2003、JELS2006)を用いた分析を通じて、子どもたちの学力形成に家庭の経済と文化的環境が関わり、学力格差が生まれていることが明らかになりつつある。格差を縮小する上で、どこにいくらかる資源配分が必要であるのかの分析を行い、業績主義の衣を羽織った不平等を是正する方策を模索したい。青少年期から成人期までを対象とした縦断的研究であるJELSを継続し、育てたい。2007～2011年度の間は、採択されたグローバルCOEプログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」が、優先的活動機会である。
調査フィールドを受けていただける自治体との協働研究が可能となればうれしい。

受験生等へのメッセージ

いま日本の教育は激動期にあります。義務教育は、長い間変わらなかった制度の根幹が崩れようとしてくたえれば義務教育費国庫負担制度や教員人材確保法)、「脱ゆとり路線」へと舵が切られました。行政の重点は、教育条件整備から結果の評価に基づく資源配分へとシフトしつつあります。全国一斉学力テストの導入や学校評価システムの整備はその一例です。こうした教育界を襲う変化は、子どもたちの発達に、学校の機能に、さらには社会そのものの姿に、どういった帰結をもたらすのでしょうか。とりわけ、格差が再生産される社会に日本は変わっていくのでしょうか。教育と社会の現在に危機感を持ち、エビデンス・ベースにアプローチしようとする皆さんを歓迎します。

著書、論文、研究発表等

- 耳塚寛明・牧野カツコ, 学力とトランジションの危機, 金子書房, 206, 2007, 12月, 研究書
- 矢島 正見・耳塚 寛明, 変わる若者と職業世界 トランジションの社会学(第2版), 学文社, 201, 2005, 3月, 研究書
- 樋田 大二郎・耳塚 寛明・岩木 秀夫・苅谷 剛彦, 高校生文化と進路形成の変容, 学事出版, 234, 2000, 2月, 研究書
- 耳塚 寛明・樋田 大二郎, 多様化と個性化の潮流をさぐる 高校教育改革の比較教育社会学, 学事出版, 175, 1996, 9月, 研究書
- 森 隆夫・耳塚 寛明・藤井 佐知子, 生涯学習の扉, ぎょうせい, 333, 1997, 3月, 研究書
- 森隆夫・耳塚寛明, 志 社会へのおもいやり, ぎょうせい, 212, 2006, 9月, 研究書
- Hiroaki MIMIZUKA, Tackling Academic Achievement Gaps among Elementary Schools: Who acquires academic ability?, Proceedings 01 Selected Papers, No.1, 1-12, 2008, 3月, 原著, 査読なし, 大学・研究所等紀要
- 耳塚寛明, 小学校学力格差に挑む, 教育社会学研究, 第80集, 23-39, 2007, 5月, 原著, 査読あり, 学術雑誌
- 耳塚寛明, 高校の現在, IDE 現代の高等教育, 489, 4-9, 2007, 4月, 総説, 査読なし, 学術雑誌
- MIMIZUKA, Hiroaki, The Instability of the School Function and the Transition from School to the Workforce, Research Monograph, 1, 123-130, 2006, 3月, 原著, 査読なし, 大学・研究所等紀要
- 耳塚寛明・金子真理子・諸田裕子・山田哲也, 「先鋭化する学力の二極分化 学力の階層差をいかに小さくするか」, 『論座』, 2002/11, 212-227, 2002, 11月, 原著, 査読なし, 学術雑誌
- 耳塚寛明, 「分析 誰がフリーターになるのか」, 『世界』, 710, 107-112, 2003, 1月, 原著, 査読なし, 学術雑誌
- 耳塚寛明, 揺れる学校の機能と職業社会への移行, 社会政策学会誌, 第13号, 17-30, 2005, 10月, 原著, 査読あり, 学術雑誌
- 耳塚寛明, 「誰がフリーターになるのか 社会階層的背景の検討」, 小杉礼子編, 『自由の代償/フリーター』, 日本労働研究機構, 133-148, 2002, 10月, 研究書
- 耳塚寛明, 学力格差は今や社会問題だ, エコノミスト, 3872, 50-53, 2007
- 耳塚寛明, 教育課程行政と学力低下 関東調査による検討, 苅谷剛彦・志水宏吉, 学力の社会学, 岩波書店, 2005, 2月, 研究書
- 耳塚寛明, 何が学力を決めるのか Aエリア小6算数学力の規定要因分析, 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 JELS第4集 細分析論文集(1), 1-21, 2005, 3月, 外部資金報告書
- 耳塚寛明, 学力・家庭的背景・地域, 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 JELS第8集, 5-14, 2006, 3月, 外部資金報告書
- 耳塚寛明, 学力達成の構造 JELS2003とJELS2006の比較を中心に, 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 JELS第11集 AエリアWave2調査報告, 105-121, 2008, 3月, 外部資金報告書
- 耳塚寛明, 進路選択の社会学 いわゆる「高卒無業者」分析を事例に, 教育心理学年報, 第44集, 22-23, 2005, 10月, 原著, 査読なし, 学術雑誌
- 耳塚寛明, 学力テストの社会的帰結 ATとPA, 教育心理学年報, 第45集, 30-31, 2006, 3月, 原著, 査読なし, 学術雑誌
- 耳塚寛明, 「学力格差社会」の現状と課題, 月刊ヒューマンライツ, 231, 32-38, 2007, 6月, 資料, 査読なし, 大学・研究所等紀要

学会活動

- 日本教育社会学会, 国内(全国組織), 会長, 2007年, 9月
- 日本教育社会学会, 国内(全国組織), 理事, 1997以前, 9月
- 教育社会学研究, 0387-3145, 日本教育社会学会, 国内(全国組織), 委員長, 編集委員長, 1999年, 9月
- 日本教育社会学会, 国内(全国組織), 学会賞選考委員会, 副委員長, 副委員長, 2003年, 10月
- 犯罪社会学研究, 0386-460X, 日本犯罪社会学会, 国内(全国組織), 委員, 編集委員, 1999年, 10月
- 日本犯罪社会学会, 国内(全国組織), 研究委員会, 委員, 研究委員, 2005年, 10月

研究資金

- 耳塚寛明, グローバルCOEプログラム, 文部科学省, 格差センシティブな人間発達科学の創成, 152900, 2008
- 耳塚寛明, 新教育システム開発事業, 文部科学省, 教育と格差の発生・解消のメカニズムの調査研究, 65775, 2007
- 基盤研究(B)(2), 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 東北エリア第二波調査, 3800, 2008
- 耳塚寛明, グローバルCOEプログラム, 文部科学省, 格差センシティブな人間発達科学の創成, 150800, 2007
- 基盤研究(B)(2), 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 東北エリア第二波調査, 11300, 2007
- 基盤研究(B)(2), 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究, 1700, 2006
- 耳塚寛明, 新教育システム開発事業, 文部科学省, 教育と格差の発生・解消のメカニズムの調査研究, 18750, 2006
- 耳塚 寛明, プロジェクトリーダー, 誕生から死までの人間発達科学, 0, 2006
- 耳塚 寛明, プロジェクトリーダー, 誕生から死までの人間発達科学, 0, 2005
- 基盤研究(B)(2), 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究, 4100, 2005
- 耳塚 寛明, プロジェクトリーダー, 誕生から死までの人間発達科学, 0, 2004
- 基盤研究(B)(2), 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究, 5600, 2004
- 基盤研究(B)(1), メリトクラシー規範の比較教育社会学 後期中等教育改革の日米英比較研究, 900, 2003
- 耳塚 寛明, プロジェクトリーダー, 誕生から死までの人間発達科学, 0, 2003
- 基盤研究(B)(1), メリトクラシー規範の比較教育社会学 後期中等教育改革の日米英比較研究, 2000, 2002
- 基盤研究(C)(2), 高卒無業者の教育社会学的研究—高卒労働市場と進路指導の地域差を中心に—, 1100, 2002
- 耳塚 寛明, プロジェクトリーダー, 誕生から死までの人間発達科学, 0, 2002
- 耳塚寛明, ベネッセコーポレーション奨学寄付金, ベネッセコーポレーション, 学力構造研究, 500, 2002
- 基盤研究(C)(2), 高卒無業者の教育社会学的研究—高卒労働市場と進路指導の地域差を中心に—, 2200, 2001
- 基盤研究(B)(1), メリトクラシー規範の比較教育社会学 後期中等教育改革の日米英比較研究, 3600, 2001
- 基盤研究(C)(2), 高卒無業者の教育社会学的研究—進路指導の変容と第二次労働市場の構造を中心に—, 1000, 2000
- 基盤研究(C)(2), 高卒無業者の教育社会学的研究—進路指導の変容と第二次労働市場の構造を中心に—, 2300, 1999

4. 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事。【担当：入試チーム、教務チーム、学生・キャリア支援チーム】

(1) 入学者受入方針【担当：入試チーム】

① 全体

【お茶の水女子大学の概要及び方針（アドミッション・ポリシー）】

お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢の実現の場であることを使命とし、幅広い教養と高度な専門性を身につけた女性リーダーの育成を目指しています。そのため不断に教育改革を進め、文理融合 21 世紀型リベラルアーツ教育の導入（平成 20 年度）に引き続き、平成 23 年度に複数プログラム選択履修制度を導入して新たな専門教育課程をスタートさせました。お茶の水女子大学では、すべての女性が年齢・国籍などにかかわらず自立した女性として、生涯にわたって多様に活躍できるキャリア形成の場を提供しています。知的好奇心と探究心を抱き、勉学意欲に富んだ学生の入学を期待しています。

【大学院博士前期課程の概要及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）】

博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。

【大学院博士後期課程の概要及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）】

博士後期課程は、高度の専門研究及び専門諸分野の基礎に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

② 学部・学科の一般入試

【文教育学部（全体）】

人間は、過去から現在に至るまで地球上のさまざまな地域で、言語をはじめとする文化や科学技術を創造し、政治、経済、教育などの諸社会組織を発展させてきました。人間と文化と社会を理解するためには、時間軸と空間軸の上に現代社会を位置づけ、マクロからミクロに至る多次的なアプローチが必要です。文教育学部は、人間と文化と社会に迫る、人文・社会系の総合的な学部です。人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科の 4 つの学科からなり、各学科には複数のコースが置かれ、また学科の枠を越えたグローバル文化学環が設けられています。あわせて 13 のコース・環があり、専門教育の各種プログラム（主・強化・副・学際）を提供し、学生が所属する組織となります。多彩なプログラムと少人数教育によって、専門的に深く、総合的に広く学ぶためのカリキュラムを用意しています。

高校での学習は、その後の人生を「よく生きる」ためのものです。

本学部志望者には、高校において文科系の科目はもちろん理数系の科目まで幅広く、同時にどん欲に深く学習することを望みます。多様な領域でのリーダーを目指し、意欲と能力と個性に富んだ皆さんが志望されることを期待します。

文教育学部 人文科学科

人文科学科は、人類のさまざまな歩みのなかから、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。

高校では、さまざまな教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心をもったテーマについて自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探求の面白さを経験してきていただきたいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある学生の皆さんの入学を希望します。

なお、人文科学科には、哲学・倫理学・美術史コース、比較歴史学コース、地理学コースの 3 つのコースがあり、入学後、自分が何を学びたいのかを見極め、1 年次末に、人文科学科の各コース、グローバル文化学環の提供するいずれかの主プログラムを選択します。

前期日程入試では、大学入試センター試験および本学の個別学力検査の合計点によって合否を判定します。

後期日程入試では、より個性的な学力を見るために、大学入試センター試験の得点の高い方から順に3教科・科目を利用し(150点)、本学の試験(100点)との合計で合否を判定します。本学の試験では、英語の課題文を読んだうえで、設問に従って論述するという小論文を出題します。この試験では英和辞書(電子式を除く。)の持ち込みを認めています。なぜなら、ここでは英文の逐語訳ができるかどうかよりも、全体の文意を的確に捉えることができるか(英語の読解力)という点を重視しているからです。くわえて、発想の獨創性、論理構成力、豊かで正確な文章表現力といった点が評価の対象となります。

文教育学部 言語文化学科

皆さんは学校では主として国語や外国語の授業で文学や言語に接してきました。そしてそれ以上に、生まれてから現在までの家庭生活や社会生活の中で、言葉を操る力を獲得し、心を揺さぶる文学作品に出会ってきたことでしょう。その中で、言葉や文学の美しさや不思議さを一度も感じたことのない人はあまりないと思います。

言語文化学科での学習研究を通じて、皆さんは漠然とした感動や疑問を明確な言語として表現し、さらにそれを説明、解明していく方法を学ぶことでしょう。また、そうした方法を身につけることにより、これまで気づかずにいた言葉や文学の面白さや不思議さを発見することでしょう。また、日本語・中国語・英語・フランス語の各言語文化圏に固有の文化や思想、そして異文化間の交渉や交流について深く知ることになるでしょう。私たちは、そのような知的行為に興味を持ち、そのための訓練に耐えられるだけの、十分な基礎学力と、旺盛な知的好奇心と、言葉への愛着を持った学生を求めます。入学後は、1年次末に、主プログラムを決定します。

前期日程入試では、大学入試センター試験と本学の個別学力検査の合計点で決まります。大学入試センター試験に関しては、国語や外国語の点数を特に重く見ることはしていません。それは、本学科の選抜方法が、高等学校までどの科目もおそろかにすることなくきちんと学習してきた学生を選ぶことを目的としているからです。大学入試センター試験では主要5又は6教科の基礎的な学力を判定します。本学の個別学力検査は国語と外国語ですが、いずれも基礎的な知識の他に、長い文章を正確に読みとる力、自分の考えを文章できちんと表現する力があるかを見ます。

後期日程入試では、大学入試センター試験と本学の個別学力検査の小論文試験の合計点で決まります。前期日程と同様、大学入試センター試験の成績については、科目による傾斜配点はしていません。私たちは高校までの学習におけるいわゆる「得意不得意」ではなく、本人の本当の意味での知的関心や適性を尊重したいと考えるからです。本学の個別学力検査の小論文では、与えられた文章や設問を正確に理解する力と、自分の考えを整った文章にまとめる力、そして言葉に対する感覚を中心に評価します。

文教育学部 人間社会科学科

人間社会科学科では、人間について深い理解を持ち、その理解を現実的な場面で役立てていこうとする意欲ある人を求めます。当学科には、人間の意識や行動の社会的側面を考えたり(社会学)、心理的側面を考察したり(心理学)、人間の発達について多角的に考える(教育科学)という、3つの研究領域がありますが、共通しているのは、自分を含めた「人間」に対するあくなき好奇心です。人間に関わる諸問題を学問的に解明したり、そこで得られた知識を実際に役立てていきたいと考える学生の進学を期待します。

高校ではさまざまな教科や科目について幅広く学んでください。特に、国語・英語(外国語)・数学は、大学での学習と研究にとってたいへん重要な基礎的能力を育成するのに役立つでしょう。このほか地歴・公民や理科の学習を通じて、人間について深く考える姿勢と能力を身につけた学生を歓迎します。

人間社会科学科には、上記のように社会学コース、心理学コース、教育科学コースの3つのコースがあり、各コースはそれぞれ主・強化・副プログラムを提供しています。入学後、各コースの特徴と自分の関心とを精査検討して、1年次末にいずれかのコースまたはグローバル文化学環が提供する主プログラムを選択することになります。

前期日程入試では、大学入試センター試験によって、幅広い基礎的な知識・教養を身につけているかどうかを判断します。学科ごとの個別学力検査では、大学での研究に必要な不可欠な基礎的能力を身につけた志願者を得るために、国語・数学・外国語の3科目入試にしています。

後期日程入試では、幅広い基礎的教養のほか個性的な学力を見るために、大学入試センター試験の5又は

6教科に加え、小論文を採用しています。小論文では、「読み、思考し、表現する」能力などが評価の対象となります。

文教育学部 芸術・表現行動学科

本学科は、人間の芸術及び表現行動としてのパフォーマンスとその学問的研究との両方を、同時に追究しようとする貪欲な人を求めています。本学は小規模ながらも総合大学ですから、その特性を十分に利用して、「自ら」多様な可能性を切り開こうという積極的姿勢が要求されます。

なお、本学科では、学びの専門性を活かすために、複数プログラム選択履修制をとっておりません。受験の際に選択したコースに2年次から所属することになります。

【舞踊教育学コース】本コースは、舞踊を中心にスポーツから日常動作にいたる人間の身体活動や表現について、理論と実践の両面から積極的に研究を進めることのできる、両者のバランスの取れた、エネルギッシュな人材を求めています。舞踊は高校で学ぶ全ての教科と関連していますので、幅広く学習を進めてください。その上で、保健体育、国語及び英語については特に重点的に学習し、基本的な運動能力、文章表現力、英文の読解力をきちんと身につけてきてください。

【音楽表現コース】音楽は人間の感性に関わるとともに、高度に知的社会的な活動であり、人間の営みに深く根づいています。勉強も実技もきちんとやってみたい、そんな贅沢な悩みを抱えている人にこそ、本コースは開かれています。高校で学ぶ教科はすべて重要ですが、音楽は言うまでもなく、英語と世界史はしっかりと身につけてきてください。

文教育学部 グローバル文化学環について

文教育学部では平成17年度から「グローバル文化学環」という新しいコースを設置しました。この学環は、国際協力やビジネス・学校教育・地域社会など、さまざまな場で、文化の差異を理解し、それを越えて協働できるグローバル時代の新しい市民を育成することを目的にしています。

その特徴は、文教育学部の3つの学科（人文科学・言語文化・人間社会）のいずれの学生も、主プログラムとして選択できることです。また、所属学科のいずれかの副プログラムを履修することで、学際的な学修をおこなうことができます。

この学環での学修を希望する人は、自分の関心や得意分野にそって、受験する学科を選んでください。カリキュラムなど、さらに詳しい情報を知りたい人は、文教育学部のホームページにアクセスしてみてください。

【理 学 部 (全体)】

理学部とは、基礎科学の分野を研究対象として、主に自然界の原理や法則の追究を行うところです。本理学部は、数学、物理学、化学、生物学、情報科学の5学科からなり、少人数ゆえのきめ細かな指導により、高水準の教育・研究を行ってきており、数少ない女子大学の理学部として多くの有為な人材を養成してきました。最近さらに大学院に進む者も多く平均進学率は6割を超えています。

このような教育・研究の場に知的好奇心溢れる女性を受け入れ、次世代のリーダーあるいは中核となる人材を育成し、社会に輩出することを目指しています。

本学部志望者には、高校において、理系科目（数学、理科〔物理、化学、生物〕）を学び、論理的思考力を身につけるようにすること、および、自然科学の基礎知識を習得しておくことはもちろんのこと、文系科目（国語、社会、英語）も幅広く履修し、筋道の立った文章が書けることなどが望まれます。

「推薦入試」、「帰国子女・外国学校出身者特別入試」においては、志望学科に関係する各種コンテストなどで活躍した実績も評価します。

理学部 数学科

数学は、あらゆる現象の背後にある数や図形の永久に変わらない真理を追究する学問です。それを学ぶことで、魂を揺さぶる美しいものや実生活で役に立つものに出会い、また世界を見通すための厳格な論証法を身につけられると考えます。

このような観点から、数学科では主に以下のような目標を持った人を求めます。

- ・教師や研究者のように数学を職業としたい人

- ・数理的な素養を生かして社会を支える仕事につきたい人
- ・とにかく数学に対して意欲を持って勉強したい人。

受験生に求めるのは以下のことです。

- ・高校での数学を十分に理解し、大学での講義に必要な数学の知識を身につけている。
- ・文章から数学的な意味を読み取ることができる。
- ・自分の考えを数学的、論理的な文章に表現して相手に伝えられる。

入試問題について：数学については、学習指導要領の趣旨を踏まえて、高等学校の生徒が教科書の中から論理的に思考して直ちに理解できる事項を出題範囲とします。

前期日程入試では、基礎学力を試すために標準的問題を多数、そして柔軟な思考能力を試す問題を少し出題します。標準的問題は、「答えが合っているかどうか」という問題を解く能力を見るだけでなく、上記のように「論理的な文章の読み書き」の能力を調べるためのものです。数学に限らないことですが、自分の考えを説明するには筋道を明確にして議論をすすめなくてはなりません。ですから、受験生は数式を使った小論文を書くつもりで答案を書けば、高い評価を得るでしょう。合否は、大学入試センター試験の得点と、出願書類及び本学の個別学力検査の結果により判定されます。

後期日程入試では、数学の力を重視して選考します。本学の個別学力検査（数学）では、高校で学ぶ数学の基礎的事項を正確に理解し応用できる力、基本的な計算を確実にこなせる力、考えたことを明解かつ論理的に述べる力などを見ます。また、外国語で書かれた数学の文献を読む必要性や国際的にも活躍する人材の養成という趣旨を踏まえ、大学入試センター試験の外国語を選考に用います。

理学部 物理学科

自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望します。（もちろん、必要になれば教員の適切な助言および指導を受けることができます。）また、豊かな人間性ととも、他人との協調性に優れた人格が望まれ、忍耐力も必要です。卒業後には物理学の勉学を通して培った、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を各方面で発揮し、社会において指導的役割を果たす女性となることを期待しています。しかしながら究極的には、「物理学を学んで生き生きと充実した人生を送ること」が最も大切と考えています。

前期日程入試では、豊かな人間性をもつ志願者を得るために、大学入試センター試験から幅広い教養を身につけているかどうかを判断します。また本学の物理の試験では、単なる公式の暗記力を見るのではなく、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を判定するために、様々な工夫を凝らした問題が出題されます。このような能力を発揮するためには、数理的な解析力や表現力が必須です。そのため数学の試験を課しています。合否は、出願書類を参考にし、大学入試センター試験と本学の個別学力検査の合計点で判定します。合計点が同点の場合には、本学の個別学力検査の物理の点数を重視しています。

後期日程入試では、大学入試センター試験のみを課しています。これは、幅広い教養を身につけた学生をバランスの取れた出題問題から求めようとするものですが、物理学科のアドミッション・ポリシーに従って、物理学と数学の試験を重視しています。合否は、出願書類を参考にしながら、大学入試センター試験の合計点で判定します。

理学部 化学科

化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に協力して発展するものであり、その領域は数学・物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学や地球科学の知識の必須な分野まで広がっています。したがって、化学科の志願者は、高校では化学のほかにこれらの基礎となる科目、特に、物理・生物を幅広く履修して、論理的思考力や自然科学の基礎知識をしっかりと体得しておくことが望まれます。また、英語で書かれた文献を読みこなす語学力も要求されますので、高等学校での英語の十分な学習が必要です。入学後には、専門の学習や研究の基盤となる実験能力を養うため、学生実験を重視しています。

前期日程入試では、合格判定は、出願書類を参考にしながら、大学入試センター試験と本学の個別学力検査の合計点で判断しています。本学の個別学力検査では、化学の知識と理解力などの基礎学力ばかりでなく、筋道を立てて考える論理的な思考力や、答えに至るまでの自分の考えを正しく表現する能力も判定します。

後期日程入試では、大学入試センター試験および本学の個別学力検査を課しています。（個別学力検査の内容については、入試チームホームページを参照のこと。（URL <http://www.ao.ocha.ac.jp/>）

大学入試センター試験では、化学を中心とした幅広い基礎知識と理解力を身につけているかどうかを判断するため、理科にウエイトを置きつつ、数学、外国語、国語などの試験も重視します。合格判定は、出願書類を参考にしながら、大学入試センター試験の成績及び本学の個別学力検査の結果に基づいて行います。なお、入学後、化学科専門科目では、化学Ⅱ及び数学Ⅲの内容を理解していることを前提に授業を行うので注意してください。

理学部 生物学科

生物学は、微生物からヒトまで、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのため、いろいろな視点から考える柔軟な思考力とそれを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーをもつ学生を希望します。“生き物”に関する理解と関心を深め、人間社会により豊かな知の財産を築ける人に育つことを期待しています。

前期日程入試では、生物の基礎知識や考え方を判定しますが、それだけでなく、データや図形を理解する能力、それらを組み合わせて考える能力も判定します。さらに、数学、物理学、化学の論理と知識も重要と考えています。したがって、数学と物理・化学（選択）の試験を課しています。また、学年が上がるにつれて外国語の文献や本を読んだり、外国語で研究成果を発表する機会が多くなります。そのため、外国語試験を課しています。合格判定は、出願書類を参考にし、大学入試センター試験と本学の個別学力検査の合計点で行っています。合計点が同点の場合には、本学の生物の点数を重視します。

後期日程入試では、大学入試センター試験及び本学の個別学力検査（小論文及び面接）を課しています。大学入試センター試験では、科学に関する幅広い知識と考え方を身につけているかを判断するために、理科にウエイトを置きます。小論文では、生命現象をさまざまな視点から解析する柔軟かつ論理的な思考力、問題提示及び問題解決能力を備えているかどうかを見ます。面接では、面接担当教員との質疑応答を通して総合的な思考力を判断します。それと同時に生物学を学ぶ意欲も重視します。

理学部 情報科学科

情報科学はコンピュータの出現によってその存在と価値が確かめられた「情報」とよばれる概念を、エネルギーや物質と並ぶ世界の主要な構成要素として認識し、その生成、管理、利用に関する原理を探究する新しい学問分野です。今日、その応用は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学にも及んでいます。この奥深さを理解し、これまでの成果を学びたい人、さらに今後の進展に積極的に貢献したい人にぜひ進学してきてほしいと思います。情報科学は、これまでの数理科学や自然科学の考え方を偉大な先達として独自の方法論を展開しようとしていることから、広くかつ深い理系のセンスが問われます。情報科学を通じて21世紀の科学技術を支えるのは自分たち女性だと心底思っている人、あるいは思いたい人、あるいはそういわれて「そうなんだ」と今気づいた人を大歓迎します。

前期日程入試では、豊かな人間性をもつ志願者を得るために、大学入試センター試験から幅広い教養を身につけているかどうかを判断します。基本的な考え方にあるように、情報科学は奥行き深い学問であり、高校時代には理数系全般を学んで来ることが望まれます。そのため本学の情報科学科の試験では、理科系の選択で数学、物理、化学および生物の4つの試験から2科目を選べるようにしています。また、理系において数学は基本的な能力であり、本学科の試験でも数学を重視しています。合格判定は、出願書類を参考にし、大学入試センター試験と本学の試験の重みを付けた合計点に基づいて行われます。（詳しいことは募集要項の配点表を参照してください。）合計点が同点の場合には、本学の個別学力検査の点数を重視します。なお、入学時にコンピュータを使えることは仮定しません。

後期日程入試では、大学入試センター試験と本学独自の数学の試験を課しています。大学入試センター試験を課すことは、幅広い教養を身につけた学生をバランスのとれた出題により求めたいという趣旨ですが、情報科学科のアドミッション・ポリシーに従って、数学、理科と外国語の点数を重視しています。また、本学独自の数学の試験は情報科学を勉強するために必要となる数学の素養を持った学生を求めたいという趣旨に基づいています。

合格判定は、出願書類を参考にしながら、大学入試センター試験の上記3科目に重みを付けた合計点と本学独自の数学の試験に基づいて行われます。（詳しいことは、入試要項の配点表を参照してください。）入学

時までにはコンピュータを習得していることは仮定しません。

【生活科学部（全体）】

現代のわたしたちの日常生活は、日々、地球規模の変化と連関の中で営まれており、あらゆる場面で持続可能性が問われています。生活の質と作法を再検討し、現代にふさわしい価値と規準を発見し創出することは、まさに時代の要請だといえます。

生活科学はこの要請に応えるために、食の科学と健康、人間と環境、人間の発達と心の健康、人間生活と社会、人間生活と文化に関する諸問題を、高度に専門分化した学知を結集して、生活者の視点から多面的かつ総合的に解明することを目指しています。

生活科学部の特徴は、第1に、このような文理融合の総合応用科学としての生活科学を学ぶ点にあります。第2に、(1)高密度の講義、(2)少人数の実験・実習・演習、(3)個別的な卒業論文指導を軸とする少人数教育にあります。また特に家庭科の教員免許を取得しやすいカリキュラムになっていることも生活科学部の特徴の一つです。

生活科学部は、人間と生活と環境を分析的かつ総合的に理解する技法を学び、専門的学知に裏打ちされた確かな教養と豊かな構想力を身につけ、将来、社会の多方面で活躍する女性リーダーを育成することを使命としています。

高校での学習はすべての科目が、大学での勉学に必要な基礎です。志願学科の別を問わず、家庭科・芸術科目・保健体育も含め、オールラウンドの学力を身につけておくことを望みます。

生活科学部 食物栄養学科

食物は人間が生きていくために必要であり、おいしい料理や豊かな食生活はわれわれの生活にうるおいと楽しさを与えます。一方で、偏った食事や不規則な食習慣はさまざまな疾患の原因となって、われわれの健康に影響を及ぼします。食物と人間および健康は時代を問わず、社会の人々から大きな関心がもたれています。

本学科は、豊かな食生活や健康な社会の実現に向けて、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた社会のリーダーとなる専門家の育成をめざしています。そのために、本学科では、食品化学、食品貯蔵学、調理科学、栄養化学、臨床栄養学、応用栄養学、栄養教育学、給食経営管理學、公衆栄養学などさまざまな学問分野において、遺伝子レベルから人間栄養学的なものまで幅広く教育研究を行っています。少人数教育による実験実習を重視し、卒業研究では、全員が食物栄養学科や生活環境教育研究センターの各研究室で、特定のテーマについて研究を行います。また、本学科を卒業すると、栄養士免許を取得できると同時に、管理栄養士の国家試験受験資格が得られます。

本学科の教育研究は自然科学を基盤とするため、高等学校において化学、生物、物理などの自然科学の基礎をしっかり学習していることを望みます。具体的には、数学については数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bを、理科については物理Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物Ⅰ・Ⅱのうち2科目以上を履修しておくことを勧めます。また、数学Ⅲ・Cについても履修していることを望みます。食物や栄養、健康に強い関心を持ちそれを社会に還元しようとする意欲のある人には最適な学科です。

前期日程入試では、大学入試センター試験（5教科7科目）と本学の個別学力検査（数学、理科、外国語）において、自然科学をはじめとする幅広い基礎学力を評価します。

後期日程入試では、大学入試センター試験の成績を重視します。面接では本学における勉学意欲や適性の確認、自然科学系の基礎知識に関する質問をすることもあります。面接はABC評価により、合格判定の資料とします。

生活科学部 人間・環境科学科

人間は、利便性、快適性、安全性などを追求し、身の回りの環境を常に変えて来ました。食糧は豊富になり、暮らしは便利になり、病気が減り寿命も延びました。しかしその反面、環境のあまりに大きく急速な変化に対して人間が適応できず、人類の存続にも影響する様々な問題も生じてきています。これに対して本学科では、「人間にとっての環境、環境にとっての人間」という視点に立ち、人間と環境の相互の働きかけを具体的に評価・設計・提案し、よりよい生活環境を創造するための研究と教育を行っています。

本学科の柱となる学問分野には、自然人類学、人体生理学、人間工学、福祉工学、環境機能材料学、環境

化学、環境衛生工学、建築学などがあります。自然科学の好きな人、人間と環境にかかわる基礎的な科学を十分に学び、深く研究してみたい人、専門家として真に健康で豊かな生活を構築するために寄与したいと考えている人を、本学科は歓迎します。志望される方は、高等学校において理数系の基礎をしっかりと履修していることを望みます。具体的には、数学については数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bを、理科については物理Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物Ⅰ・Ⅱ、地学Ⅰ・Ⅱのうち2科目以上を履修しておくことを強く望みます。また、数学Ⅲ・Cについては履修していることを望みます。

前期日程入試では、大学入試センター試験（5教科7科目）と本学の個別学力検査（数学、理科、外国語）において、自然科学をはじめとする幅広い基礎学力を評価します。

後期日程入試では、大学入試センター試験の成績を重視します。面接では本学における勉学意欲や適性の確認、自然科学系の基礎知識に関する質問をすることもあります。面接はABC評価により、合格判定の資料とします。

生活科学部 人間生活学科

人間の生活は、生涯にわたる人間の発達、生活を営むための人間社会のあり方、民族、歴史や伝統、文化などさまざまな面が相互に関連した、複雑で総合的な営みです。高度に複雑化した現代社会においては、この複雑な人間生活の営みを総合的に理解し、人間が生涯を通して生き生きと生活できるための条件や社会の仕組み、文化のあり方を明らかにし、それを実現する人材が求められています。

人間生活学科では、こうした豊かな人間生活の実現を担う人材の育成を、相互に関連する3つのアプローチによってめざしています。①人間の生涯発達にかかわる発達心理学・臨床心理学・保育学的理解と実践の連携、家庭や保育あるいは心理臨床などの現場に役立つ理解－発達臨床心理学、②地域社会から国際社会まで、多面的な社会環境を視野に入れ、家族、消費者、女性、高齢者、子ども、制度と政策の問題など、生活と社会及びその関係についての社会科学的理解－生活社会科学、③人間にとって最も身近な服飾と住居、工芸、デザインを中心とする生活造形を対象とし、生活文化の歴史と現在について、美学的・比較文化的・民俗学的理解－生活文化学の3つです。こうした課題に関心があり、問題意識と研究意欲を持っている人、錯綜する現代の生活状況の中で、人間性を重視した社会を築くために貢献したいと考えている人、潤いのある生活を実現しようという熱意をもっている人には、ぜひ人間生活学科で学んでほしいと思います。志望される方は、人間生活学科の3つのアプローチを踏まえ、高等学校において地理歴史・公民の諸科目など文科系の基礎を幅広く履修していることを望みます。

前期日程入試では、大学入試センター試験（5又は6教科7科目）と本学の個別学力検査（2教科：外国語、国語または数学）により、幅広い基礎学力を評価します。

後期日程入試では、大学入試センター試験の成績を重視します。面接では本学における勉学意欲や適性の確認、問題意識や人文科学・社会科学系の基礎知識に関する質問をすることもあります。面接はABC評価により、合格判定の資料とします。

③ AO入試

【本学の教育理念とAO入試の趣旨】

多様化しグローバル化する社会では、たしかな専門的知識とともに、それを人に伝えるコミュニケーション力や応用する実践力が求められています。女性は、仕事、家庭、地域社会といったさまざまな場での活躍が期待され、その社会的影響力は大きなものがあります。

お茶の水女子大学では、女性の能力開発とリーダーの育成を教育目標に掲げ、さまざまなプログラムを設けています。専門的な知識を多様な場で使いこなせる土台を育成するための「文理融合21世紀型リベラルアーツ」科目群を平成20年度から新設しました。さらに、リベラルアーツを踏まえた高度な専門教育をすすめ、創造性と実践性を備えた専門基礎力を持つ女性の育成を実現するために、平成23年度から学生主体の「複数プログラム選択履修制度」を専門教育課程に導入するとともに、総合学習支援センターを新設して主体的な学修プロセスの実現をサポートする体制を整えました。国際的な場で活動する人材を育成するための語学教育、国際学、多文化交流などのプログラムを強化し、海外の交流協定校への留学を推奨しています。また、これらの基礎となる情報収集力や発信力を高めるため、希望者に対するノートパソコン貸与事業を実施しています。「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」では、大学院生・学部学生向けに、将来の女性リーダーを育成するために各種の講座を開講的指導を行っています。

「学際性」と「国際性」をもった将来の女性リーダーには、通常の学力試験には表れない総合的な力（ポテンシャル）が重要であると考えます。このような資質をもった学生を、広く各地から選抜するため、AO入試を行います。

【求める人物像】

本学での勉学に強い意欲と専門性を磨いていくために必要となる十分な基礎的学力をもっている。これに加えて、以下の項目のいずれかひとつ以上に当てはまる方を求めています。

1. 知識や意見を人に伝え、実践するためのコミュニケーション能力や応用力を備えている。
2. 真理の探究に対する憧憬と文・理双方への興味・関心をもっている。
3. 自分の将来と社会の未来へのビジョンを明確にもっている。
4. グローバルな視野をもって思考し、国際的な場での活動を希望している(活動の場は国内国外を問わない)。

【学科の受入方針】

文教育学部 人文科学科

人文科学科は、人類のさまざまな歩みのなかから、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。高校では、さまざまな教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心をもったテーマについて自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探求の面白さを経験してきていただきたいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある学生の皆さんの入学を希望します。

なお、人文科学科には、哲学・倫理学・美術史コース、比較歴史学コース、地理学コースの3つのコースがあり、入学後、自分がなにを学びたいのかを見極め、1年次末に、人文科学科の各コース、グローバル文化学環の提供するいずれかの主プログラムを選択します。AO入試では、英・数・国の基礎学力をバランスよく備え、自分の将来像をある程度、具体的にもっている学生を望みます。

文教育学部 言語文化学科

言語文化学科には、日本語・日本文学コース、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コースの4つのコースがあります。これらのコースにおいては、当該の言語の深い理解と高度な運用能力を身に付けることを目指し、またそれぞれの言語圏の文学や文化の本格的な分析を行います。そのためこの4つのコースのいずれにおいても、文理両分野における十分な基礎学力と、旺盛な知的好奇心と、言葉への強い愛着を持った学生を求めます。入学後は一般入試で入学した学生と同じ条件で、1年次末に最終的に所属するコースが決まります。

文教育学部 人間社会科学科

人間社会科学科では、人間について深い理解を持ち、その理解を現実的な場面で役立てていこうとする意欲ある人を求めます。当学科には、人間の意識や行動の社会的側面を考えたり（社会学）、心理的側面を考察したり（心理学）、人間の発達について多角的に考える（教育科学）という、3つの研究領域がありますが、共通しているのは、自分を含めた「人間」に対するあくなき好奇心です。人間に関わる諸問題を学問的に解明したり、そこで得られた知識を実際に役立てていきたいと考える学生の進学を期待します。高校ではさまざまな教科や科目について幅広く学んでください。特に、国語・英語（外国語）・数学は、大学での学習と研究にとってたいへん重要な基礎的能力を育成するのに必要です。また、このほか地歴・公民や理科の学習を通じて、人間について深く考える姿勢と能力を身につけた学生を歓迎します。

入学後は一般入試で入学した学生と同様、1年次末に最終的にいずれかのコースまたはグローバル文化学環の提供する主プログラムを選択することになります。

文教育学部 グローバル文化学環について

文教育学部では平成17年度から「グローバル文化学環」という新しいコースを設置しました。この学環

は、国際協力やビジネス・学校教育・地域社会など、さまざまな場で、文化の差異を理解し、それを越えて協働できるグローバル時代の新しい市民を育成することを目的にしています。

その特徴は、文教育学部の3つの学科（人文科学・言語文化・人間社会）のいずれの学生も、主プログラムとして選択できることです。また、所属学科のいずれかの副プログラムを履修することで、学際的な学修をおこなうことができます。

この学環での学修を希望する人は、自分の関心や得意分野にそって、受験する学科を選んでください。カリキュラムなど、さらに詳しい情報を知りたい人は、文教育学部のホームページにアクセスしてみてください。

理学部 数学科

数学は、あらゆる現象の背後にある数や図形の永久に変わらない真理を追究する学問です。それを学ぶことで、魂を揺さぶる美しいものや実生活で役に立つものに出会い、また世界を見通すための厳格な論証法を身につけられると考えます。本学AO入試で求める人物像に加えて、上記のような観点から、数学科では主に以下のような目標を持った人を求めます。

- ・教師や研究者のように数学を職業としたい人
- ・数理的な素養を生かして社会を支える仕事につきたい人
- ・とにかく数学に対して意欲を持って勉強したい人

受験生に求めるのは以下のことです。

- ・高校での数学を十分に理解し、大学での講義に必要な数学の知識を身につけている。
- ・文章から数学的な意味を読み取ることができる。
- ・自分の考えを数学的、論理的な文章に表現して相手に伝えられる。

理学部 物理学科

自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望します。（もちろん、必要になれば教員の適切な助言および指導を受けることができます。）また、豊かな人間性ととともに、他人との協調性に優れた人格が望まれ、忍耐力も必要です。卒業後には物理学の勉学を通して培った、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を各方面で発揮し、社会において指導的役割を果たす女性となることを期待しています。しかしながら究極的には、「物理学を学んで生き生きと充実した人生を送ること」が最も大切と考えています。

AO入試では、自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望しています。このため、物理学へ強い興味を持ち、物理コンテストなどへ積極的に参加した実績を重視します。大学での物理の授業を履修するうえで、高校での物理および数学の十分な習得は必須ですので、これらの科目は指定科目になっています。

理学部 化学科

化学科の志願者は、まず、化学に深い関心を寄せ、学びへの強い意欲と情熱を持つことが必要です。化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に協力して発展するものであり、その領域は数学・物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学や地球科学の知識の必須な分野まで広がっています。したがって、高校では化学のほかこれら基礎となる科目、特に、物理・生物を幅広く履修して、論理的かつ理科的な思考力や自然科学の基礎知識をしっかりと体得しておくことが前提となります。また、英語で書かれた文献を読みこなす語学力も要求されますので、高校での英語の十分な学習が必要です。入学後には、専門の学習や研究の基盤となる実験能力を養うため、学生実験を重視しており、1年次から3年次にわたり幅広い学生実験を必修として課しています。化学への強い興味と学習意欲に加えて、実験が好きで主体的に取り組む学生を望みます。

理学部 生物学科

生物学は、微生物からヒトまで、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのためには、いろいろな視点から考える柔軟な思考力とそれを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、

自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーをもつ学生を希望します。“生き物”に関する理解と関心を深め、人間社会により豊かな知の財産を築ける人に育つことを期待しています。AO入試では、生物だけでなく、自然科学を広く学習して、科学的基礎知識や考え方を備えるとともに、論理的思考や知的好奇心を育てることを希望します。生物学のさまざまな領域において強い好奇心や疑問を持ち、積極的かつ行動的に自ら探究した経験（自由研究や参考文献の調査など）を評価しますので、志望理由書及び活動報告書に記載してください。入学後は、生物学科のカリキュラムにしたがって、幅広い分野の生物実験科目を履修して生物学の専門性を高めることを希望します。

理学部 情報科学科

情報科学はコンピュータの出現によってその存在と価値が確かめられた「情報」とよばれる概念を、エネルギーや物質と並ぶ世界の主要な構成要素として認識し、その生成、管理、利用に関する原理を探究する新しい学問分野です。今日、その応用は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学にも及んでいます。この奥深さを理解し、これまでの成果を学びたい人、さらに今後の進展に積極的に貢献したい人にぜひ進学してきてほしいと思います。情報科学は、これまでの数理学や自然科学の考え方を偉大な先達として独自の的方法論を展開しようとしていることから、広くかつ深い理系のセンスが問われます。

情報科学を通じて21世紀の科学技術を支えるのは自分たち女性だと心底思っている人、あるいは思いたい人、あるいはそういわれて「そうなんだ」と今気づいた人を大歓迎します。一方、AO入試のかなめは国際性と学際性です。国際性とは、国際社会で自分の考えを堂々と議論できることですが、そのためには、当然ですが、国際レベルで通用する内容を自分が持っていることが前提です。情報科学科の先輩たちの中には、有名な国際会議において自分の研究を発表してきた人達も少なくありませんが、これも深い専門的素養を身に付けた上でのたゆまない研究が可能としたものです。なお、情報科学では、ほとんどの新しい知識は英語で発信されるので、普通に情報科学を学ぶのにも、基本として英語の実力が不可欠です。

次に学際性ですが、これは一つの専門分野に閉じこもらず、広くいろんな分野に通ずることを意味します。実はこれも、情報科学と言うものの性格から、普通に必要とされる態度です。コンピュータを用いた解析は、今や伝統的な科学的計算の分野はもちろんのこと、CGによる芸術創造、文学作品の特徴抽出、インターネットの情報分析による社会の動向予測、化学物質の膨大なデータを処理した新薬の開発アシストなど、あらゆる分野で、使われているという表現を越えて、むしろ無くてはならないものとなっています。情報科学科の卒業生たちは、就職してどのような場所で自らの知識と技術を活かすことになるか分からないので、普通に入学した人達に対しても広く学ぶという意味での学際性を要求してきました。

AO入試の目的の一つはジェネラリストの養成ですが、よく言われるように、本当にものの分かったジェネラリストになるには、ある一つの分野で専門家に匹敵する習練を積み研究活動を経験する必要があります。AOで合格し、情報科学科に所属してAOの目的を貫徹しようと思ったら、まずは一般の入学者と同様、情報科学の専門教育に励むことが必要です。入試の要件に数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、Cの全てを課しているのは、これを可能にするために最低限必要なことであり、講義や演習もこれらを習得していることを前提にして行われます。さらにその上で、今までの情報科学の先輩たちの中でもっとも活躍している人達を目標にして、国際性と学際性に磨きをかける努力を一般の学生以上にしてください。理科の少なくとも一科目でⅠ、Ⅱを要求しているのは、学際性を支える最低の要件であり、その趣旨を全うするためには、本当は、少なくとも理科3科目でⅠ、Ⅱを履修してきて欲しいところです。現に、情報科学科では、遺伝子情報のデータ解析や、物理・科学現象のシミュレーションを行っている研究室もあり、そのような講義も開かれているので、情報科学に関連した広い知識や方法論を学ぶ環境は整っていますが、高校レベルの理科の知識を大学に入ってから自分で補うのはなかなかやさしいことではないでしょう。高校で意欲的に学んできた、やる気に満ちた学生を歓迎します。

生活科学部 食物栄養学科

食物は人間が生きていくために必要であり、おいしい料理や豊かな食生活はわれわれの生活にうるおいと楽しさを与えます。一方で、偏った食事や不規則な食習慣はさまざまな疾患の原因となって、われわれの健康に影響を及ぼします。食物と人間および健康は時代を問わず、社会の人々から大きな関心がもたれています。

本学科は、豊かな食生活や健康な社会の実現に向けて、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた社会のリーダーとなる専門家の育成をめざしています。そのために、本学科では、食品化学、食品貯蔵学、

調理科学、栄養化学、臨床栄養学、応用栄養学、栄養教育学、給食経営管理学、公衆栄養学などさまざまな学問分野において、遺伝子レベルから人間栄養学的なものまで幅広く教育研究を行っています。少人数教育による実験実習を重視し、卒業研究では、全員が食物栄養学科や生活環境教育研究センターの各研究室で、特定のテーマについて研究を行います。また、本学科を卒業すると、栄養士免許を取得できると同時に、管理栄養士の国家試験受験資格が得られます。

本学科の教育研究は自然科学を基盤とするため、高等学校において化学、生物、物理などの自然科学の基礎をしっかりと学習していることを望みます。具体的には、数学については数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bを、理科については物理Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物Ⅰ・Ⅱのうち2科目以上を履修しておくことを求めます。また、数学Ⅲ・Cについても履修していることを望みます。食物や栄養、健康に強い関心を持ちそれを社会に還元しようとする意欲のある人には最適な学科です。

生活科学部 人間・環境科学科

人間は、利便性、快適性、安全性などを追求し、身の回りの環境を常に変えて来ました。食糧は豊富になり、暮らしは便利になり、病気が減り寿命も延びました。しかしその反面、環境のあまりに大きく急速な変化に対して人間が適応できず、人類の存続にも影響する様々な問題も生じてきています。これに対して本学科では、「人間にとっての環境、環境にとっての人間」という視点に立ち、人間と環境の相互の働きかけを具体的に評価・設計・提案し、よりよい生活環境を創造するための研究と教育を行っています。

本学科の柱となる学問分野には、自然人類学、人体生理学、人間工学、福祉工学、環境機能材料学、環境化学、環境衛生工学、建築学などがあります。自然科学の好きな人、人間と環境にかかわる基礎的な科学を十分に学び、深く研究してみたい人、専門家として真に健康で豊かな生活を構築するために寄与したいと考えている人を、本学科は歓迎します。志望される方は、高等学校において理数系の基礎をしっかりと履修していることを望みます。具体的には、数学については数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bを、理科については物理Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物Ⅰ・Ⅱ、地学Ⅰ・Ⅱのうち2科目以上を履修しておくことを求めます。また、数学Ⅲ・Cについては履修していることを望みます。

生活科学部 人間生活学科

人間の生活は、生涯にわたる人間の発達、生活を営むための人間社会のあり方、民族、歴史や伝統、文化などさまざまな面が相互に関連した、複雑で総合的な営みです。高度に複雑化した現代社会においては、この複雑な人間生活の営みを総合的に理解し、人間が生涯を通して生き生きと生活できるための条件や社会の仕組み、文化のあり方を明らかにし、それを実現する人材が求められています。

人間生活学科では、こうした豊かな人間生活の実現を担う人材の育成を、相互に関連する3つのアプローチによって目指しています。①人間の生涯発達にかかわる発達心理学・臨床心理学・保育学的理解と実践の連携、家庭や保育あるいは心理臨床などの現場に役立つ理解—発達臨床心理学、②地域社会から国際社会まで、多角的な社会環境を視野に入れ、家族、消費者、女性、高齢者、子ども、制度と政策の問題など、生活と社会及びその関係についての社会科学的理解—生活社会科学、③人間にとって最も身近な服飾と住居、工芸、デザインを中心とする生活造形を対象とし、生活文化の歴史と現在について、美学的・比較文化的・民俗学的理解—生活文化学の3つです。こうした課題に関心があり、問題意識と研究意欲を持っている人、錯綜する現代の生活状況の中で、人間性を重視した社会を築くために貢献したいと考えている人、潤いのある生活を実現しようという熱意をもっている人には、ぜひ人間生活学科で学んでほしいと思います。

志望される方は、人間生活学科の3つのアプローチを踏まえ、高等学校において地理歴史・公民の諸科目など文科系の基礎を幅広く履修していることを望みます。

④ 推薦入試

文教育学部 人文科学科

人文科学科は、人類のさまざまな歩みのなかから、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。高校では、さまざまな教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心をもったテーマについ

て自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探求の面白さを経験してきていただきたいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある学生の皆さんの入学を希望します。

人文科学科には、哲学・倫理学・美術史コース、比較歴史学コース、地理学コースの3つのコースがあり、学科共通進学コースとしてのグローバル文化学環を含め、1年次末に、人文科学科の各コース、グローバル文化学環の提供するいずれかの主プログラムを選択します。なお、主プログラムの選択は、他の選抜方式で入学した学生と同じ条件で行われます。

推薦入試では、第1次選考合格者に対し、第2次選考を行います。第2次選考では、自分が学びたいと考えている専門分野（哲学・倫理学・美術史、歴史学、地理学）についての基本的知識や考え方（問題意識）、意欲や資質などを見るため、小論文と面接（口述試験を含む。）を課し、総合的に合否を判断します。

（小論文）課題文や資料を読んだうえで、設問に沿って論述してもらいます。課題文・資料の内容を十分に把握し（読解力）、自分なりの論理を組み立て（論理展開力や独創性）、それを適切かつ表現豊かに論述できるか（表現力）、を評価の対象とします。

（面接）質疑を通して、将来の勉学の計画や自分の考えなどを明確にもち、かつそれを相手に的確に表現できるかといったコミュニケーション能力を見ます。

文教育学部 言語文化学科

言語文化学科には、日本語・日本文学コース、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コースの4つのコースがあります。対象となる言語はそれぞれ異なりますが、中国語やフランス語の場合にはその初歩から上級までの修得、日本語や英語の場合には当該言語のより深い理解を目指し、またそれぞれの言語で表現された作品の本格的な研究に取り組むこととなります。「ことば」というものの面白さに興味を持ち、そこに何かを発見したいと思っている皆さん、また洗練された語学力を身につけて広い世界へ足を踏み出そうと考える皆さん、また「文学・芸術」が好きで、ただ鑑賞するだけでなく「その先」へ進みたいと思っている皆さんを歓迎します。

推薦入試では、日本語・日本文学コース、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コースのいずれかでの学習と研究に特に強い興味と意欲を持ち、勉強したい専門分野のはっきりしている受験生を求めます。入学後は一般入試で入学した学生と同じ条件で、1年次末に最終的に所属するコースが決まります。

選考は書類による第1次選考と、小論文及び面接（口述試験を含む。）による第2次選考に分かれます。第2次選考の小論文では、それぞれの志望分野に相応しい読解力や表現力、論理の展開力、志望分野に対する関心や問題意識の高さなどを評価します。面接では、質疑を通して、自らの志向・個性などを相手に的確に伝えるコミュニケーション能力や自己表現力を見ます。

文教育学部 人間社会科学科

人間社会科学科では、人間について深い理解を持ち、その理解を現実的な場面で役立てていこうとする意欲ある人を求めます。当学科には、人間の意識や行動の社会的側面を考えたり（社会学）、心理的側面を考察したり（心理学）、人間の発達について多角的に考える（教育科学）という、3つの研究領域があります。

推薦入試では、子どもや大人の学習・教育の勉学や、教育問題の研究に強い意欲をもち、将来、教育科学コース（主プログラム）を選択して教育思想、教育史、教育社会学、文化人類学、教育方法学、教育課程論、教育開発論、教育行財政学、生涯学習論、博物館学といった、教育科学のさまざまな研究方法を通して、教育問題に迫り、そのうえで大学院に進んで教育科学の研究を深めたい、あるいは小学校の教員その他の教育関係の職に就きたいと考えている学生を期待します。高校では、さまざまな教科や科目について幅広く学んでください。特に、国語・英語（外国語）・数学は、大学での学習と研究にとってたいへん重要な基礎的能力を育成するのに役立つでしょう。このほか地歴・公民や理科の学習を通じて、人間について深く考える姿勢と能力を身につけた学生を歓迎します。推薦入試は、第1次選考を出願書類の審査によって行い、第2次選考では、教育科学に関する小論文と面接（口述試験を含む。）によって総合的に判断します。

文教育学部 芸術・表現行動学科

本学科は、人間の芸術及び表現行動としてのパフォーマンスとその学問的研究との両方を、同時に追求しようとする貪欲な人を求めています。本学は小規模ながらも総合大学ですから、その特性を十分に利用して、「自ら」

多様な可能性を切り開こうという積極的姿勢が要求されます。

なお、本学科では、学びの専門性を活かすために、複数プログラム選択履修制をとっておりません。受験の際に選択したコースに2年次から所属することになります。

[舞踊教育学コース] 本コースは、舞踊を中心にスポーツから日常動作にいたる人間の身体活動や表現について、理論と実践の両面から積極的に研究を進めることのできる人材を求めています。舞踊は高校で学ぶ全ての教科と関連していますので、幅広く学習を進めてください。その上で、保健体育、国語及び英語については特に重点的に学習し、基本的な運動能力、文章表現力、英文の読解力をきちんと身につけてきてください。なお、推薦入試は、本学のカリキュラム履修に必要な能力を有し、理論と実技のいずれかで特別に優れた能力を有する学生を募集するためのものです。

[音楽表現コース] 音楽は人間の感性に関わるとともに、高度に知的社会的な活動であり、人間の営みに深く根づいています。勉強も実技もきちんとやってみたい、そんな贅沢な悩みを抱えている人にこそ、本コースは開かれています。高校で学ぶ教科はすべて重要ですが、音楽は言うまでもなく、英語と世界史はしっかりと身につけてきてください。推薦入試では、第1次書類選考合格者に対し、小論文・実技検査・面接（口述試験を含む。）を行います。

理学部 数学科

数学は、あらゆる現象の背後にある数や図形の永久に変わらない真理を追究する学問です。それを学ぶことで、魂を揺さぶる美しいものや実生活で役に立つものに出会い、また世界を見通すための厳格な論証法を身につけられると考えます。

このような観点から、数学科では主に以下のような目標を持った人を求めます。

- ・教師や研究者のように数学を職業としたい人
- ・数理的な素養を生かして社会を支える仕事につきたい人
- ・とにかく数学に対して意欲を持って勉強したい人

受験生に求めるのは以下のことです。

- ・高校での数学を十分に理解し、大学での講義に必要な数学の知識を身につけている。
- ・文章から数学的な意味を読み取ることができる。
- ・自分の考えを数学的、論理的な文章に表現して相手に伝えられる。

推薦入試では、書類選考のほか、面接（口述試験を含む。）を行います。面接ではあらかじめ数学的内容の質問事項をいくつか提示し、考えを整理してもらう時間を設けます。その上でそれらについてどのように考えたかなどいろいろなことを質問します。基本的なことがらを筋道正しくきちんと考えることができ、かつ説明できるかが試されます。合格の判定は提出された書類（高校での成績、志望理由書、推薦書など）と面接の結果を総合して行われます。

理学部 物理学科

自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望します。（もちろん、必要になれば教員の適切な助言および指導を受けることができます。）また、豊かな人間性ととも、他人との協調性に優れた人格が望まれ、忍耐力も必要です。卒業後には物理学の勉学を通して培った、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を各方面で発揮し、社会において指導的役割を果たす女性となることを期待しています。しかしながら究極的には、「物理学を学んで生き生きと充実した人生を送ること」が最も大切と考えています。

推薦入試では、高等学校長作成の調査書・推薦書に加えて本人が記載する志望理由書の内容が、物理学科のアドミッション・ポリシーに合致するかどうかを重視しています。補足資料（自由研究レポート、実験ノート、それまで関心を持ち続けたテーマについて考えをまとめたノート等のコピー）の添付を認めているのも、自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を発見したいからです。

第1次選考合格者に対しては、2種類の面接（口述試験を含む。）を課しています。別室で解かせた計算問題に関する質疑応答から計算力と理解力を問う口述試験（20分間）と、様々な物理現象を直観的に説明させることから自由な発想力と直感力を問う口述試験（20分間）の2種類がこれにあたります。可否は出願書類と2種類の面接を総合して判定します。

理学部 化学科

化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に協力して発展するものであり、その領域は数学・物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学や地球科学の知識の必須な分野まで広がっています。したがって、化学科の志願者は、高校では化学のほかこれら基礎となる科目、特に、物理・生物を幅広く履修して、論理的思考力や自然科学の基礎知識をしっかりと体得しておくことが望まれます。また、英語で書かれた文献を読みこなす語学力も要求されますので、高等学校での英語の十分な学習が必要です。入学後には、専門の学習や研究の基盤となる実験能力を養うため、学生実験を重視しています。

推薦入試では、第1次書類選考合格者に対し、面接（口述試験を含む。）を課しています。面接では、化学を中心に自然科学全般の知識と理解力、筋道を立てて考える論理的な思考力や、答え至るまでの自分の考えを正しく表現する能力を問い、応用力や個性的な発想力も評価します。なお、最近の面接の内容に関しては、本学入試チームホームページ（入試過去問題、<http://www.ao.ocha.ac.jp/>）に紹介しています。合格判定は、出願書類と面接を総合して行います。

理学部 生物学科

生物学は、微生物からヒトまで、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのためには、いろいろな視点から考える柔軟な思考力とそれを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーをもつ学生を希望します。“生き物”に関する理解と関心を深め、人間社会により豊かな知の財産を築ける人に育つことを期待しています。

推薦入試では、多様な領域を含む生物学を学ぶには、多彩な才能の持ち主を期待します。第1次選考合格者に対し、小論文と面接（口述試験を含む。）を課します。小論文では、生物学を中心とした科学の基礎知識、科学的文章の読解力、論理的表現力を判定します。面接では、面接担当教員との質疑応答を通して、自らの生物学の知識と考え方、社会に向き合う態度、将来への明確な展望、思考能力、個性や才能等、さらに、これらを面接担当教員に的確に伝える能力を重視します。合格判定は、出願書類と第2次選考の成績を総合して行います。

理学部 情報科学科

情報科学はコンピュータの出現によってその存在と価値が確かめられた「情報」とよばれる概念を、エネルギーや物質と並ぶ世界の主要な構成要素として認識し、その生成、管理、利用に関する原理を探究する新しい学問分野です。今日、その応用は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学にも及んでいます。この奥深さを理解し、これまでの成果を学びたい人、さらに今後の進展に積極的に貢献したい人にぜひ進学してきてほしいと思います。情報科学は、これまでの数理学や自然科学の考え方を偉大な先達として独自の方法論を展開しようとしていることから、広くかつ深い理系のセンスが問われます。情報科学を通じて21世紀の科学技術を支えるのは自分たち女性だと心底思っている人、あるいは思いたい人、あるいはそういわれて「そうなんだ」と今気づいた人を大歓迎します。

推薦入試では、高等学校長作成の調査書・推薦書に加えて本人が記載する志望理由書の内容が、情報科学科のアドミッション・ポリシーに合致するかどうかを重視しています。また第1次選考合格者に対しては、2種類の面接（口述試験を含む。）を課しています。特に数学の問題に関する質疑応答から推論力とコミュニケーション能力及び問題分析能力と解決能力を問う口述試験を行います。出願書類とこの口述試験を総合的に評価して合格判定を行っています。なお、情報科学科に入学後の講義は高校における数学Ⅲの知識と外国語(特に英語)能力を仮定して行われます。ただし入学時にコンピュータを使えることは仮定しません。

生活科学部 食物栄養学科

食物は人間が生きていくために必要であり、おいしい料理や豊かな食生活はわれわれの生活にうおいと楽しさを与えます。一方で、偏った食事や不規則な食習慣はさまざまな疾患の原因となって、われわれの健康に影響を及ぼします。食物と人間および健康は時代を問わず、社会の人々から大きな関心がもたれています。本学科は、豊かな食生活や健康な社会の実現に向けて、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた社会のリーダーとなる専門家の育成をめざしています。そのために、本学科では、食品化学、食品貯蔵学、調理科学、栄養化学、臨床栄養学、応用栄養学、栄養教育学、給食経営管理学、公衆栄養学などさまざまな学問分野において、遺

伝子レベルから人間栄養学的なものまで幅広く教育研究を行っています。少人数教育による実験実習を重視し、卒業研究では、全員が食物栄養学科や生活環境教育研究センターの各研究室で、特定のテーマについて研究を行います。また、本学科を卒業すると、栄養士免許を取得できると同時に、管理栄養士の国家試験受験資格が得られます。

本学科の教育研究は自然科学を基盤とするため、高等学校において化学、生物、物理などの自然科学の基礎をしっかりと学習していることを望みます。具体的には、数学については数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bを、理科については物理Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物Ⅰ・Ⅱのうち2科目以上を履修しておくことを勧めます。また、数学Ⅲ・Cについても履修していることを望みます。食物や栄養、健康に強い関心を持ちそれを社会に還元しようとする意欲のある人には最適な学科です。

推薦入試では、第1次選考では書類審査にて評価し、第2次選考では小論文及び面接（口述試験を含む。）により基礎学力や論理的思考、勉学に対する意欲を総合的に評価します。

生活科学部 人間・環境科学科

人間は、利便性、快適性、安全性などを追求し、身の回りの環境を常に変えて来ました。食糧は豊富になり、暮らしは便利になり、病気が減り寿命も延びました。しかしその反面、環境のあまりに大きく急速な変化に対して人間が適応できず、人類の存続にも影響する様々な問題も生じてきています。これに対して本学科では、「人間にとっての環境、環境にとっての人間」という視点に立ち、人間と環境の相互の働きかけを具体的に評価・設計・提案し、よりよい生活環境を創造するための研究と教育を行っています。

本学科の柱となる学問分野には、自然人類学、人体生理学、人間工学、福祉工学、環境機能材料学、環境化学、環境衛生工学、建築学などがあります。自然科学の好きな人、人間と環境にかかわる基礎的な科学を十分に学び、深く研究してみたい人、専門家として真に健康で豊かな生活を構築するために寄与したいと考えている人を、本学科は歓迎します。志望される方は、高等学校において理数系の基礎をしっかりと履修していることを望みます。具体的には、数学については数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bを、理科については物理Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物Ⅰ・Ⅱ、地学Ⅰ・Ⅱのうち2科目以上を履修しておくことを強く望みます。また、数学Ⅲ・Cについては履修していることを望みます。

推薦入試では、人間・環境科学科の専門領域に具体的な問題意識と強い勉学意欲のある人、研究者としての資質をもつ人などが望まれます。第1次選考では書類審査、第2次選考では面接（口述試験を含む。）により論理的な考え方や基礎学力を評価します。

生活科学部 人間生活学科

人間の生活は、生涯にわたる人間の発達、生活を営むための人間社会のあり方、民族、歴史や伝統、文化などさまざまな面が相互に関連した、複雑で総合的な営みです。高度に複雑化した現代社会においては、この複雑な人間生活の営みを総合的に理解し、人間が生涯を通して生き生きと生活できるための条件や社会の仕組み、文化のあり方を明らかにし、それを実現する人材が求められています。

人間生活学科では、こうした豊かな人間生活の実現を担う人材の育成を、相互に関連する3つのアプローチによってめざしています。①人間の生涯発達にかかわる発達心理学・臨床心理学・保育学的理解と実践の連携、家庭や保育あるいは心理臨床などの現場に役立つ理解—発達臨床心理学、②地域社会から国際社会まで、多元的な社会環境を視野に入れ、家族、消費者、女性、高齢者、子ども、制度と政策の問題など、生活と社会及びその関係についての社会科学的理解—生活社会科学、③人間にとって最も身近な服飾と住居、工芸、デザインを中心とする生活造形を対象とし、生活文化の歴史と現在について、美学的・比較文化的・民俗学的理解—生活文化学の3つです。こうした課題に関心があり、問題意識と研究意欲を持っている人、錯綜する現代の生活状況の中で、人間性を重視した社会を築くために貢献したいと考えている人、潤いのある生活を実現しようという熱意をもっている人には、ぜひ人間生活学科で学んでほしいと思います。志望される方は、人間生活学科の3つのアプローチを踏まえ、高等学校において地理歴史・公民の諸科目など文科系の基礎を幅広く履修していることを望みます。

推薦入試では、選考は、書類による第1次選考と、その合格者に対する第2次選考の2段階で行います。第1次選考では、調査書、志望理由書、推薦書によって、基礎学力や専門領域への適性を評価します。第2次選考では、面接（口述試験を含む。）により、論理的思考力、自己表現力、志望領域に対する問題意識などを総合的に評価します。

⑤ 帰国子女・外国学校出身者特別入試

文教育学部 人文科学科

人文科学科は、人類のさまざまな歩みのなかから、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。

入学前には、さまざまな教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心をもったテーマについて自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探求の面白さを経験してきていただきたいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある学生の皆さんの入学を希望します。

なお、人文科学科には、哲学・倫理学・美術史コース、比較歴史学コース、地理学コースの3つのコースがあり、入学後、自分がなにを学びたいのかを見極め、1年次末に、人文科学科の各コース、グローバル文化学環の提供するいずれかの主プログラムを選択します。なお主プログラムの選択は、他の選抜方式で入学した学生と同じ条件で行われます。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、第1次選考合格者に対し、第2次選考を行います。第2次選考では推薦入試の基準や判定に加え、外国における学校生活から学んだこと、及びそれを本学入学後どのように活かそうかと考えているのかが問われます。

文教育学部 言語文化学科

言語文化学科には、日本語・日本文学コース、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コースの4つのコースがあります。対象となる言語はそれぞれ異なりますが、中国語やフランス語の場合にはその初歩から上級までの修得、日本語や英語の場合には当該言語のより深い理解を目指し、またそれぞれの言語で表現された作品の本格的な研究に取り組むこととなります。「ことば」というものの面白さに興味を持ち、そこに何かを発見したいと思っている皆さん、また洗練された語学力を身につけて広い世界へ足を踏み出そうと考える皆さん、また「文学・芸術」が好きで、ただ鑑賞するだけでなく「その先」へ進みたいと思っている皆さんを歓迎します。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コースのいずれかでの学習と研究に特に強い興味と意欲を持ち、勉強したい専門分野のはっきりしている受験生を求めます。また、外国での学校生活から多くを学び、大学でその経験を生かした研究活動を進めることのできる皆さんの応募を期待しています。入学後は一般入試で入学した学生と同じ条件で、1年次末に最終的に所属するコースが決まります。

選考は書類による第1次選考と、小論文及び口述試験による第2次選考に分かれます。第2次選考の小論文では、それぞれの志望分野に相応しい読解力や表現力、論理の展開力、志望分野に対する関心や問題意識の高さなどを評価します。口述試験では、質疑を通して、自らの志向・個性などを相手に的確に伝えるコミュニケーション能力や自己表現力を見ます。

文教育学部 人間社会科学科

人間社会科学科では、人間について深い理解を持ち、その理解を現実的な場面で役立てていこうとする意欲ある人を求めます。当学科には、人間の意識や行動の社会的側面を考えたり（社会学）、心理的側面を考察したり（心理学）、人間の発達について多角的に考える（教育科学）という、3つの研究領域があります。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、第1次選考合格者に対して、小論文及び口述試験を課します。これに関するポリシーは推薦入試と同様で、将来、教育科学コース（主プログラム）を選択して教育問題にさまざまな研究方法から迫りたいと考えている学生を期待します。帰国子女・外国学校出身者特別入試の場合には、さらに、口述試験において外国における学校生活から何を学んだのか、及びそれを本学に入学後どのように活かそうと考えているのかが問われます。合格判定は、小論文と口述試験の内容を総合して判断します。

文教育学部 芸術・表現行動学科

本学科は、人間の芸術及び表現行動としてのパフォーマンスとその学問的研究との両方を、同時に追求しよう

とする貪欲な人を求めています。本学は小規模ながらも総合大学ですから、その特性を十分に利用して、「自ら」多様な可能性を切り開こうという積極的姿勢が要求されます。

なお、本学科では、学びの専門性を活かすために、複数プログラム選択履修制をとっておりません。受験の際に選択したコースに2年次から所属することになります。

〔舞踊教育学コース〕本コースは、舞踊を中心にスポーツから日常動作にいたる人間の身体活動や表現について、理論と実践の両面から積極的に研究を進めることのできる、両者のバランスの取れた、エネルギッシュな人材を求めています。なお、帰国子女・外国学校出身者特別入試の場合には、さらに、外国における学校生活から何を学んだのか、および、それを本学に入学後どのように活かそうと考えているのかが問われます。

〔音楽表現コース〕音楽は人間の感性に関わるとともに、高度に知的社会的な活動であり、人間の営みに深く根づいています。勉強も実技もきちんとしてみたい、そんな贅沢な悩みを抱えている人にこそ、本コースは開かれています。帰国子女・外国学校出身者特別入試の場合には、第1次書類選考合格者に対し、小論文・実技検査・口述試験を行います。この基準に加え面接にて、外国での学校生活において体験・学んだことと自身の音楽との関わりなどに関する質疑応答があります。合格判定は、出願書類と第2次選考の成績を総合して行います。

理学部 数学科

数学は、あらゆる現象の背後にある数や図形の永久に変わらない真理を追究する学問です。それを学ぶことで、魂を揺さぶる美しいものや実生活で役に立つものに出会い、また世界を見通すための厳格な論証法を身につけられると考えます。

このような観点から、数学科では主に以下のような目標を持った人を求めます。

- ・教師や研究者のように数学を職業としたい人
- ・数理的な素養を生かして社会を支える仕事につきたい人
- ・とにかく数学に対して意欲を持って勉強したい人

受験生に求めるのは以下のことです。

- ・高校での数学を十分に理解し、大学での講義に必要な数学の知識を身につけている。
- ・文章から数学的な意味を読み取ることができる。
- ・自分の考えを数学的、論理的な文章に表現して相手に伝えられる。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、第1次選考合格者に対して、口述試験を行います。口述試験のうち数学に関わるポリシーは推薦入試と同様です。帰国子女・外国学校出身者特別入試の場合には、さらに、外国における学校生活から何を学んだのか、及び本学入学後それをどのように活かそうと考えているのかを訊ねます。合格判定は、出願書類と口述試験を総合して行います。

理学部 物理学科

自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望します。(もちろん、必要になれば教員の適切な助言および指導を受けることができます。)また、豊かな人間性ととともに、他人との協調性に優れた人格が望まれ、忍耐力も必要です。卒業後には物理学の勉学を通して培った、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を各方面で発揮し、社会において指導的役割を果たす女性となることを期待しています。しかしながら究極的には、「物理学を学んで生き生きと充実した人生を送ること」が最も大切と考えています。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、第1次選考合格者に対して、2種類の口述試験を課しています。これに関するポリシーは推薦入試と同様です。帰国子女・外国学校出身者特別入試の場合には、さらに外国における学校生活から何を学んだのか、及びそれを本学に入学後どのように活かそうと考えているのかを問います。合格は、出願書類と2種類の口述試験(各々20分間)を総合して判定します。

理学部 化学科

化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に協力して発展するものであり、その領域は数学・物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学や地球科学の知識の必須な分野まで広がっています。したがって、化学科の志願者は、高校では化学のほかこれら基礎となる科目、特に、物理・生物を幅広く履修して、論理的思考力や自然科学の基礎知識をしっかりと体得しておくことが望まれます。また、英語で書かれた文献を読みこなす語学力も要求されますので、高等学校での英語の十分な学習が必要です。入学後には、専門の学習や研究の基盤となる実験能力を養うため、学生実験を重視しています。これらをふまえて、入学試験におい

ては、総合的理解力をその評価基準とします。一般入試に対して特別入試では、口述試験を通して化学を含む自然科学における総合的理解力はもちろんのこと、論理的思考力・文章表現力に併せて創造性も評価します。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、第1次書類選考合格者に対し、口述試験を課しています。推薦入試の基準や判定に加え、外国における学校生活から学んだこと、及びそれを本学入学後どのように活かそうと考えているのかが問われます。なお、最近の口述試験の内容に関しては、本学入試チームホームページ（入試過去問題、<http://www.ao.ocha.ac.jp/>）に紹介しています。合格判定は、出願書類と口述試験を総合して行います。

理学部 生物学科

生物学は、微生物からヒトまで、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのためには、いろいろな視点から考える柔軟な思考力とそれを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーをもつ学生を希望します。“生き物”に関する理解と関心を深め、人間社会により豊かな知の財産を築ける人に育つことを期待しています。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、推薦入試の基準や判定に加え、外国における学校生活から学んだこと、それを本学入学後にどう活かそうと考えているのかが重視されます。合格判定は、出願書類と第2次選考の成績を総合して行います。

理学部 情報科学科

情報科学はコンピュータの出現によってその存在と価値が確かめられた「情報」とよばれる概念を、エネルギーや物質と並ぶ世界の主要な構成要素として認識し、その生成、管理、利用に関する原理を探究する新しい学問分野です。今日、その応用は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学にも及んでいます。この奥深さを理解し、これまでの成果を学びたい人、さらに今後の進展に積極的に貢献したい人にぜひ進学してきてほしいと思います。情報科学は、これまでの数理学や自然科学の考え方を偉大な先達として独自の方法論を展開しようとしていることから、広くかつ深い理系のセンスが問われます。情報科学を通じて21世紀の科学技術を支えるのは自分たち女性だと心底思っている人、あるいは思いたい人、あるいはそういわれて「そうなんだ」と今気づいた人を大歓迎します。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、第1次選考合格者に対して、筆記試験および口述試験を課しています。筆記試験では、理系の基本的な能力を問うための数学の試験と、表現力および自分で考えながら論述する能力を問うための小論文を課しています。口述試験では、入学後の必修講義に対応できるだけの数学等の学力が備わっているかどうかを判断します。さらに帰国子女・外国学校出身者特別入試の場合には、外国における学校生活から何を学んだのか、およびそれを本学科に入学後どのように活かそうと考えているのかも問われます。合格判定は、出願書類を参考にしながら、筆記試験の合計点と口述試験の内容を総合して判断しています。なお、情報科学科に入学後の講義は高校程度の外国語（特に英語）能力を仮定して行われます。ただし入学時にコンピュータを使えることは仮定しません。

生活科学部 食物栄養学科

食物は人間が生きていくために必要であり、おいしい料理や豊かな食生活はわれわれの生活にうおいと楽しさを与えます。一方で、偏った食事や不規則な食習慣はさまざまな疾患の原因となって、われわれの健康に影響を及ぼします。食物と人間および健康は時代を問わず、社会の人々から大きな関心もたれています。本学科は、豊かな食生活や健康な社会の実現に向けて、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた社会のリーダーとなる専門家の育成をめざしています。そのために、本学科では、食品化学、食品貯蔵学、調理科学、栄養化学、臨床栄養学、応用栄養学、栄養教育学、給食経営管理學、公衆栄養学などさまざまな学問分野において、遺伝子レベルから人間栄養学的なものまで幅広く教育研究を行っています。少人数教育による実験実習を重視し、卒業研究では、全員が食物栄養学科や生活環境教育研究センターの各研究室で、特定のテーマについて研究を行います。また、本学科を卒業すると、栄養士免許を取得できると同時に、管理栄養士の国家試験受験資格が得られます。本学科の教育研究は自然科学を基盤とするため、高等学校において化学、生物、物理などの自然科学の基礎をしっかりと学習していることを望みます。食物や栄養、健康に強い関心を持ちそれを社会に還元しようとする意欲のある人には最適な学科です。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、推薦入試の基準や判定に加え、外国における学校生活から学んだこと、それを本学入学後にどう活かそうと考えているのかが問われます。合格判定は、出願書類と第2次選考の成績を総合して行います。

生活科学部 人間・環境科学科

人間は、利便性、快適性、安全性などを追求し、身の回りの環境を常に変えて来ました。食糧は豊富になり、暮らしは便利になり、病気が減り寿命も延びました。しかしその反面、環境のあまりに大きく急速な変化に対して人間が適応できず、人類の存続にも影響する様々な問題も生じてきています。これに対して本学科では、「人間にとっての環境、環境にとっての人間」という視点に立ち、人間と環境の相互の働きかけを具体的に評価・設計・提案し、よりよい生活環境を創造するための研究と教育を行っています。本学科の柱となる学問分野には、自然人類学、人体生理学、人間工学、福祉工学、環境機能材料学、環境化学、環境衛生工学、建築学などがあります。自然科学の好きな人、人間と環境にかかわる基礎的な科学を十分に学び、深く研究してみたい人、専門家として真に健康で豊かな生活を構築するために寄与したいと考えている人を、本学科は歓迎します。志望される方は、高等学校において理数系の基礎をしっかりと履修していることを望みます。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、推薦入試の基準や判定に加え、外国における学校生活から学んだこと、それを本学入学後にどう活かそうと考えているのかが問われます。合格判定は、出願書類と第2次選考の成績を総合して行います。

生活科学部 人間生活学科

人間の生活は、生涯にわたる人間の発達、生活を営むための人間社会のあり方、民族、歴史や伝統、文化などさまざまな面が相互に関連した、複雑で総合的な営みです。高度に複雑化した現代社会においては、この複雑な人間生活の営みを総合的に理解し、人間が生涯を通して生き生きと生活できるための条件や社会の仕組み、文化のあり方を明らかにし、それを実現する人材が求められています。

人間生活学科では、こうした豊かな人間生活の実現を担う人材の育成を、相互に関連する3つのアプローチによってめざしています。①人間の生涯発達にかかわる発達心理学・臨床心理学・保育学的理解と実践の連携、家庭や保育あるいは心理臨床などの現場に役立つ理解—発達臨床心理学、②地域社会から国際社会まで、多元的な社会環境を視野に入れ、家族、消費者、女性、高齢者、子ども、制度と政策の問題など、生活と社会及びその関係についての社会科学的理解—生活社会科学、③人間にとって最も身近な服飾と住居、工芸、デザインを中心とする生活造形を対象とし、生活文化の歴史と現在について、美学的・比較文化的・民俗学的理解—生活文化学の3つです。こうした課題に関心があり、問題意識と研究意欲を持っている人、錯綜する現代の生活状況の中で、人間性を重視した社会を築くために貢献したいと考えている人、潤いのある生活を実現しようという熱意をもっている人には、ぜひ人間生活学科で学んでほしいと思います。

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、推薦入試の基準や判定に加え、外国における学校生活から学んだこと、それを本学入学後にどう活かそうと考えているのかが問われます。合格判定は、出願書類と第2次選考の成績を総合して行います。

⑥ 私費外国人留学生特別入試

文教育学部 人文科学科

人文科学科は、人間のさまざまな歩みのなかから、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。

入学前には、さまざまな教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心をもったテーマについて自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探求の面白さを経験してきていただきたいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある方の入学を希望します。とくに留学生には、異なる文化圏で生活・勉学することから掴むもの、そして他の日本人学友へのフィードバックを期待します。

なお、人文科学科には、哲学・倫理学・美術史コース、比較歴史学コース、地理学コースの3つのコースがあ

り、入学後、自分がなにを学びたいのかを見極め、1年次末に、人文科学科の各コース、グローバル文化学環の提供するいずれかの主プログラムを選択します。入学後は一般の学生と同じカリキュラムを受講していくわけですから、それについていくだけの日本語能力と基礎学力が必要となります。

実際の入学試験では、日本留学試験および本学の学力検査（外国語）の成績、最終出身校の成績証明書、及び口述試験の結果などから総合的に合否を判定します。日本留学試験及び本学の入学試験では、日本語の能力を始めとして、高等学校卒業水準の全般的な基礎学力を見ます。口述試験では、これまで学んできたこと、入学後の勉学の計画と意欲、人文科学科で何を学びたいのか、などについて質問し、それらの問いに的確に回答できるかといった点を評価の対象とします。

文教育学部 言語文化学科

皆さんは生まれて以来、家庭や社会での生活の中で自分の母語を操る力を獲得してきました。また学校では、母語に加えて外国語の授業も受けてきたでしょう。そして、同時に、心揺さぶる文学作品にもいろいろと出会ってきたことでしょう。そういった経験の中で言葉や文学の美しさ、不思議さを一度も感じたことのない人はあまりいないだろうと思います。言葉や文学の美しさへの感動、不思議さへの好奇心は、まだ漠然としたものであるかもしれません。言語文化学科での学習・研究は、それを明確なことで形にし、さらにそれを解き明かしていく方法を皆さんに示していくはずで、いったんそのような方法に目を開かれたならば、言語も文学もこれまでよりさらに面白く、驚きに満ちたものであることに皆さんは気づくに違いありません。また、皆さんは言語のみでなく、それを支える各地域の文化や思想についても学ぶことになるでしょう。異なる文化圏から来られる皆さんにとっては、異文化間の交流ということも、興味のあるテーマではないでしょうか。そうした事柄についても、ぜひこの学科で学習してほしいと思います。私たち言語文化学科は、言葉に愛着を持ち、以上述べてきたような学習・研究に興味を感じ、かつそのための訓練に耐えられるだけの十分な基礎学力と、旺盛な知的好奇心を持った学生を求めます。

選考は、語学能力と全般的基礎学力を測るために、日本留学試験の点数を参考とし、また外国語の試験、面接による口述試験が課されます。口述試験では、質疑を通して、本学での学習計画などを的確に相手に伝えられるかどうかといったコミュニケーション能力や自己表現力を判断します。さらに最終出身校での成績などを加えて総合的に合否を判定します。

文教育学部 人間社会科学科

当学科には、人間の意識や行動の社会的側面や心理的側面を考察したり、人間の発達について教育科学的、総合的に考えるなどの、さまざまな研究アプローチがありますが、共通しているのは、自分を含めた「人間」に対するあくなき好奇心です。人間に関わる諸問題を学問的に解明したり、そこで得られた知識を実際に役立てていきたいと考える学生の進学を期待します。

当学科を受験するにあたっては、さまざまな教科や科目について幅広く学んできてください。特に、日本語・英語（外国語）・数学は、大学での学習と研究にとってたいへん重要な基礎的能力を育成するために必要です。このほか社会科学（地理、歴史、公民など）や自然科学（理科）の学習を通じて、人間について深く考える姿勢と能力を身につけた学生を歓迎します。出願資格には、日本留学試験を受験した者であることを定めてあります。

この日本留学試験によって、日本語能力と、幅広い基礎的な知識・教養を身につけているかどうかを判断します。また、入学試験では、大学での研究に必要な不可欠な基礎的能力と日本語能力を身につけた志願者を得るために、外国語の学力検査と口述試験を行います。

文教育学部 芸術・表現行動学科

本学科は、人間の芸術及び表現行動としてのパフォーマンスとその学問的研究との両方を、同時に追求しようとする貪欲な人を求めています。本学は小規模ながらも総合大学ですから、その特性を十分に利用して、「自ら」多様な可能性を切り開こうという積極的姿勢が要求されます。

なお、本学科では、学びの専門性を活かすために、複数プログラム選択履修制をとっておりません。受験の際に選択したコースに2年次から所属することになります。

〔 舞踊教育学コース 〕 本コースは、舞踊を中心にスポーツから日常動作にいたる人間の身体活動や表現について、理論と実践の両面から積極的に研究を進めることのできる、両者のバランスの取れた、エネルギー的な人材を求めています。

[音楽表現コース] 音楽は人間の感性に関わるとともに、高度に知的社会的な活動であり、人間の営みに深く根づいています。勉強も実技もきちんとやってみたい、そんな贅沢な悩みを抱えている人にこそ、本コースは開かれています。

文教育学部 グローバル文化学環について

文教育学部では平成17年度から「グローバル文化学環」という新しいコースを設置しました。この学環は、国際協力やビジネス・学校教育・地域社会など、さまざまな場で、文化の差異を理解し、それを越えて協働できるグローバル時代の新しい市民を育成することを目的にしています。

その特徴は、文教育学部の3つの学科（人文科学・言語文化・人間社会）のいずれの学生も、主プログラムとして選択できることです。また、所属学科のいずれかの副プログラムを履修することで、学際的な学修をおこなうことができます。

この学環での学修を希望する人は、自分の関心や得意分野にそって、受験する学科を選んでください。カリキュラムなど、さらに詳しい情報を知りたい人は、文教育学部のホームページにアクセスしてみてください。

理学部 数学科

数学は、あらゆる現象の背後にある数や図形の永久に変わらない真理を追究する学問です。それを学ぶことで、魂を揺さぶる美しいものや実生活で役に立つものに出会い、また世界を見通すための厳格な論証法を身につけられると考えます。

このような観点から、数学科では主に以下のような目標を持った人を求めます。

- ・教師や研究者のように数学を職業としたい人
- ・数理的な素養を生かして社会を支える仕事につきたい人
- ・とにかく数学に対して意欲を持って勉強したい人

受験生に求めるのは以下のことです。

- ・高校での数学を十分に理解し、大学での講義に必要な数学の知識を身につけている。
- ・文章から数学的な意味を読み取ることができる。
- ・自分の考えを数学的、論理的な文章に表現して相手に伝えられる。

理学部 物理学科

自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望します。（もちろん、必要になれば教員の適切な助言および指導を受けることができます。）また、豊かな人間性ととともに、他人との協調性に優れた人格が望まれ、忍耐力も必要です。卒業後には物理学の勉強を通して培った、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を各方面で発揮し、社会において指導的役割を果たす女性となることを期待しています。しかしながら究極的には、「物理学を学んで生き生きと充実した人生を送ること」が最も大切と考えています。

理学部 化学科

化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に協力して発展するものであり、その領域は数学・物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学や地球科学の必須な分野まで広がっています。したがって、化学科の志願者は、高校では化学のほかこれら基礎となる科目、特に、物理・生物を幅広く履修して、理論的思考力や自然科学の基礎知識をしっかりと体得しておくことが望まれます。また、英語で書かれた文献を読みこなす語学力も要求されますので、高等学校での英語の十分な学習が必要です。入学後には、専門の学習や研究の基盤となる実験能力を養うため、学生実験を重視しています。これらをふまえて、入学試験においては、総合的理解力をその評価基準とします。

理学部 生物学科

生物学は、微生物からヒトまで、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのためには、いろいろな視点から考える柔軟な思考力とそれを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーをもつ学生を希望します。

“生き物”に関する理解と関心を深め、人間社会により豊かな知の財産を築ける人に育つことを期待しています。

理学部 情報科学科

情報科学はコンピュータの出現によってその存在と価値が確かめられた「情報」とよばれる概念を、エネルギーや物質と並ぶ世界の主要な構成要素として認識し、その生成、管理、利用に関する原理を探究する新しい学問分野です。今日、その応用は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学にも及んでいます。この奥深さを理解し、これまでの成果を学びたい人、さらに今後の進展に積極的に貢献したい人にぜひ進学してきてほしいと思います。情報科学は、これまでの数理学や自然科学の考え方を偉大な先達として独自の方法論を展開しようとしていることから、広くかつ深い理系のセンスが問われます。情報科学を通じて 21 世紀の科学技術を支えるのは自分たち女性だと心底思っている人、あるいは思いたい人、あるいはそういわれて「そうなんだ」と今気づいた人を大歓迎します。

生活科学部 食物栄養学科

食物は人間が生きていくために必要であり、おいしい料理や豊かな食生活はわれわれの生活にうおいと楽しさを与えます。一方で、偏った食事や不規則な食習慣はさまざまな疾患の原因となって、われわれの健康に影響を及ぼします。食物と人間および健康は時代を問わず、社会の人々から大きな関心がもたれています。

本学科は、豊かな食生活や健康な社会の実現に向けて、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた社会のリーダーとなる専門家の育成をめざしています。そのために、本学科では、食品化学、食品貯蔵学、調理科学、栄養化学、臨床栄養学、応用栄養学、栄養教育学、給食経営管理学、公衆栄養学などさまざまな学問分野において、遺伝子レベルから人間栄養学的なものまで幅広く教育研究を行っています。少人数教育による実験実習を重視し、卒業研究では、全員が食物栄養学科や生活環境教育研究センターの各研究室で、特定のテーマについて研究を行います。また、本学科を卒業すると、栄養士免許を取得できると同時に、管理栄養士の国家試験受験資格が得られます。本学科の教育研究は自然科学を基盤とするため、高等学校において化学、生物、物理などの自然科学の基礎をしっかりと学習していることを望みます。食物や栄養、健康に強い関心を持ちそれを社会に還元しようとする意欲のある人には最適な学科です。選考では、試験の成績と口述試験の結果及び日本語能力を総合して判定します。

生活科学部 人間・環境科学科

人間は、利便性、快適性、安全性などを追求し、身の回りの環境を常に変えて来ました。食糧は豊富になり、暮らしは便利になり、病気が減り寿命も延びました。しかしその反面、環境のあまりに大きく急速な変化に対して人間が適応できず、人類の存続にも影響する様々な問題も生じてきています。これに対して本学科では、「人間にとっての環境、環境にとっての人間」という視点に立ち、人間と環境の相互の働きかけを具体的に評価・設計・提案し、よりよい生活環境を創造するための研究と教育を行っています。

本学科の柱となる学問分野には、自然人類学、人体生理学、人間工学、福祉工学、環境機能材料学、環境化学、環境衛生工学、建築学などがあります。自然科学の好きな人、人間と環境にかかわる基礎的な科学を十分に学び、深く研究してみたい人、専門家として真に健康で豊かな生活を構築するために寄与したいと考えている人を、本学科は歓迎します。志望される方は、高等学校において理数系の基礎をしっかりと履修していることを望みます。本学の試験（数学、理科、外国語）では自然科学をはじめとする幅広い基礎学力を評価します。

生活科学部 人間生活学科

人間の生活は、生涯にわたる人間の発達、生活を営むための人間社会のあり方、民族、歴史や伝統、文化などさまざまな面が相互に関連した、複雑で総合的な営みです。高度に複雑化した現代社会においては、この複雑な人間生活の営みを総合的に理解し、人間が生涯を通して生き生きと生活できるための条件や社会の仕組み、文化のあり方を明らかにし、それを実現する人材が求められています。

人間生活学科では、こうした豊かな人間生活の実現を担う人材の育成を、相互に関連する 3 つのアプローチによってめざしています。①人間の生涯発達にかかわる発達心理学・臨床心理学・保育学的理解と実践の連携、家庭や保育あるいは心理臨床などの現場に役立つ理解—発達臨床心理学、②地域社会から国際社会まで、多元的な社会環境を視野に入れ、家族、消費者、女性、高齢者、子ども、制度と政策の問題など、生活と社会及びその関係についての社会科学的理解—生活社会科学、③人間にとって最も身近な服飾と住居、工芸、デザインを中心と

する生活造形を対象とし、生活文化の歴史と現在について、美学的・比較文化的・民俗学的理解—生活文化学の3つです。こうした課題に関心があり、問題意識と研究意欲を持っている人、錯綜する現代の生活状況の中で、人間性を重視した社会を築くために貢献したいと考えている人、潤いのある生活を実現しようという熱意をもっている人には、ぜひ人間生活学科で学んでほしいと思います。選考は、試験の成績と口述試験の結果を総合して判定します。口述試験では質疑を通して、将来の勉学計画や自分の考えを明確に持ち、かつそれを相手に的確に表現できるかといったコミュニケーション能力を評価します。

⑦ 大学院博士前期課程

【比較社会文化学専攻（全体）】

社会と文化に関する専門研究を真に高いレベルで構築することを目指す本専攻は、個々の分野における専門研究を展開する基礎となる十分な知識と学力をもち、さらに、学際的な研究視野を得るために必要な幅広い教養を具えた学生を求めている。

言語文化分野の4コース（日本語日本文学コース、アジア言語文化学コース、英語圏・仏語圏言語文化学コース、日本語教育コース）では、人間の基本的営為の一つである言語活動とそれに基づいて営まれている様々な文化現象について、高度で総合的な研究を行う。

人文学分野の5コース（思想文化学コース、歴史文化学コース、生活文化学コース、舞踊・表現行動学コース、音楽表現学コース）では、思想、歴史、生活の各側面とともに、身体活動を中核とした芸術系の分野を加え、専門的であると同時に学際的な視点から、人間の文化活動を通時的かつ共時的に幅広くとりあげ、総合的に探究することを目指す。

日本語日本文学コース

多様な方法論に基づいて、各時代・分野ごとに日本文学および日本語について深く研究し、日本文化の精髓にせまる。

本コースでは次の4点を備えた学生を受け入れる。

1. 日本古典文学から日本近現代文学及び日本語学に関して、幅広い知見を有すること。
2. 研究対象に対する専門的な知識を有し、かつ深い問題意識を持つこと。
3. 一定の外国語（留学生は研究に必要な日本語）の読み書き能力を有すること。
4. 十分なコミュニケーション能力を有し、学問の社会還元に向きなこと。

アジア言語文化学コース

中国大陸、台湾、香港、東南アジアなど、中国語圏における言語と文学を主要な研究対象とする。中国古典の伝播と受容といった比較文化論的研究や、中国語と他言語の対照研究も行う。

中国語学や中国文学の研究者を目指す人、中国語教師、国語教師としてのスキルアップを目指す人を歓迎する。

筆記試験では専門（中国古典語学、現代語学、古典文学、近現代文学）に関する知見（中国語（古典・現代）の読解力を含む）を測る。口述試験では、主として具体的な研究計画についての説明をもとめるが、卒業論文やこれまでの研究成果についての説明をもとめたり、中国語の口頭能力を試すこともある。

英語圏・仏語圏言語文化学コース

英語圏言語文化専修と仏語圏言語文化専修に分かれるが、必要に応じ、各言語圏のあいだの交流や比較対照の視点も採り入れて研究を行う。研究分野は文学系と語学系に大別され、文学系では、各言語圏の文学と文化を研究対象とする。語学系では、英語学、仏語学、ならびに英語学を基礎とした英語教育の研究を行う。

実際の選抜方法においては、特に以下の三点を評価の基準としている。即ち、自分の専門分野の言語と、更にそれとは異なる外国語とを確実に習得していること（英語、フランス語、ドイツ語、中国語から選択）、専門分野の基礎的な知識を十分に有していること、独創的な研究論文を書く能力が認められるということ、という三点である。

日本語教育コース

国内外における日本語教育への多様なニーズに対応できる高度な専門性と研究能力をもった人材の養成と現職日本語教員の再教育を行う。

日本語教育学及びその周辺諸領域における基本的な知識と、これらの領域において2年間で修士論文としてまとめられるような具体的な研究計画をもっているかどうかを筆記と口述試験で判定する。

思想文化学コース

本コースは哲学と倫理学より成る。スタッフの専門も、前者に対応する、西洋（主にギリシャ・英米・独）の哲学・思想及びその伝統や方法を受け継ぐ現在の哲学研究と、後者に対応する、神道・仏教・儒教を中心とする日本の倫理思想史に分けられている。哲学で扱われる問題は、人間存在の基底や人間観、知識や言語のあり方やたらし、文化や社会における価値や理想に関わり、われわれ自身を持っている世界観・価値観の基礎を再検討する契機となるものである。また日本倫理思想史においても、各時代の画期をなす思想家の原典研究に加え、民衆の精神世界や文化的現象の広がり进行を考察・調査することを通じて、現在の日本人の理解につながるものと考えられる。

本コースの志望者は、本コースのこのような研究領域・姿勢を理解し、研究に関係するテキストや資料を理解し、共感するための基礎的な教養に加え、客観的・論理的な分析や議論を尊重し、また自身の研究の現代における位置付けや意義を考えられる視野と、問題を主体的に追及する積極性を求めたい。

歴史文化学コース

歴史学と美術史学の視点から、日本、ヨーロッパ、アジアにおける政治経済と社会文化の諸問題を、文学資料と造形資料を多角的に用いて研究し、また視覚文化の批判的な読解に取り組む。筆記試験では、資料や研究文献を読解するために必要な語学力と専門分野（日本史、東洋史、西洋史、美術史に区分）の研究をするうえで基本となる知識を測る。

口述試験では、卒業論文（又はそれにかわる研究成果）と研究計画を中心に、資料の分析能力や論理構成力を測る。将来、研究を仕事としていきたいという人とともに、前期課程で習得した能力や知見を社会の場で発揮したいという人の双方を歓迎する。

生活文化学コース

服飾・工芸・住居など生活造形を中心とした生活文化の諸事象を対象とし、文化史・社会史・比較文化論・美学・民俗学などの多様な視座のもとで新しい学際研究を試みるコースである。特に、日本・西洋の服飾の歴史や現代モードなどの服飾文化を通して、時代の生活感情や美意識を明らかにする研究、工芸・デザインから食・住の文化に至るまで、広範の生活文化を比較文化論の立場から総合的に論じる研究、および代々受け継がれてきた生活文化を民俗学・文化人類学の立場から論じる研究が中心である。

生活文化に関する幅広い教養と視野、および研究対象についての専門的知識と独創的な分析力を持ち、生活文化論を人間理解の途として日本の内外に発信する意思のある学生を求める。

舞踊・表現行動学コース

舞踊・スポーツなどの身体表現運動について、芸術学、民族学、教育学、身体運動科学などの分野から学際的に教育・研究を行なう。特に舞踊教育、舞踊芸術、民族舞踊、体育科教育、動作学、スポーツマネジメントといった研究領域が中心である。舞踊やスポーツの実践をふまえ、理論的、科学的知見を十分に修得した専門的人材（研究者、体育教師、指導者、上演者など）の育成を目指す。

本コースを志望するものは、実技能力に加えて、修士論文作成のために十分な外国語の能力と専門知識が必要である。

音楽表現学コース

音楽を文化表象として、理論と実践の双方から研究する。理論面では、日本を含めた世界の諸文化と音楽との関連を扱う音楽学研究、または作曲。実践面では、西洋近代の鍵盤音楽と声楽を主要な対象として、身体行動による表現技術の研究を行ない、国際的に通用する演奏者を養成する。本コースでは、音楽学、作曲、声楽、ピアノいずれを専攻するにせよ、水準の高い修士論文が要求されるので、十分な外国語（特に英語）の力と専門知識とが必要である。また、大学院は研究の場であるので、自ら思考し実践する積極的姿勢を備えていることが求められる。

【人間発達科学専攻（全体）】

社会的かつ個人的存在としての人間とその発達過程を対象に、教育科学、心理学、社会学等をベースとして、学際的にアプローチする。また、社会的・心理的諸病理の解決を目指した実践的課題意識に基づいて、社会一人間一発達を総合的・有機的に結びつける理論と、経験科学的方法論を探究する。

教育科学コース

人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に探究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行う。

基礎科学・方法論として、教育思想、教育史、教育社会学を置き、またマクロ・ミクロの実践科学として教育課程論、教育方法論、教育開発論、生涯学習論、博物館学を設置する。

当コースでは、人間の発達について教育科学的に考えることのできる研究者および研究者的な視点をもつ実践者の育成をめざしている。第1次選考では、英語および専門試験（教育科学コース「専門試験」に掲載されている6領域から、志望する領域を含めて4問を選択）によって、教育科学の基礎的能力を確認する。第2次選考（口述試験）では卒業論文（又は研究成果等がわかるもの）を含む出願書類を参照しながら、志望動機、研究計画などを評価し、可否を総合的に判断する。

心理学コース

心理学コースでは、人間の心理を脳という核を中心に、発達という時間軸、社会という空間軸の中で、多次元・総合的に検討し理解する。

そのために次のような授業科目を設けている。「社会心理学特論」、「認知発達論特論」、「人格形成論」、「認知システム論」、「認知科学基礎論」、「発達精神病理学基礎論」、「健康心理学特論」。

これらの授業科目における教育・研究を通して心理学領域の研究者を育成することが、本コースの目的である。

将来研究者や心理学の専門職を希望する学生を期待する。すでに心理学の基礎的な統計的手法や研究方法を習得していること、英文の学術論文の読解力を求める。広い分野への関心を期待しつつ、「認知心理学」「社会心理学」「臨床心理学」「教育心理学」「パーソナリティ心理学」の分野のいずれかにおいて専門的な研究をすすめる意欲のある学生を求める。入学試験では、英語および専門試験によって、志望する分野において専門的な研究を進めるために必要な基礎的能力を確認する。

発達臨床心理学コース

発達臨床心理学の教育及び研究を行う。臨床心理学を柱として、特に家庭、幼稚園、学校、病院等の場における心理臨床的、発達の問題について専門的に対処する力を養成するとともに、発達臨床心理学の研究を行う基礎的な研究能力を養う。

コースとしては、次のような学生に学んで欲しいと願っている。1) 臨床心理士になりたい者で、かつ相当の知力、意欲、時間のある方、2) 臨床心理学や発達心理学の研究者になりたい方。そのため、入学の条件として、専門、外国語の力はもちろんのこと、志望目的、研究計画の明確さを求める。また、臨床実践の場としての相談室活動に授業時間以外の時間を割ける方を求める。※本コースは（財）日本臨床心理士認定協会の第一種指定校である。

応用社会学コース

現代社会の諸問題（家族・地域、コミュニケーションの問題など）を社会的に研究する。

人間関係、職業集団、ネットワークを扱う「社会集団論」、逸脱、差別、コミュニケーションを扱う「社会意識論」、福祉政策、社会問題を扱う「社会福祉論」などを開講する。

社会学の理論・研究法についての基礎的な知識を有し、社会学の諸分野（社会学理論もしくは家族・メディア・ジェンダー・福祉・社会意識・社会集団・社会階層等の社会学的研究）に関する具体的で発展性のある研究計画をもつ方の入学を期待する。前期課程修了後は、博士後期課程への進学と民間研究機関や公務員・一般企業への就職という2つの方向が考えられる。

試験科目は、外国語試験・専門試験・口述試験であるが、可否の判定にあたっては、卒業論文も重要な判定の資料となる。卒業論文を執筆していない場合、あるいは卒業論文の分野が理系であるか、卒業論文が日本語以外の言語で書かれている場合は、卒業論文と同等以上の水準の社会的な主題に関する日本語の論文を提出するこ

と。ただし、社会的な主題に関する卒業論文を英語で執筆している場合に限り、英語論文に日本語要約を添付して提出することを認める。

保育・児童学コース

保育学・児童学領域の研究者、もしくは研究的な視点を有する実践者として、家庭、保育・教育現場へ有効な支援をおこなえる人材、そのような支援のあり方を研究する人を育成することを目的とする。

研究領域としては、主に教育学、児童学、発達心理学、社会学、教育学、小児科学、行動学などをベースに、専門的力量と研究的資質の向上を図る。たとえば乳幼児期以降の保育・教育の研究、親子の発達支援および社会における子育て支援の研究、保育所・幼稚園から小学校以上の学校教育を見通した連携の在り方や接続期における教育の研究等を行う。学部からの進学者はもとより現職者、現場経験者等の社会人で、多様な実践的課題に分析的・科学的にアプローチしようとする方を歓迎する。入学試験では、保育学、児童学、発達心理学、教育学、社会学、教育学、小児科学、行動学等の基礎知識と科学的な論述や分析力を期待する。なお、出願前に必ず本コースのホームページを参照すること。

【ジェンダー社会科学専攻（全体）】

ジェンダー社会科学専攻では、ひろく社会科学諸分野の分析手法とジェンダー視点を結びつけることにより、従来の「常識」を再検討し、新たな問題領域を発見する研究をめざしている。方法論的には、人間・生活・社会・環境をめぐる現代的諸問題をテーマとして、既存の個別領域のアプローチを尊重しつつ、ジェンダー視点と切り結んだ学際的アプローチに依拠することにより、21世紀社会を展望する新領域創成に挑戦する。教育目標は、新領域開拓にふさわしい教養と学力を涵養し、男女共同参画社会の構築や社会問題の解決に寄与しうる人材、グローバル社会のもとで国際的な活動に貢献できる人材を養成することに主眼を置いている。本専攻の3コースにおけるスタッフ構成は多様であり、学生が研究テーマを多面的・複眼的に考察する上で助けとなる。また、学生は、自分の関心に即して複数のコースにまたがって演習等を履修することが可能であり、テーマによっては副指導教員を他コースに求めることもできる。新領域を切り拓く領域横断的な研究に意欲と関心のある志願者を歓迎する。

生活政策学コース

ポスト近代における人びとの市民生活や家庭生活、消費、労働、女性や男性の生き方などをめぐる諸課題を、社会科学の理論と方法論にもとづき解明し、問題解決に向けて提案しうる力量の涵養をめざす。法学・政治学・経済学・社会学の基礎から応用にわたる分析手法を身につけるとともに、ジェンダー視点を織り込んだ課題設定を行うセンスを養うことを重視している。修了後の進路は、研究職、国家及び地方公務員、NPO職員などをめざす人が多い。また、すでにその種の現職に就いて、より専門的な調査研究能力を養うことを目的に入学するという先行例も数多くある。資格取得に関しては、家庭科の専修免許、専門社会調査士資格関連の授業科目を用意している。

外国語試験（英語 8月・2月入試）、小論文（8月入試）、専門試験（2月入試）、口述試験（8月入試・2月入試）の成績と提出論文・研究計画などの内容を総合的に評価し選考を行う。

地理環境学コース

グローバル化にともない変容する空間・地域・環境をめぐる諸問題を、人間—環境関係、社会・経済の空間性、国際関係、国際協力、人間の移動とコミュニティ、健康・福祉、日常生活における場所の感覚やアイデンティティなどの視点から研究する。研究対象は、自然環境、建造環境、居住空間、地域開発、ローカルな文化とその変容など多岐にわたり、具体的な研究方法も、社会科学の理論に加え、フィールドワーク、観測、GIS、統計分析と数理モデルの構築など多彩である。

研究職をめざす人だけでなく、国際機関や政府関係機関、NGOなどで国際協力や国際交流に関わろうとする／関わった経験を持つ人、学校教育の場で開発教育や異文化理解などに関わる人、環境政策やマーケティングなどの分野で活躍しようとする人、地域振興（地域おこし）に関わろうとする人など、幅広い関心を持つ人を期待する。

詳細は地理環境学コースのHP <http://www.li.ocha.ac.jp/hum/chiriog/chiri.htm> を参照のこと。

開発・ジェンダー論コース

従来の学問研究にジェンダーの視点を導入し、新たな学際的研究の可能性を追求する。理論的分析に加え開発

や国際協力など応用分野を含めた、多様な関心と能力を持った学生を育成することをめざし、日本でも他に例を見ない独自のコースとして、内外の社会的要請に応えるものである。

カリキュラムは、ジェンダー概念の成立やジェンダー研究の基礎となる科目群、開発研究や国際研究とリンクする科目群、ジェンダー政策やグローバル経済研究に関わる科目群、研究方法論／実践論の科目群などで構成されている。

行政、NPOなど男女共同参画社会づくりや「ジェンダーと開発」分野で国際協力に将来携わりたい人、あるいはすでにその分野での経験のある人、より理論的、方法論的な知識を深めジェンダー視点からの社会分析をしたい人など、実践家や研究者をめざす人を選抜する。専門と外国語試験による基礎学力試験に加えて提出論文の分析内容や研究計画も重視され選抜が行われる。

ジェンダーおよび開発をめぐる問題を、ジェンダー理論、文化人類学、社会学、経済学、政治学、地域研究等の方法を用いて多面的、理論・実証的に解明することに意欲を持つ人を求める。なお、博士後期課程にはジェンダー学際研究専攻が設置されている。

詳細は、開発・ジェンダー論コースのサイト <http://devgen.igs.ocha.ac.jp/> を参照のこと。

【ライフサイエンス専攻（全体）】

本専攻は、基礎生命科学からバイオテクノロジーにわたるライフサイエンス全般の発展に寄与するため、「生命科学」、「生活科学」という学問領域の有機的な統合を試み、人間を生命、生活の両面から捉える。そのため、生命科学コース、人間・環境科学コース、食品栄養科学コース、遺伝カウンセリングコースを設置する。ライフサイエンス全般を基礎から応用まで幅広く理解できる人材を育成する。本専攻の学生には教員の指導の下、実験を主体とする、ライフサイエンスに関する研究計画を作成、実施することが求められる。そのため、文献調査能力、研究実施能力、研究の妥当性に対する判断力等が求められる。

生命科学コース

生命科学コースでは、生物種としてのヒトとヒトをとりまく多様な生物種を対象として、多様性と独自性を特徴とする生命の本質を、遺伝子、ゲノム、生体分子、細胞、個体、集団などのレベルにおいて理解するための教育と研究を目指している。研究を進めるためには、目の前にある問題を解決するための能力もさることながら、「まだ分かっていないことは何か」「問題にどのように取り組んでいくのか」という、問題を発見し、それを明らかにしていく道筋を具体化する能力が必要である。また、自分の興味以外にも視野を広げ、そこから自らの問題に関連のある知見を引き出す努力も必要とされる。本コースでは、生命科学分野に関心が深く、自らを高める向上心に満ち、かつ知的好奇心に溢れた人材を期待する。

人間・環境科学コース

本コースでは、人間生活を中心に環境に関する諸問題を扱うとともに、生物としての人間の特性・生命生理メカニズム、また人間の身体と環境との相互作用につき研究教育を行う。具体的には、都市・住居デザインの提案・設計、人間の神経・生理機能の工学解析ならびにそれに基づく人間工学機器設計、消臭・高吸水性材料等の生活材料開発、繊維製品における染色・仕上げ加工機構、安全快適な水環境構築のための消毒・有害物質除去技術、身体的側面を中心とした人類の進化、変異、適応等のデータ分析、などを行う。各研究の主眼は、人間と環境の境界領域（インターフェース）の本質を人間及び環境の視点から科学的・工学的に捉えた上で、我々の生活を向上させるためのインターフェースの改良方策を具体的に提案するところにある。従って、基礎となる自然科学系諸科目に習熟していること、自然環境・生活環境と人間に関わる現実的諸問題に関心が高いこと、研究成果を具体的なデザインとして社会に提案・還元する意欲を有する学生を求める。

食品栄養科学コース

本コースでは、食と栄養に関する基礎研究から応用開発にいたる領域を対象とし、健全な食生活を構築するとともに、生活習慣病の予防、食の安全性などの問題を解析、解決する。食や栄養に関する基礎的研究から応用開発や臨床対応までできる食と栄養のスペシャリストを育て、食品企業の研究者や開発者、管理栄養士のリーダーを育成する。本コースでは食品の品質、嗜好性、機能、安全性、代謝、疾病との関連など食を取りまく諸問題を有機化学、生化学、分子・細胞生物学、疫学などを用い、食品科学と栄養科学の両面から教育・研究を行なう。学生には研究・実験に対し、積極的かつ主体的に取り組む姿勢を持つことを求める。化学や生物学を中心とする

一般的な自然科学の知識を必要とする。

遺伝カウンセリングコース

遺伝カウンセリング学は近年の遺伝医学の発達に伴って誕生した学際的な学問で、人類遺伝学、遺伝医学、カウンセリング、生命倫理と幅広い領域と連携しながら独自の学問体系を構築している。本コースでは遺伝カウンセラーに要求される遺伝カウンセリング学の基礎と実践技術を学ぶと同時に教育・研究者として必要な能力を身につけるための教育を行なう。

【理学専攻（全体）】

理学専攻は、人間と自然が織りなす複雑な諸現象を、現代自然科学の方法論に基づいて学際融合的に教育研究し、新しい科学の創成を目指しつつ次世代を担う人材を養成することを目的としている。十分な基礎学力と緻密な思考力をもつと同時に、自然の論理の美しさに感動し、未知との遭遇に好奇心をそそられるような感受性を有する多くの学生と共に科学を楽しみたい。

数学コース

様々な分野との関連も視座に入れた数学理論の展開に関する高度な専門教育と研究を行い、高度な数学的知識と数学的な運用能力をもつ高度専門職業人、中学校・高等学校教師、研究者等を養成することを目標とする。この教育目標に沿って、未解決の問題にチャレンジしたい、数学の美しさ面白さに深く感動したい、数理的な方法センスを身につけ社会の場で生かしたい等数学が好きで学ぶ意欲に溢れ、数学分野に対する基礎的な学力を持つ学生を広く受け入れる方針である。

実際の選考では、微分積分学、線形代数学など、どの数学分野を専攻するにも必要となる内容や専攻したいと希望する数学分野の基礎について、基本的な概念や事実の理解度、基本的な計算を確実にできる力、明解正確な説明論証を行える力などをみる。

物理科学コース

極微の素粒子から、原子分子の集合体である固体や液体、そして宇宙までを対象に、物質が示す性質を解明し新たな現象を予測することを目的として、量子論、統計力学、相対論等の物理学によるアプローチを総合して教育研究を行っている。自然を考える好奇心に満ちた学生や、しつこく考える忍耐強い学生、自然を直感的に発想する学生、論理にこだわって緻密に推論する学生、など個性的で主体的な学生を望む。

化学・生物化学コース

有機・無機分子および金属錯体から、タンパク質や糖などの生体高分子に渡る広範な分子および分子集合体を対象とし、合成、構造、反応、物性、機能、および分子間相互作用に関して、幅広い角度から実験と理論の研究および教育を行う。分子科学的な研究を推進するために必要な知識を得ることや、生命の普遍的なしくみを化学的に解明することに興味を持ち、境界領域や未知の分野を切り拓くことに意欲的な学生を望む。

情報科学コース

情報科学は進展の速い分野である。このような分野で世界の先端を走る研究者、高度専門職業人、情報科学の次世代を語る教育者等を養成するため、情報の基礎理論から応用技術まで幅広い分野の研究、教育を行う。この目標に沿って、情報科学、数理科学に対する基礎的な学力、英語で書かれた文献の読み書きができる素養を持ち、強い意欲を持つ者を広く受け入れる。

⑧ 大学院博士後期課程

【比較社会文化学専攻（全体）】

比較社会文化学専攻では、社会と文化に関する高度に学際的かつ総合的な専門研究を行うことを通じて、人間文化の基礎理論の確立を目指している。また、国際的視野の中で日本研究を推進し、総合学としての日本学を世界に発信していくことを企図している。

本専攻では、こうした目的に即しつつ自立的に研究を行うことに強い自覚をもった人材を求めており、特に、以下の2点を、前提として強調しておきたい。

1. 資料や文献を読解するため、また、国際的な研究交流を遂行するために必要な語学力を有していること。
2. 日本を含む世界各地の過去もしくは現在の社会構造等、アジア・欧米の言語・文学・思想等、日本を含む世界各地の芸術作品・芸術活動等のいずれかの分野において、上記の研究の基礎となり得る知識と研究能力を有していること。

国際日本学領域

国際日本学領域は、本学の戦略的研究・教育領域として位置づけられており、国際的に多様化する大学院教育の現状に対応して、国際的視野のなかで日本研究を進め、文学・言語学・歴史学・考古学・思想・文化・身体論の総合学としての日本学を世界に発信する人材を養成することにより、日本研究における世界の教育拠点となることを目標としている。

本領域に進学する学生には、それぞれの専門分野において高度な研究を進めるとともに、専門性を踏まえた日本に関する学際的な関心の涵養と総合的な知識な蓄積、さらに研究交流への積極的な参加やそうした活動の基礎となる外国語能力の向上による国際性の養成にも留意して研究を進めていくことが期待される。

言語文化論領域

アジア、欧米を中心とする各国文学・言語学・言語教育学の専門的知識を深めつつ、それらを横断する研究視点を育成し、言語を介した現代の文化・批評の機能を、国際協力の面からも積極的に開発・提言する人材の養成につとめる。

比較社会論領域

社会分析的視点を大幅に強化し、社会構造の分析にとどまらない社会と文化の学際的・総合的な研究を行う。

表象芸術論領域

美術・工芸・服飾・舞踊・音楽、および博物館学を主な対象とし、文化表象・表現を多方面から、舞踊・音楽においては実践と理論の融合を図りつつ、専門的かつ横断的に批判的分析・追究する領域である。表象芸術に関する幅広い知見と専門知識、独創的な分析力をもち、表象芸術論を人間理解・国際協力の強力な媒介として社会に提言することに意欲をもった学生を求める。

【人間発達科学専攻（全体）】

人間発達科学専攻は、人間の生涯にわたる発達と社会環境にかかわる広いテーマに関連する高度の専門研究を進める女性研究者となる人を育てている。人間の発達、環境、教育、生活などの領域について、日本や世界の、過去から現在、あるいは21世紀への諸問題の解決に意欲を持つ学生の入学を期待する。後期課程3年間で博士論文の完成ができることが期待される。入学後は1年次から毎年、学会発表、学会誌への論文の投稿、学内外の研究活動への参加など、計画的に研究成果をあげることが求められる。まず、優れた修士論文を完成させること。

入学試験では、修士論文の質と、今後の研究計画が明確かどうかを審査する。言語試験での60%以上の得点も必須条件である。研究指導を受けたいと考える教員に事前に相談すること。意欲的な学生の皆さんの応募を期待する。

教育科学領域

人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に探究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行う。基礎科学・方法論として、教育思想、教育史、教育社会学を置き、またマクロ・ミクロの実践科学として教育課程・教育方法論、教育開発論、生涯学習論を設置する。当領域では、人間の発達について教育科学的に考えることのできる研究者および研究者的な視点をもつ実践者の育成をめざしている。

心理学領域

心理学領域では、人間の心理を脳という核を中心に、発達という時間軸、社会という空間軸の中で、多次元・総合的に検討し理解する。そのために次のような授業科目を設けている。「認知科学論」、「道徳性形成論」、「メディア心理学」、「健康行動論」、「発達精神病理学」。これらの授業科目における教育・研究を通して、心理学領域の研究者を育成することが、本領域の目的である。心理学の研究者や専門職となることを希望する学生を期待する。

すでに心理学の基礎的・応用的方法論や統計的手法を習得していること、英文で学術論文を作成する力を求める。広い分野への関心を期待しつつ、「認知心理学」「社会心理学」「教育心理学」「臨床心理学」「パーソナリティ心理学」の分野のいずれかにおいて専門的な研究をすすめる意欲のある学生を求める。

発達臨床心理学領域

発達臨床心理学の教育および研究を行う。臨床心理学を柱として、家庭、教育、医療、福祉、司法、産業等のさまざまな場における心理臨床的、発達の課題について専門的に対処する力を養成するとともに発達臨床心理学の研究を行う高度な研究能力を養う。臨床心理学の研究者および専門職となることを希望する学生を求める。すでに臨床心理学の基礎的・応用的方法論や、統計的手法を習得していることが必要である。

社会学・社会政策領域

社会学を中心に、経済学、法学などを含む社会科学を基礎学問として、人間、社会、文化にかかわる諸現象を解明する。また、社会科学の研究における理論と実証の関係のみならず、実践との密接な結びつきを意識して、政策科学的な研究として発展させることを重視している。

保育・児童学領域

保育・子育て等の現場で生じている多様な問題を、多角的に分析・理解し、問題解決を図ることのできる高度な専門的知識と実践能力を備えた人材を育成することが目的である。具体的には、乳幼児期における保育・幼児教育、乳幼児期以降の親子の発達支援、0歳から就学期・児童期を見通した接続的教育などを研究する研究者、専門職業人を養成する。乳児期、幼児期、児童期の発達過程、それにかかわる親や保育者・教師などの発達過程を射程に入れ、社会的に要請される多様な問題の分析能力、課題解決や問題への接近方法、および援助方法について高度な知識と実践経験をもつ人材を目指す。専門領域における研究者、育児や教育アドバイザーなどのリーダーとして活躍する人材を想定している。

【ジェンダー学際研究専攻（全体）】

ジェンダー研究は、「性別」という社会・文化的現象とこの現象が社会と個人にもたらす種々の影響や帰結、さらにはこれらに関する認識の在り方ならびにこのような認識をもたらす社会構造の解明とその変革をめざす学際的な学問である。ジェンダー視点からの研究に関心を持ち、ジェンダーに関する諸問題の解決に意欲を持つ方の入学を歓迎する。

入学には、社会科学、人文科学等の学問領域でのジェンダーに関連する優れた修士論文またはそれに代わるものを完成させていることが必要である。入学試験では、原則として、言語試験での60%以上の得点も条件となる。入学後は1年次から毎年、学会発表、学会誌への投稿、学内外の研究活動への参加など、計画的に研究成果を挙げることが求められ、3年間で、博士論文を完成できることが期待される。研究指導を受けたいと考える教員に必ず事前に相談をすること。

なお、本専攻において取得できる学位は、学術、人文科学、社会科学、生活科学である。

ジェンダー論領域

ジェンダーの理論的検討、実証的・政策的課題を探究する。ジェンダー視点に立った分析は、家族、労働、人権、教育、開発援助、経済、国際関係、地域計画、環境、科学技術、医療など、あらゆる政策分野において必要とされている。学問領域を超えたジェンダー課題群に、主体的に取り組む人材の育成をめざす。

【ライフサイエンス専攻（全体）】

本専攻は、基礎生命科学からバイオテクノロジーにわたるライフサイエンス全般の発展に寄与するため、「生命科学」、「生活科学」という学問領域の有機的な統合を試み、人間を生命、生活の両面から捉える。そのため、生命科学領域、人間・環境科学領域、食品栄養科学領域、遺伝カウンセリング領域を設置する。本専攻ではライフサイエンス全般を基礎から応用まで幅広く理解でき、ライフサイエンス分野の研究者として自立できる、また指導的役割を担う人材を育成する。本専攻の学生には教員の指導の下、ライフサイエンスに関する課題を設定し、実験を主体とする研究計画を作成、実施し、その結果を公表することが求められる。そのため、研究に対する強い自覚と意欲を持った上で、文献調査能力、研究実施能力、研究の妥当性に対する判断力、発表能力等が

求められる。

生命科学領域

生命体としての人間そのものを明らかにすることを目的とする。高度に複雑な生命体の巨視的および微視的構造、機能、応答、情報処理、遺伝のメカニズムを、個体・細胞・分子レベルで解明する。

人間・環境科学領域

本領域では、生活している人間とその環境との関係を明らかにし、かつ、その環境が人間にとって合理的、快適なものとなるよう設計・制御を行うことを目的とする。具体的には生活空間内における人間／環境間の物質・エネルギーの交換、体表を通じての物理的・化学的・生理的刺激とその応答、快適性・安全性との関係などを、環境パラメータ・材料物性・人体生理の面から総合的に研究を行う。また、生物としての人間、すなわちヒトの本質・由来・変異などに関する研究も行う。人間と環境の境界領域（インターフェース）の本質を人間及び環境の視点から科学的・工学的に捉えた上で、我々の生活を向上させるためのインターフェースの改良方策を具体的に提案することに研究の主眼を置く。

食品栄養科学領域

本領域では、食と栄養に関する基礎研究から応用開発にいたる領域を対象とし、健全な食生活を構築するとともに、生活習慣病の予防、食の安全性などの問題を解析・解決する。食や栄養に関する基礎的研究から応用開発や臨床対応までできる食と栄養のスペシャリストを育てる。具体的には大学や公的研究機関の研究者、管理栄養士のリーダー、栄養士や管理栄養士養成校の教員、公務員、食品企業の研究者、病院管理栄養士などをめざす。本領域では、食品の品質、機能、嗜好性、安全性、健康や疾病と食品の関連などを含め、食を取りまく諸問題を有機化学、生化学、分子・細胞生物学、疫学などを用い、専門教育ならびに先端的研究を行う。

遺伝カウンセリング領域

遺伝カウンセリングという新しい学際領域で活躍する先駆的人材を養成することを目的とする。遺伝カウンセラーとしての知識、技術、臨床実践の研鑽をふかめ、遺伝カウンセリング学の構築と、遺伝医療に寄与する研究を遂行し、新しい学問分野の開拓と、後進の指導のための教育推進に資する人材を育成する。人類愛と医療に対する深い理解を基盤に持ち、国際的視野から日本における新しい分野の確立に貢献する意欲と能力が必要とされる。

【理学専攻（全体）】

理学専攻は、人間と自然が織りなす複雑な諸現象を、現代自然科学の方法論に基づいて学際融合的に教育研究し、新しい科学の創成を目指しつつ次世代を担う人材を養成することを目的としている。研究に必要な基礎能力と強い意欲をもって研究者・高度専門技術者を目指す女性はもちろんのこと、社会人としての基盤を保ちながらより高度な専門的能力の開発を望む方や独自のライフスタイルで学問を究めることを志す女性を広く求めたい。

数学領域

代数、解析、幾何の純粋数学各分野における高度に専門的な教育研究並びに数理的方法論を適用する応用数学分野における専門的な教育研究を行い、自立して研究活動を行いうる能力、数学の立場からの学際的研究能力を培うことを目標とする。この教育目標に沿って、確かな数学の力の上に、自ら課題を見出し自ら解決の方向性を探る自立した研究者となろうという志をもち、自己の専門分野のみならず隣接分野や新しい分野、課題も積極的に学ぼうという姿勢をもった学生を受け入れる方針である。

物理学領域

物理学の各分野及び他領域との隣接分野における最先端の研究を通して、それぞれの分野において高度な専門性を有し研究者としての素養を身につけた人材を育成するための教育を行っている。物理学の各分野における十分な基礎学力を有するとともに、将来、研究者として自立し、国際的な視野をもって指導的役割を果たす人物になろうとする自覚と意欲をもった学生を求めている。

化学・生物化学領域

物質を構成する広範な有機・無機分子、金属錯体及び分子集合体、さらに生体を構成する生体関連分子、蛋白質や糖などを対象に、物質科学、材料科学、物質創成科学、複雑系科学及び生命科学などの諸分野に広がる教育研究を行う。諸現象を原子・分子レベルから解明する意欲と学際領域への興味をもち、国際的視野を拡げつつ、研究における創造性と自立性を高める努力を惜しまない人を歓迎する。

情報科学領域

情報科学の基礎から応用までの幅広い分野が、互いに連携しつつ研究を行うことで、高度情報化社会で要求される情報科学的な理論と応用を明らかにする。すなわち、次世代情報科学に必要な数理学手法、現代情報科学の基礎となる計算機科学手法とその応用、自然・生命現象、生活科学などから生まれる様々な情報の利用・解析手法を研究する。これに共感する人達を経歴を問わず広く受け入れている。

(2) 入学者数、在学者数、収容定員、編入学定員、編入学者数【担当：教務チーム】

学 部 (H23.5.1 現在)

	入学定員	第3年次入学定員	収容定員	入学者・在学者数								
				1年次	2年次	3年次		4年次		合計		
				入学者	在学者	在学者	※編入者	在学者	※編入者	者 入 学 者 + 在 学 者	※ 編 入 者	
文 教 育 学 部	人文科学科	55	10	220	61	61	61	1	76	4	259	5
	言語文化学科	80		320	83	87	95	5	117	7	382	12
	人間社会科学科	40		160	43	42	48	6	63	9	196	15
	芸術・表現行動学科	27		108	29	27	27	0	33	1	116	1
	学部共通			20								
	小 計	202		828	216	217	231	12	289	21	953	33
理 学 部	数学科	20	10	80	20	23	25	2	25	3	93	5
	物理学科	20		80	22	21	26	1	30	3	99	4
	化学科	20		80	21	22	22	0	23	0	88	0
	生物学科	25		100	27	24	27	3	31	1	109	4
	情報科学科	40		160	43	38	44	2	45	3	170	5
	学部共通			20								
	小 計	125		520	133	128	144	8	154	10	559	18
生 活 科 学 部	食物栄養学科	36	10	144	39	39	39	0	40	0	157	0
	人間・環境科学科	24		96	26	26	29	0	26	0	107	0
	人間生活学科	65		260	70	70	76	6	99	8	315	14
	学部共通			20								
	小 計	125		520	135	135	144	6	165	8	579	14
合 計	452	30	1,868	484	480	519	26	608	39	2,091	65	

※編入者数は、その年次の在学者に含む

大学院 人間文化創成科学研究科博士前期課程(平成 19 年 4 月 1 日～) (H23. 5. 1 現在)

	入学 定員	収容 定員	在学者数		
			1年次	2年次	合計
比較社会文化学専攻	60	120	84	70	154
人間発達科学専攻	27	54	33	37	70
ジェンダー社会科学専攻	18	36	19	29	48
ライフサイエンス専攻	47	94	64	52	116
理学専攻	51	102	77	81	158
合計	203	406	277	269	546

大学院 人間文化研究科博士前期課程(~平成 19 年 3 月 31 日) (H23. 5. 1 現在)

	入学 定員	収容 定員	在学者数		
			1年次	2年次	合計
言語文化専攻	—	—	—	0	0
人文学専攻	—	—	—	0	0
発達社会科学専攻	—	—	—	0	0
ジェンダー社会科学専攻	—	—	—	0	0
ライフサイエンス専攻	—	—	—	0	0
物質科学専攻	—	—	—	0	0
数理情報学専攻	—	—	—	0	0
合計	—	—	—	0	0

大学院 人間文化創成科学研究科博士後期課程(平成 19 年 4 月 1 日～) (H23. 5. 1 現在)

	入学 定員	収容 定員	在学者数			
			1年次	2年次	3年次	合計
比較社会文化学専攻	27	81	41	22	87	150
人間発達科学専攻	14	42	18	23	41	82
ジェンダー学際研究専攻	4	12	6	6	21	33
ライフサイエンス専攻	15	45	20	19	37	76
理学専攻	13	39	19	13	12	44
合計	73	219	104	83	198	385

大学院 人間文化研究科博士後期課程(~平成 19 年 3 月 31 日) (H23. 5. 1 現在)

	入学 定員	収容 定員	在学者数			
			1年次	2年次	3年次	合計
比較社会文化学専攻	—	—	—	—	27	27
国際日本学専攻	—	—	—	—	34	34
人間発達科学専攻	—	—	—	—	31	31
ジェンダー学際研究専攻	—	—	—	—	10	10
人間環境科学専攻	—	—	—	—	4	4
複合領域科学専攻	—	—	—	—	5	5
合計	—	—	—	—	111	111

(3) 退学者数、退学率【担当：教務チーム】

学 部

(H23. 5. 1 現在)

		入学定員	第3年次入学定員	収容定員	学年毎退学者数及び退学率																
					1年次 (H23 入学者対象)			2年次 (H22 入学者対象)			3年次 (H21 入学者対象 +H23 編入者)			4年次 (H20 入学者対象 +H22 編入者)			合 計 (H23～20 の入学者合 計)				
					入学者数	退学者数	退学率	入学者数	退学者数	退学率	+編入者	入学者数	退学者数	退学率	+編入者	入学者数	退学者数	退学率	合計数	退学者数	退学率
					a	b	b/a	a	b	b/a	a	b	b/a	a	b	b/a	a	b	b/a	a	b
文教 育学 部	人文学科	55	10	220	61	0	0%	61	0	0%	61①	0	0%	68③	1	1.5%	251④	1	0.4%		
	言語文化学科	80		320	83	0	0%	87	0	0%	95⑤	0	0%	97⑦	0	0%	362⑫	0	0%		
	人間社会科学 学科	40		160	43	0	0%	43	1	2.3%	48⑥	0	0%	55⑦	1	1.8%	189⑬	2	1.1%		
	芸術・表現 行動学科	27		108	29	0	0%	27	0	0%	28	1	3.6%	28①	1	3.6%	112①	2	1.8%		
	学部共通			20																	
	小 計	202		828	216	0	0%	218	1	0.4%	232⑩	1	0.4%	248⑱	3	1.2%	914⑳	5	0.5%		
理 学 部	数学科	20	10	80	20	0	0%	23	0	0%	25②	0	0%	24③	0	0%	92⑤	0	0%		
	物理学科	20		80	22	0	0%	21	0	0%	26①	0	0%	24①	1	4.2%	93②	1	1.1%		
	化学科	20		80	21	0	0%	22	0	0%	22	0	0%	23	0	0%	88	0	0%		
	生物学科	25		100	27	0	0%	25	1	4.0%	28③	1	3.6%	28①	0	0%	108④	2	1.9%		
	情報科学科	40		160	43	0	0%	39	1	2.6%	44②	0	0%	43③	0	0%	169⑤	1	0.6%		
	学部共通			20																	
	小 計	125		520	133	0	0%	130	2	1.5%	145⑧	1	0.7%	142⑧	1	0.7%	550⑯	4	0.7%		
生 活 科 学 部	食物栄養学科	36	10	144	39	0	0%	39	0	0%	39	0	0%	39	0	0%	156	0	0%		
	人間・環境科 学学科	24		96	26	0	0%	26	0	0%	29	0	0%	23	0	0%	104	0	0%		
	人間生活学科	65		260	70	0	0%	70	0	0%	82⑥	0	0%	82⑥	0	0%	304⑥	0	0%		
	学部共通			20																	
	小 計	125		520	135	0	0%	135	0	0%	144⑥	0	0%	144⑥	0	0%	558⑥	0	0%		
合 計	452	30		484	0	0%	483	3	0.6%	521㉔	2	0.4%	531㉕	4	0.7%	2,019㉖	9	0.4%			

○の数字は、編入者数を示す（入学者数に含む）

大学院 人間文化創成科学研究科博士前期課程(平成 19 年 4 月 1 日～)

(H23. 5. 1 現在)

		入学定員	収容定員	学年毎退学者数及び退学率											
				1年次 (H23 入学者対象)			2年次 (H22 入学者対象)			合 計 (H22, 23 入学者の合計)					
				者数	入学者数	退学者数	者数	入学者数	退学者数	者数	入学者数	退学者数	者数	入学者数	退学者数
				a	b	b/a	a	b	b/a	a	b	b/a	a	b	b/a
比較社会文化学専攻	60	120	84	0	0%	59	0	0%	143	0	0%				
人間発達科学専攻	27	54	33	0	0%	33	0	0%	66	0	0%				
ジェンダー社会科学専攻	18	36	19	0	0%	21	0	0%	40	0	0%				
ライフサイエンス専攻	47	94	64	0	0%	50	1	2%	114	1	0.9%				
理学専攻	51	102	77	0	0%	79	0	0%	156	0	0%				
合 計	203	406	277	0	0%	242	1	0%	519	1	0.2%				

	入学定員	収容定員	学年毎退学者数及び退学率											
			1 年次 (H23 入学者対象)			2 年次 (H22 入学者対象)			3 年次 (H21 入学者対象)			合 計 (H23, 22, 21 入学者対象)		
			入学者数	退学者数	退学者率	入学者数	退学者数	退学者率	入学者数	退学者数	退学者率	入学者数	退学者数	退学者率
			a	b	b/a	a	b	b/a	a	b	b/a	a	b	b/a
比較社会文化学専攻	27	81	41	0	0%	22	0	0%	35	2	5.7%	98	2	2.0%
人間発達科学専攻	14	42	18	0	0%	24	1	4.2%	15	0	0%	57	1	1.8%
ジェンダー学際研究専攻	4	12	6	0	0%	6	0	0%	4	0	0%	16	0	0%
ライフサイエンス専攻	15	45	20	0	0%	19	0	0%	28	6	21.4%	67	6	9.0%
理学専攻	13	39	19	0	0%	13	0	0%	8	0	0%	40	0	0%
合 計	73	219	104	0	0%	84	1	1.2%	90	8	8.9%	278	9	3.2%

(4) 卒業者数、修了者数、進学者数、就職者数 【担当：学生・キャリア支援チーム】

学 部

(H22 年度卒業生)

		卒業者数	進学者数 (a)	就職希望 者数(b)	就職者数 (c)	就職率% (c) / (b)	その他
文 教 育 学 部	人文科学科	71	16	48	42	88%	7
	言語文化学科	103	18	80	65	81%	5
	人間社会科学科	55	10	41	37	90%	4
	芸術・表現行動学科	28	10	10	7	70%	8
	小 計	257	54	179	151	84%	24
理 学 部	数学科	23	7	15	15	100%	1
	物理学科	26	19	4	4	100%	3
	化学科	24	20	4	4	100%	0
	生物学科	26	20	4	4	100%	2
	情報科学科	47	26	20	20	100%	1
	小 計	146	92	47	47	100%	7
生 活 科 学 部	食物栄養学科	40	23	16	16	100%	1
	人間・環境科学科	20	9	11	11	100%	0
	人間生活学科	84	16	57	52	91%	11
	小 計	144	48	84	79	94%	12
合 計	547	194	310	277	89%	43	

(注)就職率=就職者数/就職希望者数

大学院 人間文化創成科学研究科博士前期課程(平成 19 年 4 月 1 日～)

(H22 年度卒業生)

		修了者数	進学者数 (a)	就職希望 者数(b)	就職者数 (c)	就職率% (c) / (b)	その他
比較社会文化学専攻		72	31	35	21	60%	6
人間発達科学専攻		42	13	23	17	74%	6
ジェンダー社会科学専攻		16	3	11	6	55%	2
ライフサイエンス専攻		64	13	45	38	84%	6
理学専攻		76	16	59	59	100%	1
合 計		270	76	173	141	82%	21

(注)就職率=就職者数/就職希望者数

大学院 人間文化研究科博士前期課程(～平成 19 年 3 月 31 日)

(H22 年度卒業生)

	修了者数	進学者数 (a)	就職希望 者数(b)	就職者数 (c)	就職率% (c) / (b)	その他
言語文化専攻	0	0	0	0	—	0
人文学専攻	1	0	0	0	—	1
発達社会科学専攻	2	0	0	0	—	2
ジェンダー社会科学専攻	0	0	0	0	—	0
ライフサイエンス専攻	0	0	0	0	—	0
物質科学専攻	0	0	0	0	—	0
数理情報学専攻	0	0	0	0	—	0
合 計	3	0	0	0	—	3

大学院 人間文化創成科学研究科博士後期課程(平成 19 年 4 月 1 日～)

(H22 年度卒業生)

	修了者数	進学者数 (a)	就職希望 者数(b)	就職者数 (c)	就職率% (c) / (b)	その他
比較社会文化学専攻	4	0	1	1	100%	3
人間発達科学専攻	0	0	0	0	100%	0
ジェンダー学際研究専攻	0	0	0	0	100%	0
ライフサイエンス専攻	11	0	6	6	100%	5
理学専攻	5	0	2	2	100%	3
合 計	20	0	9	9	100%	11

(注)就職率＝就職者数／就職希望者数

大学院 人間文化研究科博士後期課程(～平成 19 年 3 月 31 日)

(H22 年度卒業生)

	修了者数	進学者数 (a)	就職希望 者数(b)	就職者数 (c)	就職率% (c) / (b)	その他
比較社会文化学専攻	8	0	2	2	100%	6
国際日本学専攻	4	0	1	1	100%	3
人間発達科学専攻	7	0	5	5	100%	2
ジェンダー学際研究専攻	3	0	0	0	100%	3
人間環境科学専攻	0	0	0	0	100%	0
複合領域科学専攻	0	0	0	0	100%	0
合 計	22	0	8	8	100%	14

(注)就職率＝就職者数／就職希望者数

(5) 就職先及び進学先等の状況 【担当：学生・キャリア支援チーム】

学 部

(H22 年度卒業生)

		主な就職状況	主な進学先の状況
文 教 育 学 部	人文科学科	総務省、横浜市役所、群馬県職員、金融庁、東京都職員、東京国立博物館、(株)第一生命保険、(株)三菱東京UFJ銀行、(株)電通、(株)あいおいニッセイ同和損害保険、新日本法規出版(株)、他	お茶の水女子大学大学院
	言語文化学科	防衛省、栃木県職員、富山県庁職員、群馬県職員、東京都立高校教員、大妻多摩高校教員、ジュンク堂書店、くまざわ書店、(株)早川書房、(株)ゆうちょ銀行、東芝テック(株)、(株)デンソー、中部電力(株)、日本興亜損害保険(株)、(株)博報堂、他	お茶の水女子大学大学院 東京大学大学院

	人間社会学科	東京都（小学校教員）、横浜市（小学校教員）、福島県（小学校教員）、東大和市市役所、山梨県庁、東日本電信電話㈱、三井住友銀行、東日本旅客鉄道 ㈱、共栄火災海上保険㈱、大和証券㈱、㈱ミツカングループ 他	お茶の水女子大学大学院 東京大学大学院
	芸術・表現行動学	群馬県公立中学教員、東京都庁、(学)大原学園、日本生命保険相互会社、㈱資生堂、Noism、㈱ベンチャーバンク	お茶の水女子大学大学院 東京芸術大学大学院
理 学 部	数学科	神奈川県立高校教員、佐野日本大学高校教員、親和中学教員、㈱日立情報システムズ、東日本旅客鉄道㈱、㈱三菱東京UFJ銀行、東京海上日動火災保険㈱、㈱かんぼ生命保険、 他	お茶の水女子大学大学院
	物理学科	大正製薬、東日本旅客鉄道㈱、みずほ情報総研、㈱、㈱かんぼ生命保険	お茶の水女子大学大学院 東京大学大学院
	化学科	宮城県警察、光塩女子学院教員、㈱北陸銀行、㈱河合塾	お茶の水女子大学大学院 東京大学大学院
	生物学科	茨城県庁、富山県高校教員、理化学研究所	お茶の水女子大学大学院 東京大学大学院 京都大学大学院
	情報学科	日本放送協会、みずほ情報総研 ㈱、ソニー ㈱、西日本電信電話 ㈱、東日本電信電話 ㈱、大日本印刷 ㈱、㈱日立製作所、㈱ エヌ・ティ・ティ・データ、㈱ ナビタイムジャパン、 他	お茶の水女子大学大学院
生 活 科 学 部	食物栄養学科	千葉県職員、東京都職員、東京大学職員、函館白百合学園高等学校、東日本電信電話 ㈱、不二製油 ㈱、東洋水産 ㈱、日本製粉㈱、㈱ストリクトリー・シアトル、(社) 聖隷福祉事業団	お茶の水女子大学大学院 東京医科歯科大学大学院
	人間・環境科学科	東京都職員、㈱西日本シティ銀行、アメリカンファミリー生命保険、鹿島建設㈱、㈱SRA、㈱オービック、北海道旅客鉄道㈱、南陽㈱、㈱エヌ・ティ・ティデータ、㈱ゆうちょ銀行、 他	お茶の水女子大学大学院 東京工業大学大学院
	人間生活学科	最高裁判所事務総局、文部科学省、家庭裁判所調査官、横浜市役所、学習院幼稚園、池袋保健所、㈱三菱東京UFJ銀行、㈱三井住友銀行、㈱みずほ銀行、光村図書出版㈱、東日本旅客鉄道㈱、静岡鉄道㈱、三井住友海上火災保険㈱、 他	お茶の水女子大学大学院 東京工業大学大学院 鹿児島大学大学院

大学院 人間文化創成科学研究科博士前期課程（人間文化研究科を含）

(H22 年度修了生)

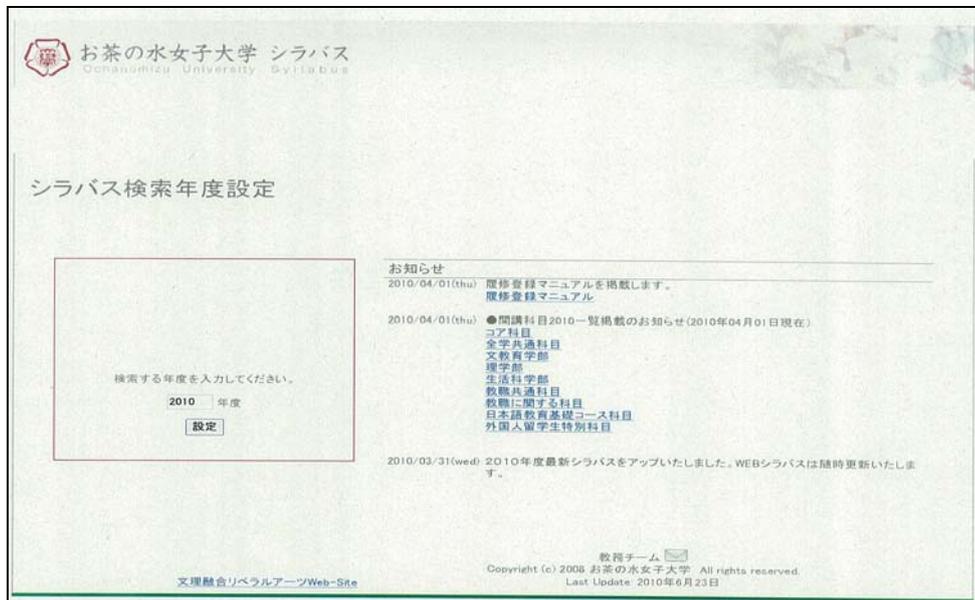
	主な就職状況	主な進学先の状況
比較社会文化学専攻	(独) 日本芸術文化振興会、宮地楽器、㈱日本総合研究所	お茶の水女子大学大学院
人間発達科学専攻	みずほ情報総研、㈱ジュンク堂書店、進研アド	お茶の水女子大学大学院
ジェンダー社会科学専攻	㈱ジャステック、日立プラントテクノロジー、東京都庁	お茶の水女子大学大学院
ライフサイエンス専攻	新日鉄ソリューションズ、JR東日本、旭化成アミダス㈱	お茶の水女子大学大学院 筑波大学大学院
理学専攻	富士ゼロックス㈱、凸版印刷㈱、日産自動車㈱	お茶の水女子大学大学院

	主な就職状況
比較社会文化学専攻	国士舘大学専任教員
人間発達科学専攻	なし
ジェンダー社会科学専攻	なし
ライフサイエンス専攻	医療法人 星陵会、(独) 農業・食品産業技術総合研究所、お茶の水女子大学リサーチフェロー、(株)日羊社
理学専攻	岩瀬コスファ(株)、お茶の水女子大学リサーチフェロー

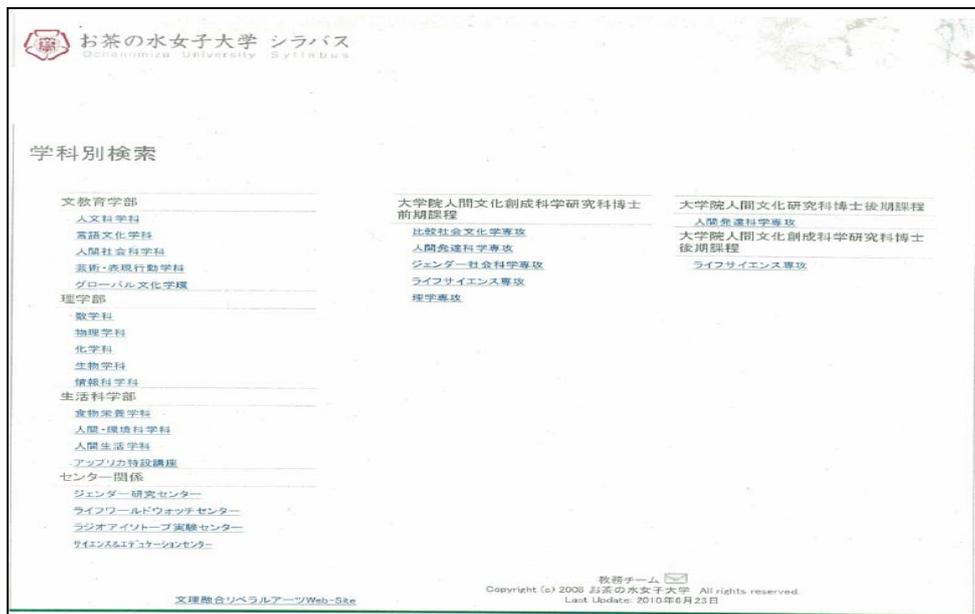
5. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。【担当：教務チーム】

本学のシラバスに関する情報を広く公開しております。本サイトは、年度別、科目別、学科別、教員別、時間割、全文検索から構成されております。

■シラバスのトップページ 【シラバス提供：<http://yw.ao.ocha.ac.jp/Syllabus/>】



■学科別検索



6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。【担当：教務チーム】

(1) 学部の必修科目、選択科目及び自由科目の区分ごとの必要単位修得数

① 文教育学部

科目区分 学科別	必修及び選択必修の科目・単位								自由に選択して履修する科目・単位							卒業に必要な履修単位数		
	コア科目					専門教育科目 (必修プログラム)			コア科目	専攻科目	学部共通科目	他学科の専攻科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目		教職に関する科目	必修以外の選択プログラム
	文理融合L/A	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム										
人文科学科	18		16	2	44		20							28			124	
言語文化学科	18		20	2	44		20							26			124	
人間社会科学科	18		10	2	48		20							26			124	
グローバル文化学環	18		18	2	44		20							26			124	

② 文教育学部

科目区分 学科別	必修及び選択必修の科目・単位					自由に選択して履修する科目・単位							卒業に必要な履修単位数				
	コア科目				専攻科目	関連科目	コア科目	専攻科目	学部共通科目	他学科の専攻科目	他学部の科目	全学共通科目		教職共通科目	教職に関する科目	必修以外の選択プログラム	
	文理融合L/A	基礎講義	情報	外国語													スポーツ健康
芸術・表現行動学科	18		10	2	20									28			124

③ 理学部

科目区分 学科別	必修及び選択必修の科目・単位								自由に選択して履修する科目・単位							卒業に必要な履修単位数	
	コア科目					専門教育科目 (必修プログラム)			コア科目	専攻科目	他学科の専攻科目	関連科目	他学部の科目	全学共通科目	教職に関する科目		必修以外の選択プログラム
	文理融合L/A	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム									
数学科			30		60		20							14			124
物理学科			30		60		20							14			124
化学科			30		60		20							14			124
生物学科			30		60		20							14			124
情報科学科			30		60		20							14			124

④生活科学部

科目区分 学科別	必修及び選択必修の科目・単位								自由に選択して履修する科目・単位							卒業に必要な履修単位数		
	コア科目					専門教育科目 (必修プログラム)			コア科目	専攻科目	学部共通科目	自由科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目		教職に関する科目	必修以外の選択プログラム
	文理融合L/A	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム										
人間・環境科学科	30					60	20			14							124	
人間生活学科	30					42	20			32							124	

⑤生活科学部

科目区分 学科別	必修及び選択必修の科目・単位						自由に選択して履修する科目・単位									卒業に必要な履修単位数	
	コア科目					専攻科目	関連科目	コア科目	専攻科目	学部共通科目	自由科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目	教職に関する科目		必修以外の選択プログラム
	文理融合L/A	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康												
食物栄養学科	30					101	4	28									138

(2) 学部の成績評価

① 成績評価

成績の評価は、原則として試験、平常の成績及び出席状況を総合して、100点満点、60点以上を合格とする素点による評価またはレターグレード（S、A、B、C、D（不合格））による評定で評価されます。成績通知票・成績証明書には合格科目それぞれについて以下のとおり記載されます。

レターグレードと評点区間、及び評価基準の対応関係は次のとおりです。

- S（90点以上）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
- A（90点未満～80点以上）：基本的な目標を十分に達成している。
- B（80点未満～70点以上）：基本的な目標を達成している。
- C（70点未満～60点以上）：基本的な目標を最低限度達成している。
- D（60点未満不合格）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価は上記の評価基準のほか、S評価を評価対象者の15%以内（履修者数が10人未満の場合は2名以下）に留めることを目安にした評価基準を設けて評定されます。履修放棄によって評定できない場合はD（不合格）となります。授業科目によって素点評価がなされる場合とレターグレードで評定される場合がありますが、後者の場合はつぎの規定により評点が定まります。

$$S=95, A=85, B=75, C=65, D（不合格）=55$$

② GPA制度

本学は学生の視点に立った教育改革を推進するため、米国やアジア諸国で行われているGPA（Grade Point Average）制度を導入しました。この制度は、各学生の授業科目ごとの成績評価を一定の方法でグレードポイント（GP）に置き換え、そのGPに該当の科目の単位数を乗じて、それを履修数分合算し、その値を登録科目総単位数で割って算出するものです。

GPA制度は単位数という学習の「量」だけではなく、成績評価に基づく「質」について保証するものです。GPAにより、学期（セメスター）毎の学習の成果がより明確となり、学生の学習意欲の向上や履修登録の自己規制、さらに各自の努力目標が具体的になることなどをねらいとしています。ここでは、学生にとって、大切と考える目的や効果を3つあげます。

1) 学ぶ意欲がいっそうに増す

個々の科目における学習改善努力が成績に反映しやすくなります。これまでは成績評価が5段階のみであらわれ、粗かったため、多少の努力のほどは成績評価値になかなか反映されませんでした。

GPAでは科目の試験やレポートの素点評価がリアルに成績に反映するので、学習努力の違いが成績差異としてはっきりみえやすくなります。したがって、自分自身の成績改善に向けての動機が高まり、授業への積極的な参加意欲が増すことになるでしょう。

また、単に単位の修得だけでなく、よりよい成績をとることの意味が実感できるようになります。

2) 不合格を避け、しっかり履修

GPAの算定ではある科目が不合格になると、そのGPは0で、しかもGPA算定の分母にはその科目の単位数が加算されます。そのため、不合格をとると最終的なGPAの値に大きなダメージを負います。

これまでのように不合格科目は成績証明書に記載されず、必修科目でない限り何の損失も被らないというようなことはなくなります。ただし、一度不合格になった科目でも再履修してあらためて合格の成績をとれば、その新たな成績が上書きされてあらためてGPA算定がなされます。

ともあれGPA制度のもとでは、履修した科目は不合格にならないように気をつけることが大事になります。そのためには、科目履修の際に必要な以上に多くの科目を履修してあとで負担にならないよう十分留意し、計画的な履修をすることが大切になります。

3) 自分の成績の位置づけがわかるとともに各種選考基準の透明性が増す

学期ごとに学科目のGPやGPA値を確認しながら、学内での自分の成績の相対的な位置づけを確認していくことができます。さらに、今後、奨学金の貸与基準、特定の科目の履修基準、種々の学内選考の際の基準指標などにGPA値が使われるようになりますので、目指すべき成績について具体的な目標を設定しやすくなります。

また、就職や留学、進学など対外的な場面で、この値が求められても対応できることになります。

③ GPAの算定方法

GPAは、授業科目ごとの成績評価(100点満点の素点評価SS)をつぎに示した1)の算定方法でGPに置き換え、つぎに2)の算定方法で、そのGPに該当の科目の単位数を乗じて、それを履修科目数分合算し、その値を履修総単位数で除することにより求めます。

$$1) \quad GP = (SS - 55) / 10 \quad \text{ただし、} GP < 0.5 \text{ は } GP = 0.0 \text{ とする。}$$

SSは100点満点の素点評価

$$2) \quad GPA = (\text{履修科目の} GP \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和} / \text{履修総単位数}$$

・履修総単位数には不合格となった科目(GP=0)の単位数も含まれる。

④ 2つのGPA指標(f-general GPAとf-strict GPA)の併用

本学ではGPAの機能特性を十全に発揮させ、かつ国内外の大学との通用性を確保するため、f-strict GPAとf-general GPA(fはfunctionalの略)、2つの指標を併用します。

f-strict GPAは現在、多くの大学で採用されているGPAと実用上、十分な互換性をもっていることが検証済みです。しかし、成績のトップゾーンにかぎってはとくに米国と我が国の多くの大学においてGP(A)の最高点を4.0、合格域の最低点を1.0にしているのに対して、f-strict GP(A)では最高点が4.5、最低点が0.5になります。そこで他機関との通用性を優先して、本学では対外的に用いるGPAとしてf-strict GPが4.0以上の値(100点満点換算で95点以上)を一律4.0、1.0以下、0.5以上の値を一律1.0にしたf-general GPも用います。

一方、学内でGPAを種々の用途に使う場合には(成績の全範囲について原成績を忠実に反映する)f-strict GP(A)を用います。

⑤ GPA算定の対象科目

他大学などでの履修(留学を含む)や本学における評価でレターグレードや素点ではなく、単位認定として評価される科目や「合否・不合格」による評定で成績がでる科目を除く総ての科目が対象になります。

⑥ 成績通知票・成績証明書への記載

成績通知票や成績証明書にはその趣旨説明とともに f-strict GP (A)、f-general GP (A) 両指標を併記します。

また、GPA算定方法の説明や「不可」評価の単位数を記載し、成績とGPA間の整合性を明白にします。

(3) 大学院の修了要件

① 大学院 人間文化創成科学研究科博士前期課程の修了要件

博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該博士前期課程の目的に応じ、当該大学院の行う修士論文又は特定の課題についての研究の審査及び最終試験に合格すること。

ただし、優れた研究業績を上げたと認められた者の在学期間に関しては、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

② 大学院 人間文化創成科学研究科博士後期課程の修了要件

博士後期課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、所要の授業科目について10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

(4) 大学院の成績評価

成績の評価は、「A」（基本的な目標を十分に達成している）、「B」（基本的な目標を達成している）、「C」（基本的な目標を最低限度達成している）、「D」（基本的な目標を達成していない。再履修が必要である）の4種類の評語をもって表し、「A」、「B」及び「C」を合格とし、「D」を不合格とする。

(5) 取得可能な学位

学 部

	学位	専攻分野の名称
文教育学部	学士	人文科学
理学部		理学
生活科学部		生活科学

大学院 人間文化創成科学研究科博士前期課程

	学位	専攻分野の名称
比較社会文化学専攻	修士	人文科学、社会科学、生活科学、学術
人間発達科学専攻		人文科学、社会科学、生活科学、学術
ジェンダー社会科学専攻		人文科学、社会科学、生活科学、学術
ライフサイエンス専攻		生活科学、理学、学術
理学専攻		理学、学術

大学院 人間文化研究科博士前期課程

	学位	専攻分野の名称
博士前期課程	修士	専攻分野に応じ 学術、人文科学、理学、社会科学 又は 生活科学

大学院 人間文化創成科学研究科博士後期課程

	学位	専攻分野の名称
比較社会文化学専攻	博士	人文科学、社会科学、生活科学、学術
人間発達科学専攻		人文科学、社会科学、生活科学、学術
ジェンダー学際研究専攻		人文科学、社会科学、生活科学、学術
ライフサイエンス専攻		生活科学、理学、学術
理学専攻		理学、学術

大学院 人間文化研究科博士後期課程

	学位	専攻分野の名称
博士後期課程	博士	専攻分野に応じ 学術、人文科学、理学、社会科学 又は 生活科学

(6) 取得可能な資格関係

① 教育職員免許状

全ての学部・研究科（専攻）で取得することができ、学科・研究科（専攻）で学んだ専門科目を生かすことができます。具体的には以下のとおりです。

一種免許状

学部	学 科	免許状の種類及び教科			
		中学校一種	高等学校一種	その他の免許状の種類	
文 教 育 学 部	人文科学科	社会	地理歴史 公民		
	言語文化学科 日本語・日本文学履修コース	国語	国語		
	中国語圏言語文化履修コース	中国語	中国語		
	英語圏言語文化履修コース	英語	英語		
	人間社会科学科 社会コース	社会	公民		
	小学校・幼稚園コース			小学校一種	幼稚園一種
	芸術・表現行動学科 舞踊教育学履修コース 音楽表現履修コース	保健体育 音楽	保健体育 音楽		
理 学 部	数学科	数学	数学		
	物理学科	理科	理科		
	化学科	理科	理科		
	生物学科	理科	理科		
	情報科学科 数学コース 情報コース	数学	数学 情報		
生 活 科 学 部	人間生活学科 家庭コース	家庭	家庭		
	食物栄養学科			栄養教諭一種	

専修免許状

研究科・課程	専攻	免許状の種類及び教科			
		中学校専修	高等学校専修	その他の免許状の種類	
大学院 人間文化創成科学研究科博士前期課程	比較社会文化学専攻				
	国語コース	国語	国語		
	中国語コース	中国語	中国語		
	英語コース	英語	英語		
	社会コース	社会	地理歴史 公民		
	保健体育コース	保健体育	保健体育		
	音楽コース	音楽	音楽		
	家庭コース	家庭	家庭		
	人間発達科学専攻	教育職員免許法 4 条第 5 項第 1 号に掲げる全ての教科(外国語は英語、中国語、フランス語に限る)	教育職員免許法 4 条第 5 項第 2 号に掲げる全ての教科(外国語は英語、中国語、フランス語に限る)	小学校専修	幼稚園専修
	ジェンダー社会科学専攻				
	社会コース	社会	地理歴史 公民		
	家庭コース	家庭	家庭		
	ライフサイエンス専攻				
	家庭コース	家庭	家庭		
	理科コース	理科	理科		
	理学専攻				
	理科コース	理科	理科		
	数学コース	数学	数学		
	情報コース		情報		

②学芸員（博物館）の資格取得

学芸員（博物館）の資格を取得するには、卒業に必要な単位を修得するほか、博物館法施行規則に基づいて本学が定めた所定の単位を併せて修得する必要があります。したがって、資格の取得を希望する者は、低学年次から計画的に履修する必要があります。

将来、学芸員（博物館）として就職する際には、本学が発行する卒業証明書及び学芸員の資格認定に関する科目の単位修得証明書を任命権者（都道府県及び市町村の教育委員会等、博物館の管理機関）に提出する必要があります。

③社会教育主事の資格取得

社会教育主事は、社会教育を行う者に専門的、技術的な助言と指導を与える専門職員であり、地方公共団体の教育委員会の事務局に置かれています。資格を取得するには、低学年次から計画的に卒業に必要な単位を修得するほか、社会教育主事講習等規程に基づいて本学が定めた所定の単位を併せて修得する必要があります。

学校教員（地域の人々との協働）、地方公務員、NPO・ボランティア団体リーダー、企業内教育担当者として就職するときも、社会教育主事の資格とその中身は役立ちます。

④社会調査士の資格取得

社会調査士は、一般社団法人社会調査協会が認定・発行する資格であり、社会調査に関する基礎的な知識・

技能・相応の応用力と倫理観を習得したことを証明するものです。

資格取得には、社会調査協会が認定した機関・大学における標準カリキュラムの履修と、大学卒業が要件となります。また、社会調査士資格は、より上位の専門社会調査士の取得の要件となっています。

⑤栄養士の資格取得

栄養士の資格は、生活科学部食物栄養学科の必要な科目を取得(卒業に必要な履修単位 138 単位を取得)すると取得できます。

⑥食品衛生管理者および食品衛生監視員の国家試験受験資格

食品衛生管理者および食品衛生監視員は、以下の科目から 40 単位以上取得すると得られます。食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格は、必要な職種について、その任につくことができる任用資格であり、特に証書は発行されません。

専門分野	授業科目	単位	専門分野	授業科目	単位
A 群 化学関係	◎基礎有機化学	2	E 群 関連科目	◎代謝栄養学	2
	◎分析化学	2		・食物学概論	2
	◎分析化学実験	2		◎病態栄養学	2
B 群 生物化学	◎生化学	2		・食品学	2
	◎細胞生化学	2		◎調理科学	2
	◎食品化学	2		・食品評価論	2
	◎食品化学実験	2		◎栄養学実験	2
C 群 微生物学	◎食品製造・保存学	2		・食物栄養学基礎演習	2
	◎食品微生物学	2		◎解剖生理学 I	2
	◎食品微生物学実験	1		◎解剖生理学 II	2
	◎食品製造・保存学実験	2		◎食品機能論	2
D 群 公衆衛生学	◎食品衛生学	2		◎臨床医学総論	2
	◎生活環境学	2		◎臨床医学各論 I	2
	◎公衆衛生学	2	◎臨床医学各論 II	2	
			◎解剖生理学実験	1	

◎は必修科目

⑦管理栄養士の国家試験受験資格

管理栄養士は、医療機関などで傷病者に対する栄養評価・判定に基づく専門的な病気療養のための栄養管理、保健所における健康増進を図るための専門的な栄養指導、および特定給食施設において利用者の栄養状態等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理などを行う専門職です。生活科学部食物栄養学科の必要な科目を修得(卒業に必要な履修単位 138 単位を修得)すると国家試験受験資格が与えられます。

⑧二級建築士の国家試験受験資格

建築物の設計、工事監理等の業務を行う専門職です。生活科学部人間・環境科学科の必要な科目を修得すると国家試験受験資格が与えられます。

7. 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。【担当：広報チーム】

(1) 所在地

区 分	所 在 地	電話番号
学長室 総務機構 教育機構 国際・研究機構 学術・情報機構 文教育学部 理学部 生活科学部 大学院人間文化創成科学研究科 附属図書館 全学教育システム改革推進本部 国際本部 センター本部 附属学校本部 知的財産本部 お茶大アカデミック・プロダクション	〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号	ダイヤルイン局番 03-5978-5106
いずみナーサリー	〒112-0012 東京都文京区大塚2丁目1番22号	03-5978-5337
国際学生宿舎	〒173-0022 東京都板橋区仲町2番1号	03-3956-6870
小石川寮	〒112-0012 東京都文京区大塚1丁目6番6号	03-3944-2395
新寮建設中	〒112-0012 東京都文京区大塚1丁目6番6号	—
東村山郊外園	〒189-0012 東京都東村山市萩山町2丁目3番1号	—
湾岸生物教育研究センター	〒294-0301 千葉県館山市香11番地	0470-29-0838
館山野外教育施設		0470-29-0979
志賀高原体育運動場	〒381-0401 長野県下高井郡山ノ内町大字平穏7149番地	0269-34-2507

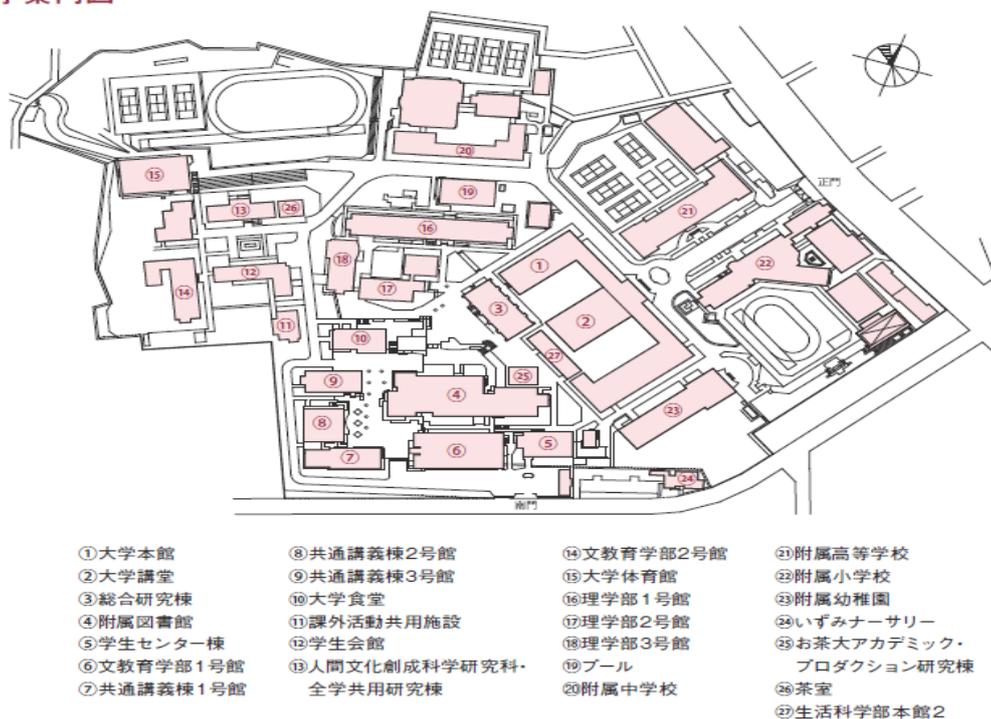
(2) 主な交通手段・・・アクセスマップ等 【担当：広報チーム】



- ・東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅より徒歩7分、
- ・東京メトロ有楽町線「護国寺」駅より徒歩8分
- ・都営バス「大塚二丁目」停留所より徒歩1分

(3) キャンパス概要・・キャンパスマップ等 【担当：広報チーム】

大学案内図



(4) 運動施設の概要・・運動施設の機能と規模 【担当：施設環境チーム】

名称	構造	建面積	延面積	施設等の概要
大学体育館	RC：2	927 m ²	1,390 m ²	大学の運動施設として利用
大学運動場	—	—	6,585 m ²	大学の運動施設として利用
大学テニスコート	—	—	2,000 m ²	3面、オムニコートである
附属小学校体育館	S：1	588 m ²	615 m ²	附属小学校の生徒が体育実習施設として利用
附属中学校体育館	RC：2	1,056 m ²	1,493 m ²	附属中学の生徒が体育実習施設として利用
附属高等学校体育館	S：1	1,004 m ²	1,060 m ²	附属高校の生徒が体育実習施設として利用
館山野外教育施設	W：1	277 m ²	277 m ²	施設は、千葉県館山市にあり、体育実習及び附属
館山宿舎	3棟	51 m ²	51 m ²	学校の校外教育施設として利用
志賀高原体育運動場管理棟	RC：2	177 m ²	324 m ²	施設は、長野県下高井郡山ノ井町にあり、体育実
志賀高原体育運動場宿泊棟	RC：3	164 m ²	342 m ²	習及び附属学校の校外教育施設として利用

RC：鉄筋コンクリート造、SRC：鉄骨鉄筋コンクリート造、S：鉄骨造、W：木造

(5) 休息など行える施設・・食堂、談話室等 【担当：学生・キャリア支援チーム、附属図書館チーム】

① 附属図書館

平成19年12月17日に附属図書館1階にキャリアカフェをオープンしました。

このキャリアカフェは、コーヒーを片手に「リラックスできる知的空間、学生が主体となった知的コミュニケーション空間」を目指し設置されたものです。

また、平成20年4月からキャリアカフェ内に「キャリアカフェ文庫」を設置しました。「夢・キャリア・ライフワーク」「美しい日本語」「心を癒す」をテーマに図書館が選書した少し軽めの図書を置き、利用者の自主管理による一夜貸しを行っています。こちらも学生に人気のコーナーになっています。

② 食 堂

食堂の営業時間外（14時～16時30分）を活用し、学生の休息のフロアとして活用しています。

③ 学生会館

学生会館（大ホール）は、学生相互の親睦や学生の教養を高め、また課外活動を積極的に進め、学園生活を豊かにする場所として談話室を開放しています。

8. 学生の教育研究環境に関すること。

(1) 附属図書館の学習環境 【担当：附属図書館チーム】

附属図書館は、共通講義棟、食堂、大学生協、保健管理センター等に隣接し、キャンパスで最も人通りが多く、学生にとってアクセスしやすい場所に立地しています。昭和57年2月竣工の建物は決して新しいとは言えませんが、近年、館内に大幅な改修を施し、居心地のいい学習空間と最先端の学術情報サービスを提供しています。来館者数は年々増加しており、平成22年度には年間総計282,000人(1日当たり約1,100人)を記録しました。これは、本学の学生・教員の3人に1人が、毎日1回は附属図書館を訪れた計算になります。

1) 基本情報

A：建物面積（平成23年5月1日現在）

名 称	構 造	建面積	延面積
附属図書館	RC：3-1	1,413 m ²	4,422 m ²

B：利用状況（平成22年度）※平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響による臨時休館あり。

開館日数	入館者数	館外貸出冊数
256日	281,654人	36,897冊

C：蔵書冊数（平成23年5月1日現在）

図書の冊数		所蔵雑誌の種類数	
和 書	433,193冊	和雑誌	7,074種
洋 書	207,041冊	洋雑誌	2,685種
計	640,234冊	計	9,759種

C：年間受入冊数（平成22年度）

年間受入図書冊数		年間受入雑誌の種類数	
和 書	11,466冊	和雑誌	2,274種
洋 書	2,525冊	洋雑誌	601種
計	13,991冊	計	2,875種

E：開館時間 ※年末年始休館、蔵書点検のための部分休館などの定めあり。

	授業のある期間	授業のない期間
月～金	8:45～21:00 (資料の閲覧等は9:00～)	8:45～17:00 (資料の閲覧等は9:00～)
土	9:00～17:00	休館
日・祝日	休館	休館

F：貸出できる資料の冊数と期間

	図 書	視聴覚資料
学部1～3年生	10冊、2週間	3点、1週間
学部4年生、大学院生	20冊、4週間	
研究生等	10冊、2週間	

- 本学には、附属図書館のほかに学科・講座等にも20余りの図書室・資料室があります。上記③④の数値は学科・講座等図書室を含めたものです。附属図書館は本学の教育・研究基盤として、21世紀型文理融合リベラルアーツ教育を支える学習図書、基本的・学際的な研究図書を収集しており、約34万冊が配架されています。また、視聴覚資料、電子ジャーナル、電子ブック、各種データベースの整備にも努めています。学科・講座等の図書室は、それぞれの研究分野に応じた専門性の高い図書・雑誌等を収集しています。
- 【電子ジャーナル】Elsevier社、Springer社、Wiley-Blackwell社の三大出版社をはじめ、American Chemical Society、American Physical Society、Oxford University Press、Nature、Scienceなど、約13,000種の電

子ジャーナルを利用することができます。

- ・【電子ブック】和書・洋書あわせて、約9,000冊の電子ブックを利用することができます。
- ・【データベース】雑誌論文検索データベースのEBSCOhost、SciFinderScholar、SciverseSCOPUS、医中誌Web、各種百科事典やハンドブックのオンライン版であるGVRL (Gale Virtual Reference Library)、新聞記事データベースの「聞蔵Ⅱ」なども利用することができます。

2) 特徴的な施設と学習支援サービス

A：ラーニング・コモンズ (1階)

本学のラーニング・コモンズは、平成19年4月、全国に先駆けて図書館1階南側スペース(約150㎡)に設置されました。情報基盤センターの協力により、現在、約80台のパソコン(シンククライアント方式)とスキャナー機能付きネットワークカラープリンタが運用されています。全学統一認証システムを介し、持ち込みパソコンで無線LANを利用することもできます。

大学院生TAがラーニング・アドバイザーとして常駐し、利用者の疑問に答えています。パソコンを使用する授業や、図書館が提供するリテラシー講習会にも活用されており、単なるパソコン利用スペースではなく、参加・協働する学習コミュニケーション空間として機能しています。

B：キャリアカフェ (1階)

ラーニング・コモンズに隣接するキャリアカフェは、平成19年12月に開設されました。図書館エントランスホールの自販機で購入したコーヒーや持ち込みの飲み物を片手に「リラックスできる知的空間、学生が主体となった知的コミュニケーション空間」を目指し、設置されたものです。少人数のグループ学習に最適で、無線LANに接続したパソコンを囲み、熱い議論が交わされることもあります。可動性にすぐれた椅子・テーブルはレイアウトも自由自在で、学生主体のイベントに活用されています。楽しみながら、企画・運営力やプレゼンテーション能力が身につく、実践的なキャリア意識が育ちます。

さらに、キャリア支援センターによる就職セミナー、グローバル教育センターによる留学相談なども実施されており、さまざまな学生支援サービスをワンストップで利用できる場所になっています。

C：ラウンジ (1階)

大きなテーブル、ゆったりしたソファでくつろげるラウンジには、当日の新聞、週刊誌、情報誌、お茶の水女子大学関連の広報資料などが配架されています。また、平成22年5月から、附属図書館と音楽表現コースの協働によるピアノコンサートが定期的に行われています。使用されるピアノは、1920年代にドイツで製作されたベヒシュタイン社製のもので、70年以上にわたって本学附属学校で音楽教育を支えてきました。大学資料委員会は、本学に残る歴史的文物を保存するという目的から、この楽器を次の世代にも受け継ぐために、演奏可能な状態に復元したものです。

D：クワイエット・スタディスペース (2階)

活気あふれる1階とは対照的に、図書館2階は静寂の中で学習に集中するための空間です。平成22年4月には、学生専用のノートパソコン自動貸出ロッカーが設置されました。40台のノートパソコンが準備されており、いつでもパソコンを借り出して、当日中、図書館内で利用することができます。

E：視聴覚コーナー (2階)

視聴覚コーナーでは、図書館所蔵のビデオテープ、DVD、CD等の視聴覚資料を利用することができます。一部貸出可能な資料もあります。また、学習・研究に必要な視聴覚資料を持ち込んで、ここで視聴することもできます。

3) 附属図書館が提供する学習・研究支援サービス

A：レファレンスサービス

図書館2階のレファレンスカウンターでは、図書館の利用に関する質問・相談、学外への文献複写・図書借用申込み、紹介状の発行などを受け付けています。中でも特筆すべきサービスは、学生に対し、文献複写の取り寄せを無料で実施していることです。図書借用の場合は、片道分の送料が無料になります。

B：リテラシー講習会

図書館は、学習・研究をサポートするさまざまな講習会を企画・開催しています。「リテラシー」とは、図書館の資料や電子リソース、データベースなどを使いこなす力のことを言います。

情報探索講習会「図書館を使いこなそう！」は、年2回、6月と10月に、3週間から1ヶ月にわたり、30～40分の講習会を1日2コマないし3コマ、集中的に開催するプログラムです。各回の参加人数は3～4人で、短時間で効率よく学習したい利用者に向いています。「オーダーメイド講習会」は、授業やゼミ、研究室等のグループ単位の申し込みに対応しています。時間や内容は要望に応じてアレンジしますので、専攻分野や関心に即した内容をじっくり深く学習することができます。

C：LiSA (Library Student Assistant) プログラム

平成19年11月より始まった、図書館スタッフと学生の協働による図書館活性化プログラムです。半年を1期とし、図書館に関心をもつ学生を募集し、図書館スタッフの指導・助言のもと、図書への整備、カウンター業務の補助、機関リポジトリのデータ入力など、さまざまな業務を体験してもらいます。時には、学生の側から積極的に、資料展示や図書館ツアーなど自主企画の提案も行われます。多様な図書館資料に触れることにより、積極的な学習意欲を喚起すること、他者をサポートする体験を通じて、実践的なキャリア意識の形成を図ることを目標としています。

D：教育・研究成果コレクション TeaPot (機関リポジトリ)

お茶の水女子大学の教育・研究成果を蓄積・発信する機関リポジトリは、平成19年4月に正式公開されました。本学の名前にちなんだ「TeaPot」の愛称で親しまれています。雑誌『幼児の教育』の初号からの電子化公開、舞踊教育学コースの創作舞踊公演の動画など特徴的なコンテンツに加え、本学の学部・学科・センター等が発行する紀要雑誌の目次情報と本文の公開にも努めています。平成22年度末の累計登録件数は33,505件となりました。大学または附属図書館のトップページからアクセスできます。

<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/>



キャリアカフェ (1階)



ラーニングcommons(リテラシー講習会)



TeaPot 画面

(3) 学部学科、大学院の学習環境【ファカルティー支援チーム】

1) 学部学科

学部学科等	学習環境の状況					
	学生控え室の有無	図書室の有無	学生用パソコンの有無	個人ロッカーの有無	その他、各学科等の状況	
文教育学部	人文科学科 哲学・倫理学・美術史コース	有(文 1-620)	有(文 1-619)	有(1 台)	有(文 1-620)	他、図書室(文 1-613) 地図室、計算機室、地学標本室など有
	比較歴史学コース	有(文 1-612)	有(文 1-612)	有(10 台)	有(文 1-612)	
	地理学コース	有(文 1-716)	有(文 1-709)	有(13 台)	有(文 1-716)	
	言語文化学科					学習、休憩のスペースあり。 他、図書室(文 1-421)
	日本語・日本文学コース	有(文 1-523)	有(文 1-522)	有(3 台)	有(文 1-523)	
	中国語圏言語文化コース	有(文 1-417)	有(文 1-413)	有(4 台)	有(文 1-417)	
	英語圏言語文化コース	有(文 1-818)	有(文 1-420)	有(3 台)	有(文 1-818)	
	仏語圏言語文化コース	有(共 3-405)	有(共 3-206)	有(1 台)	有(共 3)	
	人間社会科学科					控室パソコン、ロッカーは教育科学コースと共同 AA が学生の学習、アドバイスを支援 パソコンは院生と共通
	社会学コース	有(文 1-821)	有(文 1-616)	有(10 台)	有(文 1-821)	
教育科学コース	有(文 1-821)	有(文 1-218)	有(10 台)	有(文 1-821)		
心理学コース	有(文 1-227)	有(文 1-812)	有(9 台)	有(文 1-227)		
芸術・表現行動学科					パソコンは院生と共通 個人用ピアノ練習室 10 室有	
舞踊教育学コース	有(文 2-207)	有(文 2-213)	有(4 台)	有(文 2-207)		
音楽表現コース	有(文 2-207)	有(文 2-109)	有(2 台)	有(文 2-207)		
グローバル文化学環	有(文 1-305)	有(文 1-708)	有(6 台)	有(文 1-305)		
理学部	数学科	有(理 1-618)	有(理 1-602)	有(7 台)	有(理 1-618)	他、控室・理 1-622,628,632,641 など 4 年次配属先研究室にて、机、ロッカー、パソコン(含む共有)を配分
	物理学科	有(理 1-218)	有(理 1-610)	有(28 台)	有(理 1-218)	
	化学科	有(理 1-418)	有(理 1-601)	有(20 台)	有(理 1-418)	
	生物学科	有(理 1-518)	無	有(54 台)	有(理 1-518)	
情報科学科	有(理 3-604)	有(理 3-501)	有(40 台)	有(理 3-604)	他、控室 4 年には研究室で机を用意	
生活科学部	食物栄養学科	有(総-405)	有(本-208)	有(27 台)	有(生 2-164)	他、控室(総-504)、 図書室(生-266)
	人間・環境科学科	有	無	無	有(生 2-164)	
	人間生活学科					他、図書室(本館 305,310,315 など)
	発達臨床心理学講座	無	有(本-331)	有(1 台)	有(生 2-163)	
	生活社会科学講座	無	有(本館-303)	有(12 台)	有(生 2-161)	
生活文化学講座	有(本館-321)	有(本館-329)	有(6 台)	有(生 2-162)		

2) 大学院

学部学科等	学習環境の状況					
	学生控え室の有無	図書室の有無	学生用パソコンの有無	個人ロッカーの有無	その他、各学科等の状況	
博士前期課程	比較社会文化学専攻					
	日本語日本文学コース	有(文 1-501)	有(文 1-523)	有(4台)	有(文 1-524)	パソコンは共用
	アジア言語文化学コース	有(文 1-417)	有(文 1-413)	有(4台)	有(文 1-417)	他、図書室-文 1-414
	英語圏言語文化学コース	有(文 1-815)	有(文 1-420)	有(3台)	有(文 1-815)	他、図書室-文 1-421、パソコンは共用
	仏語圏言語文化学コース	有(共 3-405)	有(共 3-206)	有(1台)	有(共 3)	パソコンは共用
	日本語教育コース	有(文 2-102)	有(文 2-103)	有(1台)	有(文 2-102)	図書室は助手室と共用
	思想文化学コース	有(文 1-620)	有(文 1-619)	有(1台)	有(文 1-620)	パソコンは共用
	歴史文化学コース	有(文 1-805)	有(文 1-613)	有(10台)	有(文 1-805)	パソコンは共用
	生活文化学コース	有(本館-324)	有(本館-329)	有(6台)	有(本館-324)	パソコンは共用
	舞踊・表現行動学コース	有(文 2-215)	有(文 2-舞踊)	有(4台)	有(文 2-215)	パソコンは共用
音楽表現学コース	有(文 2-112)	有(文 2-109)	有(2台)	有(文 2-207)	他、控室-文 2-207、パソコンは共用	
博士前期課程	人間発達科学専攻					
	教育科学コース	有(文 1-713)	有(文 1-213)	有(18台)	有(文 1-713)	控室、パソコンは共用
	心理学コース	無	有(文 1-812)	有(47台)	有(文 1-223, 818,801,224 生本 2-262-2)	図書室、パソコンは共用
	発達臨床心理学コース	有(本館-129)	有(本館-331)	有(20台)	有(本館-129)	パソコンは共用
	応用社会学コース	有(文 1-713)	有(文 1-616)	有(17台)	有(文 1-713)	パソコンは共用
保育・児童学コース	有(生 2-261-1)	有(本館-331)	有(6台)	有(生 2-261-1)	パソコンは共用	
博士前期課程	ジェンダー社会科学専攻					
	生活政策学コース	有(本館-319)	有(本館-303)	有(8台)	有(本館-319)	他に、図書室-本館-305,310,315 など
	地理環境学コース	有(文 1-701)	有(文 1-709)	有(6台)	有(文 1-701)	地図室,計算機室,地学標本室など有
開発・ジェンダー論コース	有(生本 2-261)	無	有(5台)	有(生本 2-261)	パソコン、机、椅子は共用	
博士前期課程	ライフサイエンス専攻					
	生命科学コース	有(理 1-518)	有(理 1-601)	有(53台)	有(理 1-518)	パソコンは各教員が学生用に用意
	人間・環境科学コース	無	無	有(20台)	無	パソコンは共用
	食品栄養科学コース	有(総-405)	有(本-208)	有(28台)	配属研究室	他に、控室-総-504、図書室-生-266
遺伝カウンセリングコース	有(共 3-502)	有(共 3-502)	有(4台)	有(共 3-502)		
博士前期課程	理学専攻					
	数学コース	有(理 2-606)	有(理 1-602)	有(8台)	無	他、控室-理 2-607、理 1-641
	物理科学コース	有(各院生室)	有(理 1-610)	有(40台)	有(各研究室)	パソコンは共有
	化学・生物化学コース	有(理 1-418)	有(理 1-601)	有(20台)	有(理 1-3,4)	パソコンは共有
情報科学コース	無	有(理 3)	有(160台)	無	パソコンは共有	
博士後期課程	比較社会文化学専攻					
	国際日本学領域	有(文 1-620)	有(文 1-523, 619)	有(6台)	有(文 1-620)	パソコンは共用
	言語文化論領域	有(文 1-815 共 3-405)	有(文 1-420 共 3-206)	有(9台)	有(文 1-815 共 3)	他、控室-文 1-417,図書-文 1-421,413
	比較社会論領域	有(文 1-805 文 2-215)	有(文 1-613 文 2-舞踊)	有(9台)	有(文 1-805 文 2-215)	パソコンは共用
表象芸術論領域	有(本館-324, 文 2-215)	有(本館-329, 文 2-舞踊 109)	有(6台)	有(本館-324, 文 2-215)	パソコンは共用 他、控室-文 2-112,207、パソコンは共用	

人間発達科学専攻 教育科学領域 心理学領域	有(文 2-307) 無	有(文 1-213) 有(文 1-812)	有(18 台) 有(47 台)	無 有(文 1-223, 818,801,224 生本 2-262-2)	パソコンは共用 図書室、パソコンは共用
発達臨床心理学領域 社会学・社会政策領域 保育・児童学領域	有(本館-129) 有(文 1-713, 本館-312 等) 有(生 2-261-2)	有(本館-331) 有(文 1-616, 本館 303 等) 無	有(20 台) 有(23 台) 有(6 台)	有(本館-129) 有(文 1-713, 本館 312 等) 有(生 2-261-2)	パソコンは共用 パソコンは共用 パソコンは共用
ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域	有(学生セ 4 階,本館 312, 313)	有(本館-303, 305,310,315, 318,208)	有(9 台)	有(学生セ 4 階, 本館 312)	他、控室・ロッカーは、ジェンダー研究センター 図書館(生 2-266、267)パソコンは共有
ライフサイエンス専攻 生命科学領域 人間・環境科学領域 食品栄養科学領域 遺伝カウンセリング領域	有(理 1-518) 無 有(総-405) 有(共 3-204)	有(理 1-601) 無 有(本館-208) 有(共 3-502)	有(53 台) 有(20 台) 有(28 台) 有(4 台)	有(理 1-518) 無 配属研究室 有(共 3-502)	パソコンは共有、各教員が学生用に用意 パソコンは共有 他に、控室(総-504)、図書室(生-266) パソコンは共有
理学専攻 数学領域 物理科学領域 化学・生物化学領域 情報科学領域	有(理 2-606) 有(各院生室) 有(理 1-418) 有(全 12 室)	有(理 1-602) 有(理 1-610) 有(理 1-601) 有(理 3-501)	有(8 台) 有(40 台) 有(20 台) 有(160 台)	無 有(各研究室) 有(理 1-3,4) 有	他、控室-理 2-607、理 1-641 パソコンは共有 パソコンは共有 パソコンは共有

注 1) 文＝文教育学部、理＝理学部、生＝生活科学部、本館＝大学本館、生＝生活科学部、学生セ＝学生センター棟
共＝共通講義棟、総＝総合研究棟、生本 2＝生活科学部本館 2

注 2) 控室・図書室・パソコン・ロッカーの学習環境は、学部と大学院が分かれておりませんので、共有して使用しています。また、上記に示したパソコンの台数も、重複して計上しております。

(4) 情報教育の学習環境

情報教育環境整備では、学部・学科等で保有しているパソコンとは別に学生が利用できるコンピュータとして、IT ルーム等に約 250 台のパソコンを設置しています。すべての学生に、メールアドレスとともにユーザアカウントが配付され、電子メールや学内のコンピュータ、無線 LAN 等を利用できます。

キャンパス内には、インターネットを利用できる認証ネットワークのポートや無線 LAN のアクセスポイントが随所に設置されており、セキュリティに配慮した環境で、安全にインターネットが利用できます。

9. 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。

(1) 授業料等費用【経理チーム、施設環境チーム、学生・キャリア支援チーム、ファカルティ支援チーム】

徴収の種類	金額(単位:円)	納入時期・目的など
授業料	年間 535,800 (前期 267,900、後期 267,900)	口座振替 前期 4 月下旬,後期 10 月下旬 銀行振込 前期 5 月末日,後期 11 月末日
入学料	1 年生 282,000	銀行振込 入学手続き時
寄宿料		
国際学生宿舍寄宿料	1 ヶ月 4,700	毎月 20 日までに納付
小石川寮寄宿料	1 ヶ月 4,300	毎月 20 日までに納付
お茶大 SCC (Students Community Commons)	1 ヶ月 30,000	毎月 20 日までに納付

寮の諸経費 電気料、水道料、ガス料、消耗品等の費用	国際学生宿舎寄宿料 1ヶ月 平均9,000～15,000 小石川寮寄宿料 1ヶ月 平均9,000～11,000 お茶大 SCC 寄宿料 1ヶ月 平均3,000～5,000	毎月〇日までに納付 ○居室で使用する電気その他寮生の私生活のために使用する電気料金 ○補食室、洗面・洗濯室、浴室、便所で使用する水道料金 ○寮生の洗面、洗濯、入浴及び補食のために使用するガス料金		
教材購入費	学生の自己負担額（有無及び予算）	内 容 等		
文 教 育 学 部	人文科学科 哲学・倫理学・美術史コース 比較歴史学コース 地理学コース	調査研究費 40,000～60,000 調査研究費 40,000～60,000 教材実験実習費 8,000～24,000 調査旅行費 12,500～14,000 調査旅行費 50,000 調査旅行費 50,000～80,000 調査旅行費 10,000～20,000	日本倫理思想史研究「ゼミ旅行費」 日本美術史研修旅行 歩いて学ぶ比較歴史実習費 学科旅行費 歴史現地調査Ⅰ・Ⅱ 地理学フィールドワークA 地理学フィールドワークB	
	言語文化学科 日本語・日本文学コース 中国語圏言語文化コース 英語圏言語文化コース 仏語圏言語文化コース	調査旅行費 35,000～45,000 無 無 無	3年生研修旅行費	
	人間社会科学科 社会学コース 教育科学コース 心理学コース	無 調査旅行 10,000程度 調査旅行 1,000程度 無	教育実地研究旅費(1年次) 教育科学研究指導Ⅰ(3年次宿泊費補助有)	
	芸術・表現行動学科 舞踊教育学コース 音楽表現コース	調査旅行費 15,000 教材実験実習費(6種類) 18,970	スキー実習参加費 西洋音楽史,比較音楽文化論,作曲原論等	
	グローバル文化学環	教材実験実習費 5,000 調査旅行費 8,000 調査旅行費 80,000 調査旅行費 150,000	地域研究実習Ⅰ「4回、交通費・入場料」 平和構築論Ⅱ「ゼミ合宿費」 多文化交流実習ⅢⅣ 国際協力実習Ⅰ～Ⅲ(隔年)	
	理 学 部	数学科 物理学科 化学科 実験実習費 2,000 生物学科 情報科学科	無 無 調査旅行費 2,000 実験実習費 2,000 無 無	22年化学科研修会 化学専門課程実験実習科目(6科目18単位)
	生 活 科 学 部	食物栄養学科 人間・環境科学科 人間生活学科 発達臨床心理学講座 生活社会科学講座 生活文化学講座	無 無 教材実験実習費 500 調査旅行費 500 生活社会科学研究会費 2,000 教材実験実習費 500 調査旅行費 10,000	実習教材費 オリエンテーション(3年次のみ) 入会金2,000(初年度のみ) 生活文化実習費 民俗文化史演習ゼミ旅行費

博 士 前 期 課 程	比較社会文化学専攻		
	日本語日本文学コース	無	
	アジア言語文化学コース	無	
	英語圏言語文化学コース	無	
	仏語圏言語文化学コース	無	
	日本語教育コース	無	
	思想文化学コース	無	
	歴史文化学コース	教材実験実習費	歴史・地理特別演習(基礎)実習費
	生活文化学コース	無	
	舞踊・表現行動学コース	無	
音楽表現学コース	無		
博 士 後 期 課 程	人間発達科学専攻		
	教育科学コース	無	
	心理学コース	無	
	発達臨床心理学コース	無	
	応用社会学コース	無	
博 士 後 期 課 程	ジェンダー社会科学専攻		
	生活政策学コース	生活社会科学研究会費 2,000	入会費 2,000 (初年度のみ)
	地理環境学コース	調査旅行費 50,000~80,000	地理環境学講義実習
博 士 後 期 課 程	開発・ジェンダー論コース	調査旅行費 50,000 前後	アジア工科大学への派遣プログラム参加費
	ライフサイエンス専攻		
博 士 後 期 課 程	生命科学コース	無	
	人間・環境科学コース	無	
	食品栄養科学コース	無	
	遺伝カウンセリングコース	無	
	理学専攻		
博 士 後 期 課 程	数学コース	無	
	物理科学コース	無	
	化学・生物化学コース	無	
	情報科学コース	無	
	比較社会文化学専攻		
博 士 後 期 課 程	国際日本学領域	無	
	言語文化論領域	無	
	比較社会論領域	無	
	表象芸術論領域	無	
	人間発達科学専攻		
博 士 後 期 課 程	教育科学領域	無	
	心理学領域	無	
	発達臨床心理学領域	無	
	社会学・社会政策領域	無	
	保育・児童学領域	無	
博 士 後 期 課 程	ジェンダー学際研究専攻		
	ジェンダー論領域	調査旅行費 150,000	開発実践研究演習

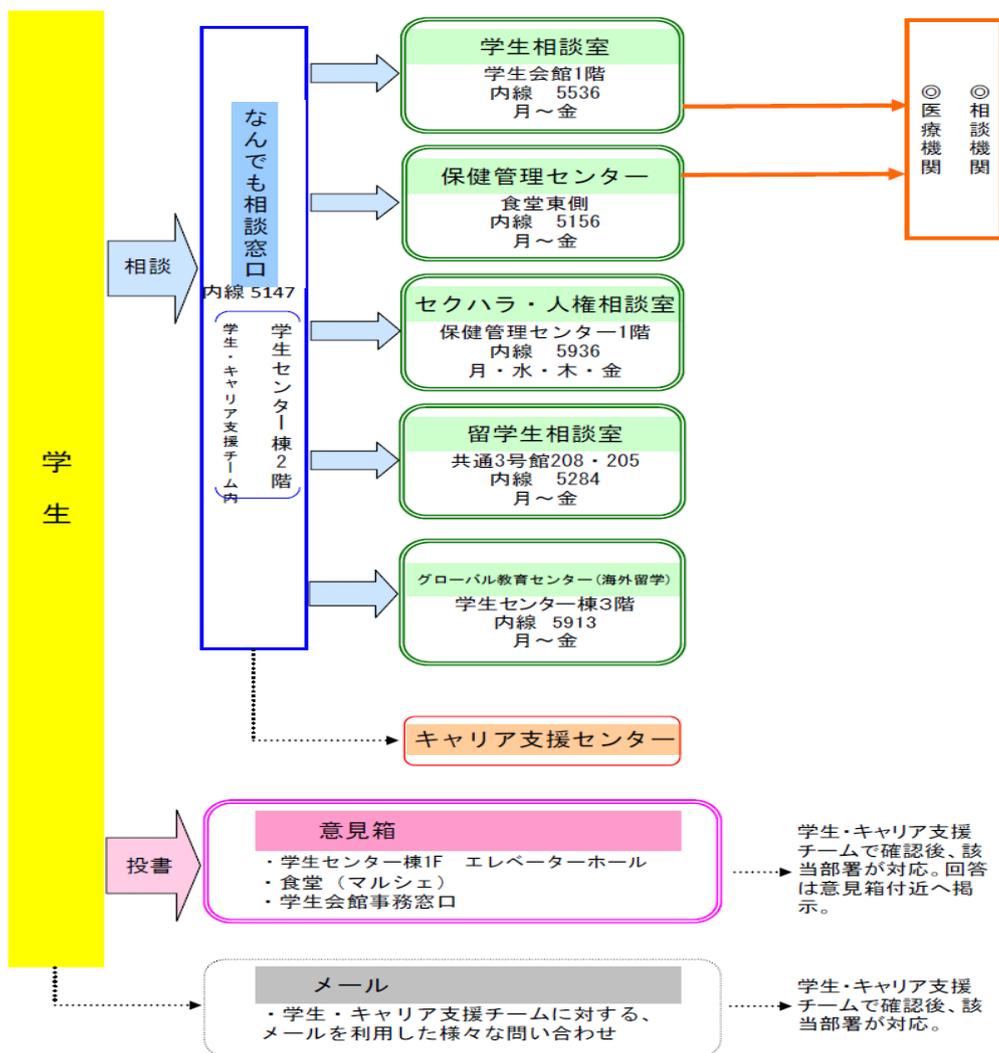
ライフサイエンス専攻		
生命科学領域	無	
人間・環境科学領域	無	
食品栄養科学領域	無	
遺伝カウンセリング領域	病院陪席実習費	66,400
遺伝カウンセリング論演習・遺伝カウンセリング実習		
理学専攻		
数学領域	無	
物理学領域	無	
化学・生物化学領域	無	
情報科学領域	無	
施設利用料等		
志賀高原体育運動場		
使用料(1人1泊)	学生及び職員	1,102(5/1~9/30)
"	"	1,365(10/1~4/30)
"	その他の者	1,942(5/1~9/30)
"	"	2,205(10/1~4/30)
入湯税(1人1泊)	全員	150
洗濯代(1人)	全員	420
食事代(1人2食)	全員	1,575 $\left(\begin{array}{l} \text{朝} \quad 525 \\ \text{夕} \quad 1,050 \end{array} \right)$
5日単位の料金		
館山野外教育施設		
使用料(1人1泊)	学生及び職員	420
"	その他の者	840
洗濯代(1人)	全員	1,050
5日単位の料金		
湾岸生物教育研究センター		
宿泊棟(1人1泊)	全員	840
実験実習室(1日1人)		315
和船(小型)	1h	840
施設使用申込のあったときに徴収		

(2) 利用できる授業料減免の概要【学生・キャリア支援チーム】

種 類	要 件	必 要 手 続 等
授業料免除(前期、後期)	<ul style="list-style-type: none"> ・成績が優秀かつ、経済的事情により授業料の納入が困難であること。 ・各家庭の家計状況及び、成績を評価し、免除可能者に対して授業料の全額又は半額の免除を行う。判定は学生委員会で行う。 	<p>前期分は3月、後期分は9月に申請を受け付けており、家族全員の住民票及び所得に関する証明書の提出が必要。また、成績証明書についても提出してもらう。</p>

10. 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。【担当：学生・キャリアT、国際交流T】
 (1) 学内の学生支援組織・就職支援、メンタルヘルス等学生生活に関わる組織と機能

<学生相談体制図>



(2) 利用できる奨学金の概要・奨学金の種類や要件、申し込み方法【担当：学生・キャリア支援チーム、国際交流チーム】

本学では、日本学生支援機構、地方公共団体及び民間奨学団体からの奨学金を取り扱っています。また、本学関係者等からの寄附金などによる本学独自の奨学金も用意されています。

① 日本学生支援機構奨学金

学業成績が優秀で経済的理由により学資支弁の困難な学生が対象となります。応募者に対し、学内で選考を行い、適格者を日本学生支援機構に推薦し、同機構が採択者を決定します。

また、外国人留学生については、下記の奨学金に申請することができます。

渡日前：協定校からの推薦に基づき大学から申請し、同機構が採択者を決定します。

- ・留学生交流支援制度（短期受入れ）（交換留学生）（平成23年度採用実績：2名）
- ・日韓大学生交流事業（交換留学生）（平成23年度採用実績：1名）

渡日後：正規課程在籍の私費留学生を対象として、大学から申請し、同機構が採択者を決定します。

- ・学習奨励費（平成23年度採用実績：17名）

② 地方公共団体及び民間奨学団体等の奨学金

奨学生の募集は、大学を通して募集するもの、奨学団体で直接に募集するものがあるため、出願希望者は、

学生・キャリア支援チーム、あるいは出身の都道府県や市区町村の教育委員会又は奨学団体に問い合わせたうえ、応募することとなります。本学に募集の依頼があった団体は、掲示板により周知しています。(平成 22 年度募集件数・・・地方公共団体 10 件、民間奨学団体 23 件)

また、外国人留学生については、事前に民間奨学金の登録を行い、要件・資格に応じて大学から申請します。(平成 23 年度採用実績：15 名) 個人応募の奨学金については、掲示及びメールにてその都度案内しています。

③ 本学独自の奨学金

本学卒業生及び関係者からの寄附などにより本学独自の奨学金を次表のとおり授与しています。

予約型奨学金、大学院生修学奨学金、育児支援奨学金については、希望者の応募により、審査委員会の議を経て学長が受賞者を決定することとしています。他の奨学金は、各研究分野において成績顕著な学生について、各学部等からの推薦に基づき、審査委員会の議を経て学長が決定することとしています。

なお、外国人留学生を対象とする奨学金は、池田摩耶子記念奨学基金(大学院生対象)及び池田重記念奨学基金(大学院生対象)です。

基金の名称		授与対象者	奨学金の額	人数	
全学	学部生	予約型奨学金	①日本の高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者 ②当該年度の4月に本学学部1年生に入学する予定で、本学に強入学を志望する者 ③成績、人物とも優秀で、大学進学において経済的支援が必要と認められる者 (①～③のすべてを満たす者)	1年目 300,000円 2年目 300,000円	25名
		学部生成績優秀者奨学金	学部1・2年次から引き続き在学する本学学部3年生(中途に休学期間がない者に限る。)のうち、1・2年次の成績、人物が特に優秀と認められた者	200,000円	25名
		桜蔭会奨学金	各学部より推薦された学部3年生	100,000円	(H22) 4名
	大学院生	大学院生修学奨学金	本学大学院に在籍し、経済的理由により修学が困難であり、学業成績優秀かつ将来が囑望される者のうち、寄附者が指定する課程等に在籍する者又は大学院修了後に教員等の職を強い志を持って目指す者	1,000,000円	(H22) 3名
		桜蔭会研究奨励賞	本学学部を卒業し、引き続き本学大学院博士前期課程に進学する者で、成績優秀かつ将来が囑望される者	200,000円	(H22) 5名
		大学院研究科奨学基金	本学大学院博士後期課程において研究に従事し、成績顕著な者	70,000円	(H22) 1名
		お茶の水女子大学120周年記念桜蔭会国際交流奨励賞	海外留学支援事業 本学大学院博士後期課程修了者又は在学生で、成績優秀かつ将来が囑望される者のうち海外研修を希望する者 アジア女性研究者支援事業 本学学生として留学後、アジアの各地域において研究者又は各界の指導者として活躍し来日研修を希望する者	2,000,000円を限度	(H21) 1名
	育児支援奨学金	本学の正規学生で本学が設置する保育所を利用する者	原則、保育料の半額	(H22) 16名	
	学科・専攻等	保井・黒田奨学基金	自然科学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	30,000円	(H22) 3名
		被服学奨学基金	被服学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	100,000円	(H22) 1名
食物学奨学基金		食物学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	100,000円	(H22) 2名	
家庭経営学奨学基金		家庭経営学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	100,000円	(H22) 1名	
池田摩耶子記念奨学基金		1. 本学大学院において国際的な研究に従事し、成績顕著な者	100,000円	(H22) 1名	
池田重記念奨学基金		2. 学部、大学院に私費で在学する外国人留学生で成績顕著な者	100,000円	(H20) 1名	
湯浅年子記念特別研究員奨学基金		本学出身者、在学する者又は附属高等学校出身者で、自然科学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	250,000円	(H22) 1名	
数学奨学基金		本学出身者又は本学大学院博士前期課程及び学部在学する者で、数学の成績顕著な者	100,000円	(H22) 1名	
生物学優秀学生賞奨学基金		本学学部及び大学院博士前期課程に在学する者で、生物学の成績顕著な者	20,000円	(H22) 1名	
グローバル文化学環奨学基金		本学文教育学部グローバル文化学環に卒業研究を提出した者で、研究の評価が顕著な者	10,000円	(H22) 1名	
化学科(宮島直美)奨学基金		本学理学部化学科に在学する者で、成績顕著な者	200,000円	(H22) 1名	

④ 国費奨学金

外国人留学生は、国費奨学金に申請することができます。

渡日前：協定校・大使館からの推薦に基づき大学から申請し、文部科学省が採択者を決定します。

- ・国費留学生(研究留学生)(大学推薦)(平成 22 年度採用実績：1 名)
- ・国費留学生(研究留学生)(大使館推薦)(平成 22 年度採用実績：7 名)
- ・国費留学生(日本語・日本文化研修留学生)(大学推薦)(平成 22 年度採用実績：2 名)
- ・国費留学生(日本語・日本文化研修留学生)(大使館推薦)(平成 22 年度採用実績：5 名)

渡日後：正規課程在籍の私費留学生を対象として、大学から申請し、文部科学省が採択者を決定します。

- ・国費留学生(国内採用)(平成 22 年度採用実績：1 名)

(3) 留学生支援、障害者支援など大学が取り組む様々な学生支援の状況【担当：国際交流チーム、学生・キャリア支援チーム】

① ピアサポートプログラム

ピア（peer）という言葉は、仲間という意味で、ピアサポートプログラムは学生同士の支援制度です。「先生や事務の方に聞きに行くほどの問題ではないけれども、先輩や友達だったら気楽に質問できる」ということで、重要な学生支援制度の一つです。

各学部及びグローバル教育センターでは、新入生が学業面や生活面で困らないように、コース・講座ごとに先輩サポーターが新入生の支援を行っています。

② 学資貸付制度

親元から送金が遅れたときや、病気になったとき及び事故にあったとき等、急にお金が必要になった場合学生に貸付する制度として、「学資貸付金」、「後援会学資等緊急貸付金」があります。

③ 博物館等の利用

本学では、国立科学博物館、東京国立博物館及び国立美術館の会員として登録していますので、本学の学生は学生証を提示することで、企画展については割引、常設展については無料で入館することができます。

④ 障がいのある学生支援を検討する部会の設置

障がいのある学生を支援するため、学生支援室と学生支援センターから5人のメンバーで専門部会を学生支援室のなかに設置し、当該学生に対しての支援体制を整えました。

⑤ 留学生相談室の設置、留学生懇親会・見学旅行の開催

留学生の日本語レポートの添削や学習・研究上、その他の相談のために大学院生チューターが平日勤務しています。留学生と日本人学生との交流を深めるための懇親会や日本文化理解のための見学旅行も催されます。

⑥ 留学生への個人チューター制度

留学生が日本で学生生活に早く慣れるよう、また、学習・研究効果をあげることを目的として専攻分野に関連のある本学の学生が指導教員のもとに個別に指導を行います。

⑦ 国際学生宿舎

国際学生宿舎では、留学生と日本人学生が生活を共にすることにより、日本語や日本の習慣を学ぶ事ができます。個室にはベッドや机などが備えられています。

1.1. 教育プロジェクト（特別経費等）実施事業

I. 学士課程教育における取り組み

1. 学生主体の新しい学士課程の創成（文部科学省特別経費プロジェクト 2010年度～）
 -21世紀型リベラルアーツと複数プログラム選択型専門教育-
 多角的な学士力養成を担う総合的学修支援（文部科学省 大学教育・学生支援推進事業【テーマA】）

本学における教育は、21世紀型リベラルアーツ（文系、理系の領域を横断した視野を獲得し、自在につかえる技を学ぶ）を基礎とした広い視野のもとに、創造性と実践性を備えた専門基礎力を持つ人間を育成する新たな学士課程教育である。自然・人文・社会領域の総合的理解を深める「文理融合 21世紀型リベラルアーツ」（LA、教養教育課程）の基盤の上に、学生主体の複数プログラム選択型専門教育課程を導入し、21世紀の社会に必要とされる教養と専門性を備え、自主自律の精神に富み、女性リーダーを育成する学士課程教育を構築する。具体的には、従来の学科、コースの専門性の枠内で閉鎖的に専門教育を実施するのではなく、学部学科等の教育組織を横断した複数プログラム選択履修制度を導入し、主プログラムと選択プログラムの組み合わせにより、学生個々の特性と志向性に応じた多様な可能性をもつ専門基礎力を育成するものである（図1）。

さらに、学生への効果的、確実な教育の質保証を推進するため、3つの一体運用（図2、3）を実施している。

- (1) 開講全科目にカラーコードベンチマークシステムの導入科目の授業水準を色分けによって科目履修を適正にガイドし、構造体系を感覚的にも把握できるようにしたこと。
- (2) ファンクショナル GPA 制度の導入による厳格な成績評価の実施と教育成果の質保証を明確にする仕組みの開発と運用優秀な成果をできるだけ適正に評価したことと、教育成果の質保証を確保するため、直接グレードポイントを算定するfGPA (functional Grade Point Average) を導入し、成績向上につなげること。
- (3) (1), (2)で生じる多様な学修のあり方を適切にガイドしていくきめ細やかな学修支援体制（組織+情報基盤）を整えたこと。

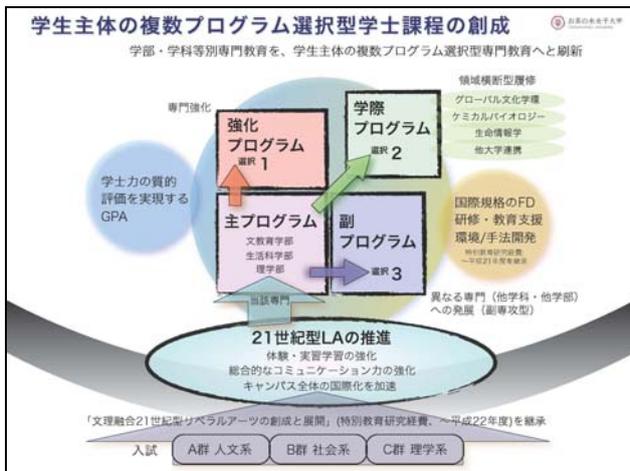


図1

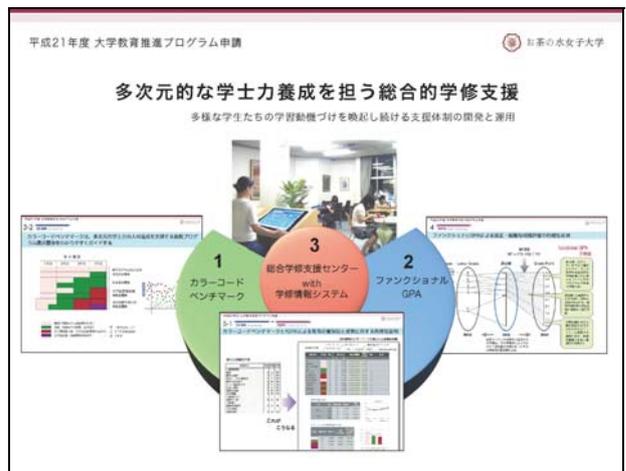


図2

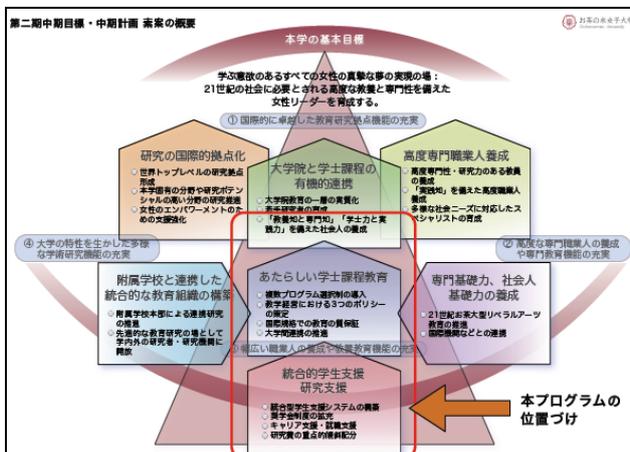


図3

詳細は

<http://www.ocha.ac.jp/nsep/>

(学生主体の新しい学士課程の創成)

<https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/CRDESite/GP.html>

(多角的な学士力養成を担う総合的学修支援)

2. 理系女性の意欲と個性に根ざした複線的教育 (文部科学省採択 理数学生応援プロジェクト 2009 年度～)

専攻分野の“理”に根ざす学びへの目的意識や意欲の触発、あるいは科学に対する広い視野の啓発のため、関連あるいは隣接分野の他学科の教員の下で学生が卒業研究を行える方策、学際的分野の副専攻の開設、複数プログラム選択履修制などにより、ひとりひとりの学生の個性と能力を伸ばす種々の取り組みを行う(図4)。

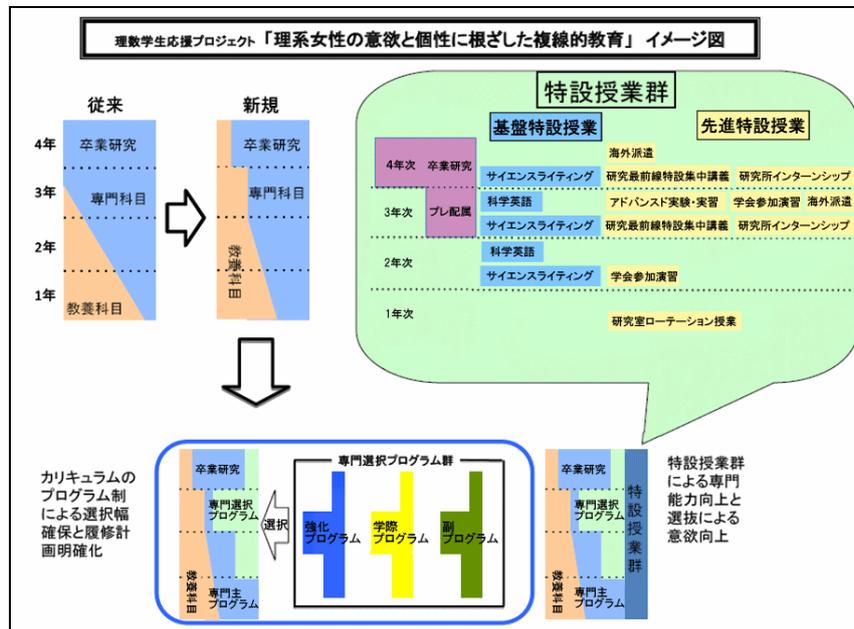


図 4

詳細は <http://www.sci.ocha.ac.jp/risuouen/> 理数学生応援プロジェクト 理系女性の意欲と個性に根ざした複線的教育

3. 統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証

(文部科学省特別経費プロジェクト 2010 年度～)

支援する側の視点から個別に展開されてきた、授業料減免施策、学寮施策、大学独自奨学金施策を見直し、被支援者である個々の学生ごとに、多様なニーズを把握し、きめ細やかで効果的な統合型学生支援システムを構築し、留学生支援の拡充も図る(図5)。具体的には、①学生支援カルテシステムの構築 ②新寮(「お茶大 SCC」(Students Community Commons)と学寮機能の整理 ③大学独自奨学金制度の設計 について計画実施。これにより、女子高等教育機会の均等化を図り、本学の教育機能の基盤を確保する。

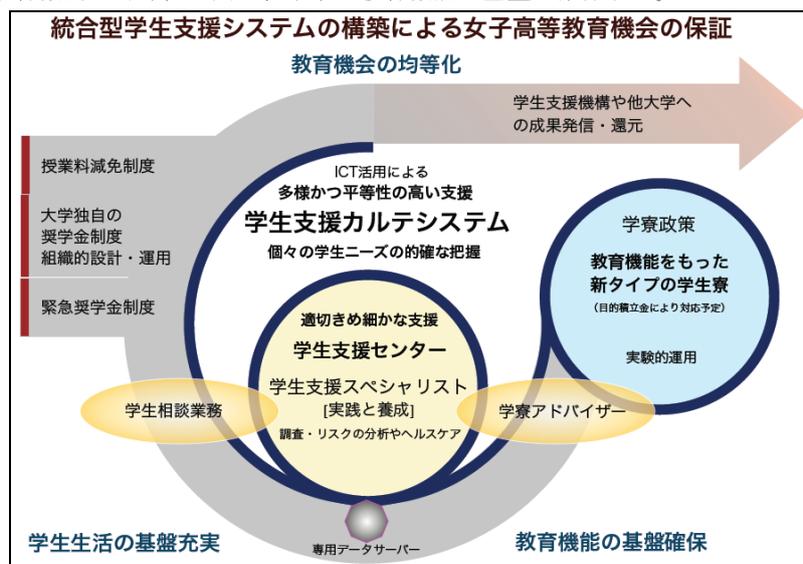


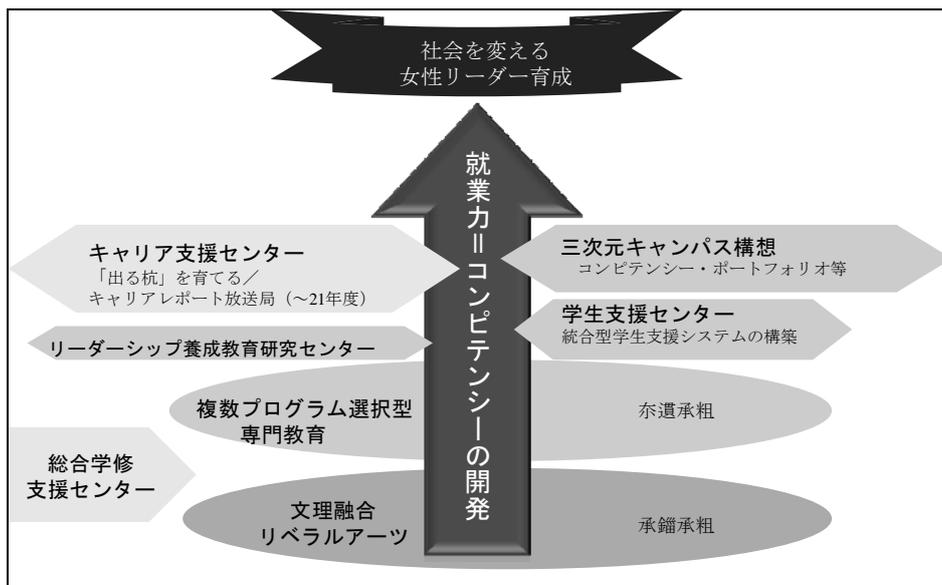
図 5

詳細は <http://www.ocha.ac.jp/gss/index.html> 統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保障

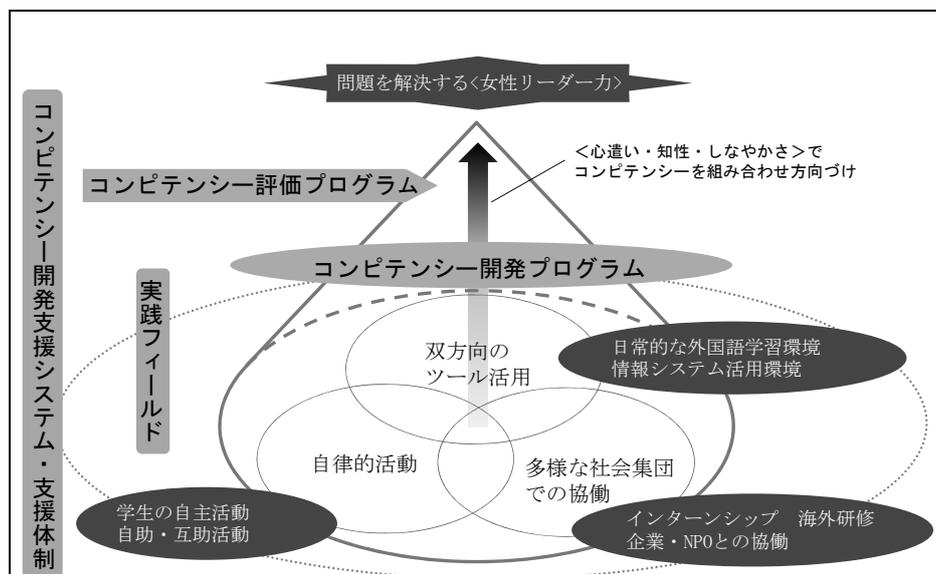
4. 女性リーダーのためのコンピテンシー開発 —自分で創る・仲間と伸ばすく社会を変えるリーダー力—
(文部科学省採択 大学生の就業力育成支援事業 2010年度～)

女性の地位向上をはじめとする社会的課題の解決に貢献する高度な就業力として発揮できるよう、高い就業力としての「女性リーダー力」をコンピテンシー（高いパフォーマンスを生むための包括的能力）の枠組みでとらえ、学生が主体的に、また仲間と協働してこれを伸ばせるしくみ（図6）と現代人に必要な基幹能力（キー・コンピテンシー）の概念枠組み作る。

これをもとに、＜双方向のツール活用＞＜自律的活動＞＜多様な社会集団での協働＞という3分野のコンピテンシーを身につけ、本学が女性リーダー力の核と考えてきた思考・行動特性＜心遣い・知性・しなやかさ＞により、学生自身の目的に応じて就業力を客観的基準ではかり自律的に向上させるための学修計画を立てられるようにする（図7）。



お茶の水女子大学におけるキャリア開発支援の全体像（図6）



コンピテンシー開発による問題解決型就業力育成（図7）

詳細は <http://www.cf.ocha.ac.jp/careerdesign/> 女性リーダーのためのコンピテンシー開発

II. 大学院課程教育における取組み

1. 多様な食育の場に対応可能な高度専門家の育成（文部科学省特別経費プロジェクト 2010年度～）

食育の高度化・多様化に対応し、日本発のSHOKUIKUを新しい概念として海外に発信していくために、従来の食育の枠を超えた学際的な幅広い教養をもち、多様な場やレベルに応じて科学的根拠に基づいた情報を、正しく発信できる高度専門家を育成する（図8）。

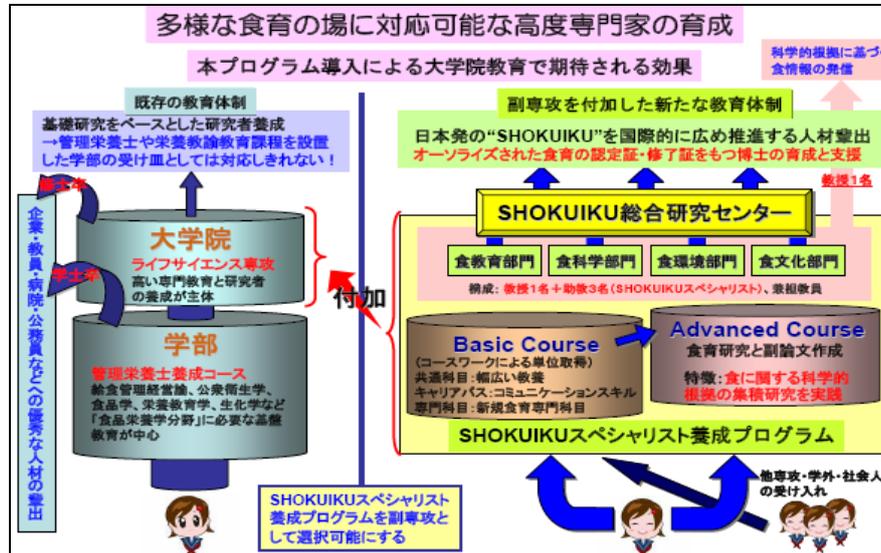


図8

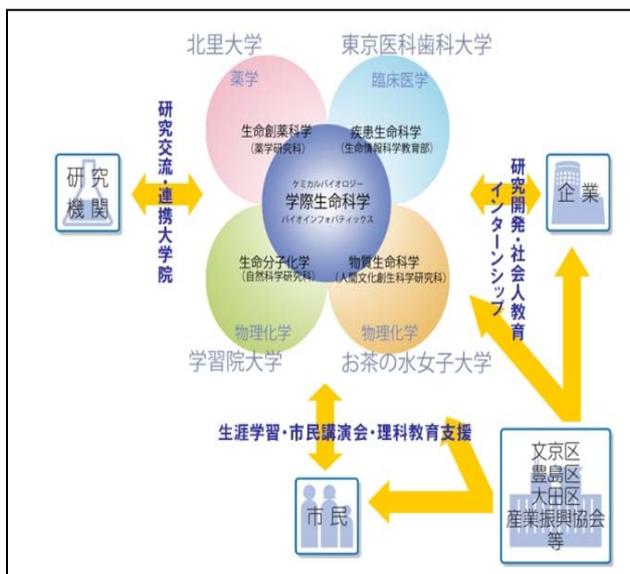
詳細は <http://www.cf.ocha.ac.jp/ochashoku/> 多様な食育の場に対応可能な高度専門家の育成
 （関連取組） <http://www.cf.ocha.ac.jp/shokuiku/index.html>

どもの発達・成長過程を見通した食育の実践と教育(2007年度～2009年度)

2. 学際生命科学東京コンソーシアムによる全人的大学院人材育成拠点の確立（2009年度～）

（文部科学省採択 戦略的大学連携支援事業〔東京医科歯科大学、北里大学、学習院大学連携事業〕）

学際生命科学の高度化において互いに補完的な特色を有し、東京の中心部に位置する四大学が中核となり、首都圏の様々な研究機関・企業・自治体と連携の輪を広げ、生命科学領域の産官学地域拠点を形成し、イノベーションの推進や人材育成に貢献する（図9, 10）。



コンソーシアムの連携スキーム（図9）



コンソーシアムの活動と目標（図10）

詳細は <http://cib.cf.ocha.ac.jp/CONS/> 学際生命科学東京コンソーシアム

3. 校風をつなぐ女性科学者の育成 第二のマリー・キュリーをめざせ (2008年度～)

(日本学術振興会採択 若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム【ITP】)

女性人材育成の土壌のある欧州研究機関に理学専攻の大学院生を派遣する。3つの段階を経て社会に羽ばたく「ホップ・ステップ・ジャンプモデル」を構築し、国際的視野をもつ女性研究者を育成する(図11, 12)。

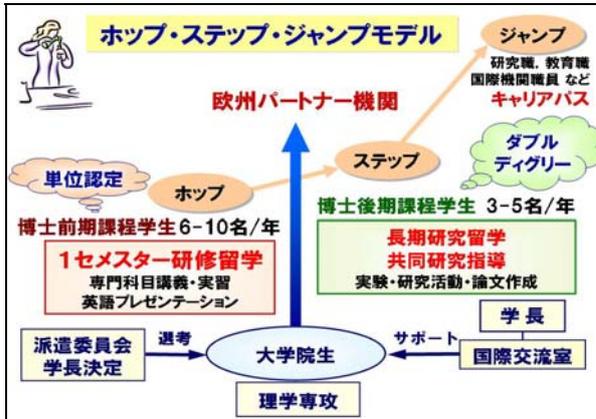


図 11



図 12

詳細は <http://www.dc.ocha.ac.jp/itp/index.html>

校風をつなぐ女性科学者の育成 第二のマリー・キュリーをめざせ

4. 『理学する心』を持つ小・中学校教員の指導者養成 (2009年度～)

(独立行政法人 科学技術振興機構採択 理数系教員(コア・サイエンス・ティーチャー)養成拠点構築事業)

理科が好きで得意な小学校教員と理学部出身の大学院生を、指導力と教材開発力に優れた小・中学校教員に育てることを目指す。科目には、小・中学校の接続を意識した理科と先端研究をつなぐ「CST理科教育法」、地域の教育資源を教材化するための「教材開発法」、夏休みの「自由研究指導法」、そして「教員研修実践論」を学び、「教職インターンシップ」で教育現場を体験学習する。これら科目全てに合格した受講者は、CSTと認定され、各市に設置する理数教育支援拠点とCST専属理科支援員を活用し、地域の理数教育を振興する(図13)。



図 13

詳細は <http://www.ocha.ac.jp/topics/h210928.html>

(NEWS&INFO>理数系教員養成拠点構築事業)

Ⅲ. 女性リーダー育成・学生支援

1. 女性リーダーを創出する国際拠点の形成 (文部科学省特別経費プロジェクト 2010年度～)

－ 国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実 －

本取組は、本学が実践してきた「女性リーダー育成プログラム」の成果を踏まえ、先進的学際的な分野を開拓する女性研究者を育成する国際的拠点形成を目的とする(図14)。そのために、以下の事業を実施する。

- (1) リーダーシップ教育の理論構築
- (2) 女性の能力を開発する国際的ネットワークの構築
- (3) 国際水準の女性研究者の育成システムの構築

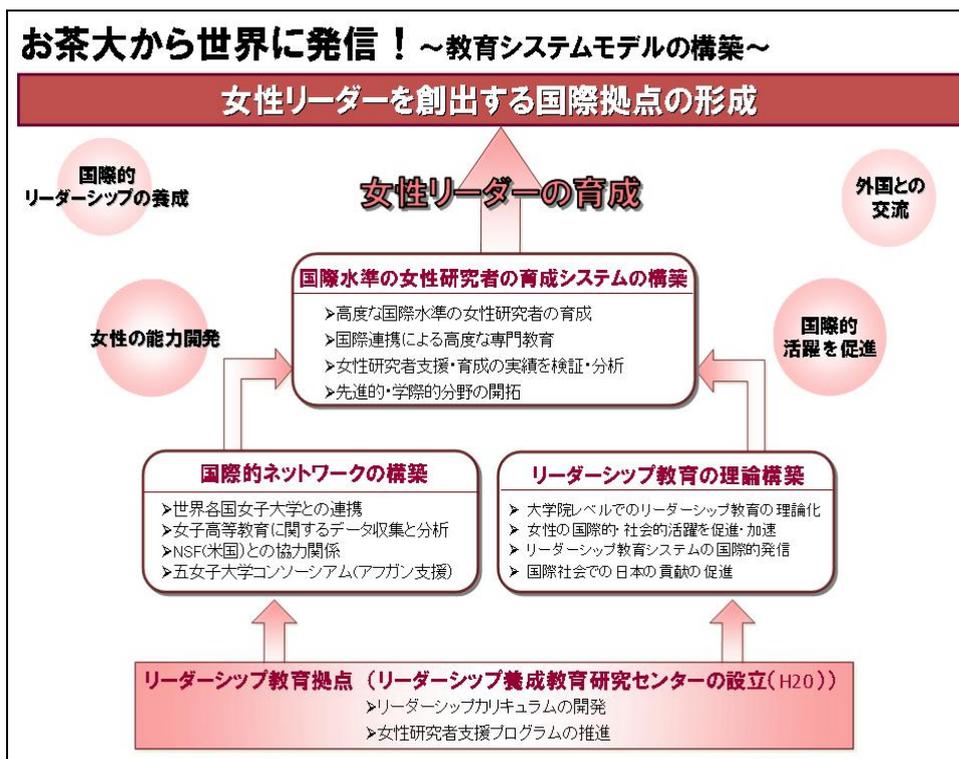


図 14

詳細は <http://www.cf.ocha.ac.jp/leader/index.html> 女性リーダーを創出する国際拠点の形成
 (関連取組) 女性リーダー育成プログラム (2006年度～2009年度)
 女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築(COSMOS) (2006年度～2008年度)

2. グローバル社会における平和構築のための大学間ネットワークの創成

－女性の役割を見据えた知の国際連携－ (文部科学省特別経費プロジェクト 2010年度～)

本取組では、グローバル社会における平和構築を目指して、先進国と開発途上国の大学、研究機関との国際的ネットワークを創成する。このネットワークは女性の役割を見据えた知的国際連携であり、アジア・中東・アフリカ地域における特に紛争後の国・地域における女性と子どものエンパワーメントを目指す。そのために、以下の事業を実施する(図16)。

- (1) 女性と子どもの支援に関する国際協力のための世界各地の(女子)大学とのネットワークの形成
- (2) 国際機関・国際NGOおよび援助機関の女性と子どもの支援に関するプロジェクトとの連携
- (3) 教員・学生(院生)との協力と交流、卒業生組織による女性と子どもへの国際協力活動
- (4) 平和構築に向けての国際協力人材育成のプログラム化と人材交流
- (5) 国際貢献(平和構築、女性支援、子ども支援分野)における日本の(女子)大学のリーダーシップ

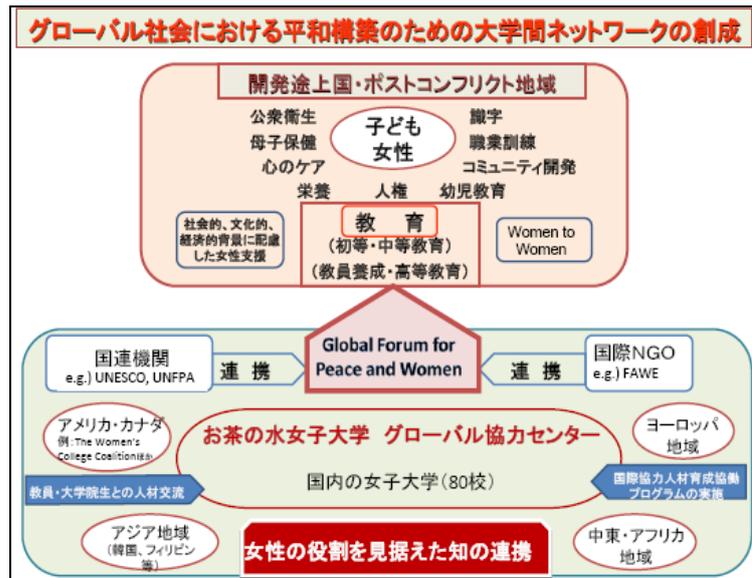


図 16

詳細は 準備中 グローバル社会における平和構築のための大学間ネットワークの創成
 (関連取組) → 五女子大学コンソーシアム(2006～2009年度), 国際協力人材育成(2006～2009年度)
 開発途上国における女子教育支援のモデルの構築(2002年度), 国際教育協力イニシアティブ(2006年度)

3. 「出る杭」を育てる ～企業で女性が輝くための学生支援～

(文部科学省採択 新たな社会ニーズに対応した学生支援プログラム 2008年度～)

大学入学後の早い時期から女性のライフスタイルを意識させることにより、企業への就職、さらに管理職への昇進をめざす学生への早期支援を行う(図17, 18)。そのために、次の事業を実施する。

OG就活(就職活動)ネットワークと就職アドバイザーによる企業と学生のマッチングを行い、女性のキャリアアップのモデルを築く。さらに、働く力の証明となる「就活パスポート」を大学が発行し、企業とタイアップしてキャリア・セミナーを開講して働き続ける力、さらに管理職に必要な意識と実行力を養成する。これらにより、将来、指導的な地位で活躍する活力ある女性(出る杭)を社会に送り出す。

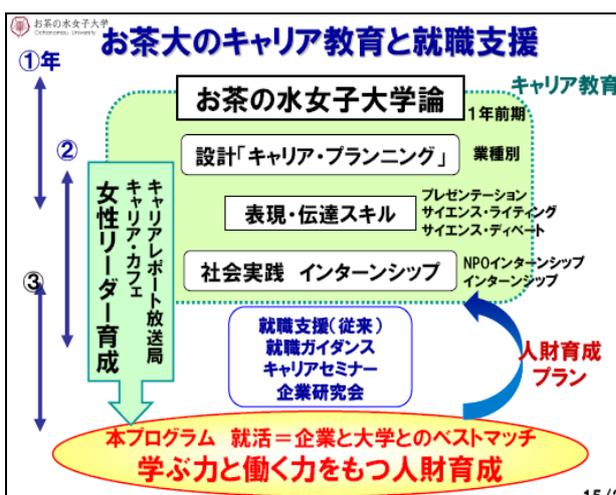


図 17

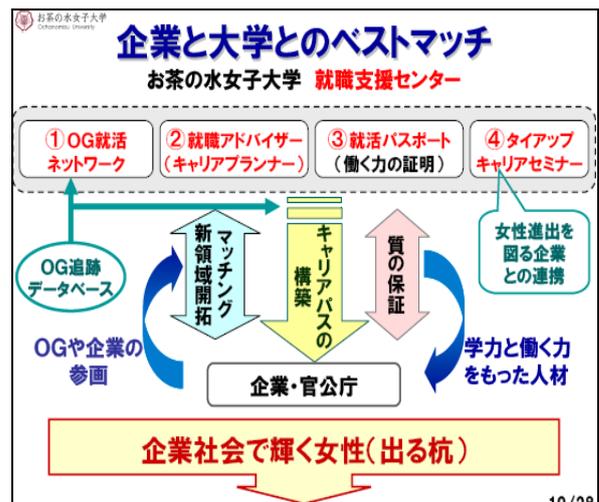


図 18

詳細は <http://www.ocha.ac.jp/topics/h200716.html>

「出る杭」を育てる～企業で女性が輝くための学生支援～

IV. 教育モデル開発

1. 附属学校園を活用した新たな学校教育制度設計に係る調査研究（文部科学省特別経費プロジェクト）

－高度専門的研究力を持つ教員養成・現職研修システムの構築と幼小接続期の新学校制度開発－（2010年度～）

幼児/児童の「探究力・活用力」育成を目的とする新たな学校制度と教育課程を検討・開発するとともに、附属学校園を活用して「コア・ティーチャー」となる大学院生を育成し、教員の研究＝探究力形成を促す教員養成・現職教員研修システムを開発・普及する（図19）。

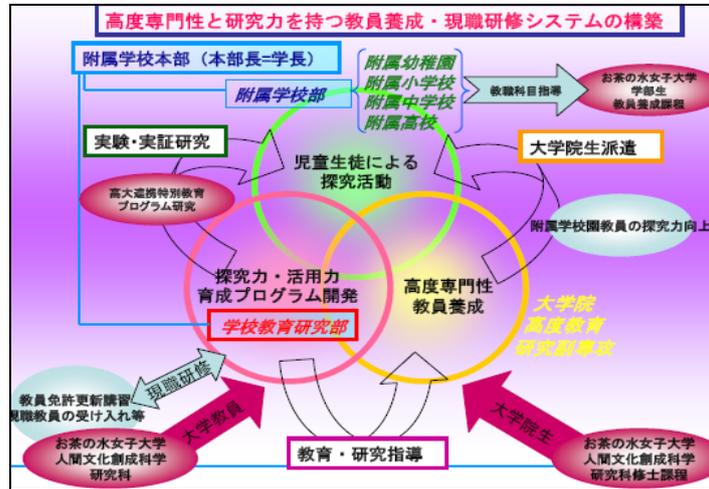


図 19

詳細は <http://www.cf.ocha.ac.jp/sesd/> 附属学校園を活用した新たな学校教育制度設計に係る調査研究

2. 乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築（文部科学省特別経費プロジェクト2010年度～）

乳幼児教育に関心を持つ女性・社会人の学び直しの場を、教員養成・乳幼児教育における本学のリソースと連携しつつ新たに構築し、ケア的資質と戦略的子育て支援力のある人材の社会還元モデルを発信する（図20）。

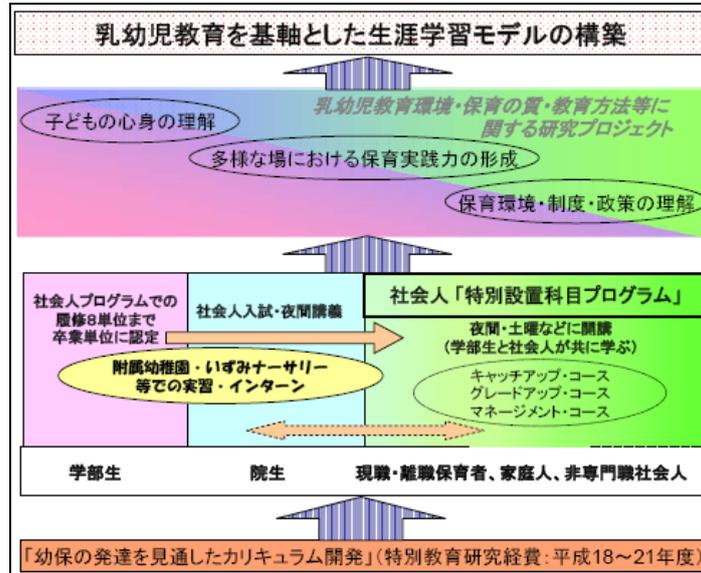


図 20

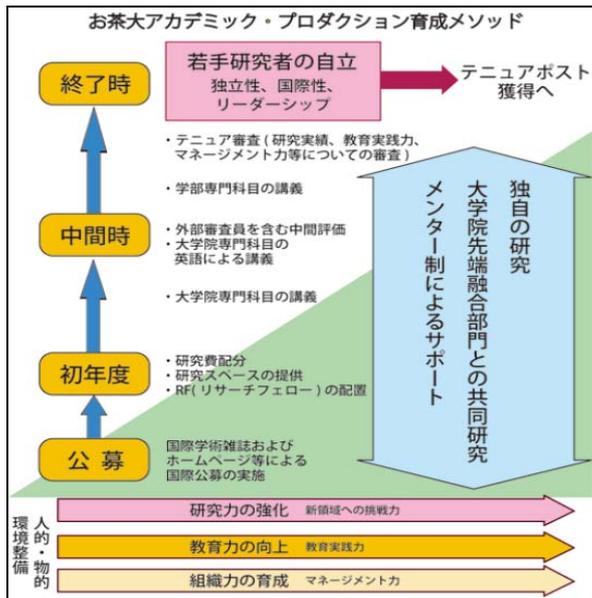
詳細は <http://www.cf.ocha.ac.jp/nyuyoji/index.html> 乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築（関連取組）→ 幼・保の発達を見通したカリキュラム開発（2006年度～2009年度）

V. 若手研究者育成取り組み

1. 挑戦する研究力と組織力を備えた若手育成

(科学技術振興機構, 科学技術振興調整費プロジェクト 若手研究者の自立的な研究環境整備促進 2007年度～)

平成19年度より、先端分野で国際的に活躍する若手研究者を育成するプログラムを開始しました。このプログラムは、優れた若手研究者を自立的な環境のもとで育成し、わが国の国際競争力とステイタスを高めることを意図している。また、本学で学んだ博士学位取得者は、大学や研究所でユニークなポストに就き、これまでも国内外の女性研究者・教員の増加に貢献してきた。そこで、この実績をもとに、先端的な研究分野で国際的に活躍しうる若手研究者を育成し、国際競争力の強化のための人材システム改革モデルを提案する(図21)。



詳細は

<http://www.cf.ocha.ac.jp/acpro/index.html>

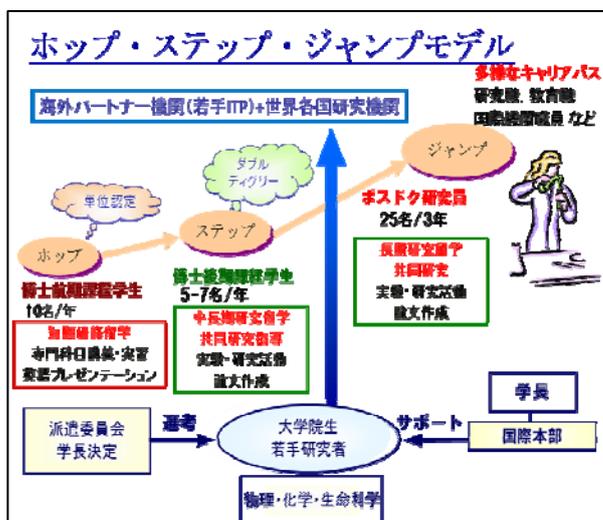
(挑戦する研究力と組織力を備えた若手育成)

図 21

2. 国際水準の女性科学者の育成—お茶大型ホップ・ステップ・ジャンプモデル

(日本学術振興会 研究者海外派遣基金助成金【組織的な若手研究者等海外派遣プログラム】 2010年度～)

指導的女性・女性研究者の育成をすること、及び国際交流を通じて国際的に認知される高度な水準の研究を行うことができる女性科学者の育成に取り組んでいる。対象として、ポストドク研究員や若手研究者に対する研究留学の機会を与え、海外で研究できる資源の幅を広げることで研究能力の向上が図られ、多様なキャリアパスへとつながることが国際水準の育成を加速する(図22)。



詳細は 準備中

国際水準の女性科学者の育成—お茶大型ホップ・ステップ・ジャンプモデル

図 22

